

年報

令和 7 年度（2025 年度）



公立大学法人

大分県立看護科学大学

Oita University of Nursing and Health Sciences

2025 年度の年報発行にあたって

大分県立看護科学大学

理事長・学長 麻原きよみ

2025（R7）年度の年報が発行されました。2025（R7）年度を振り返ってみますと、2023（R5）年度に低下した一般試験の出願倍率が入試改革により、2024（R6）年度は 5.6 倍と飛躍的に上昇したことから、2025（R7）年度は 3.4 倍と減少しました。本学の教育につきましては、2026（R8）年度に大学院博士後期課程に DNP コースを開設するために、カリキュラムの作成、入学者選抜等を行いました。学部では、国際看護学修プログラムの準備を進め、2026（R8）年度から本格実施いたします。大学運営では、本学の開学以来の歴史等を踏まえ MVV（ミッション・ビジョン・バリュー）を策定し、学生および教職員で共有し、あらゆる広報の場で明示しています。このように 2025（R7）年度は、本学の将来に向けた事業展開を推進した年ではないかと思います。

大学評価には、公立大学法人評価、学校教育法で定められた機関別認証評価と義務ではありませんが分野別評価があります。このうち機関別認証評価は、2025（R7）年 2 月 21 日の中央教育審議会「我が国の『知の総和』向上の未来像～高等教育システムの再構築～（答申）（中教審第 255 号）」で示された新たな認証評価制度に今後変更されます。本学では、新たな認証評価に関する情報を収集し、2028（R10）年度から開始する本学の学部新カリキュラムへの適用の検討を継続しています。大学評価にはもう一つ、大学自身が行う教育研究、社会貢献、運営に関する自己点検・評価があり、これがこの年報に当たります。今年度、自己点検・評価委員会では、年報の内容を見直し、2025（R7）年度の年報においては、授業内容および研究室活動を削除し、各事業の PDCA サイクルが読み手にわかるような記載に修正いたしました。

2025（R7）年度の年報をお読みいただき、忌憚のないご意見、ご指導賜りたくどうぞよろしくお願い申し上げます。

2025 年度

大分県立看護科学大学

トピックス

役員の交代

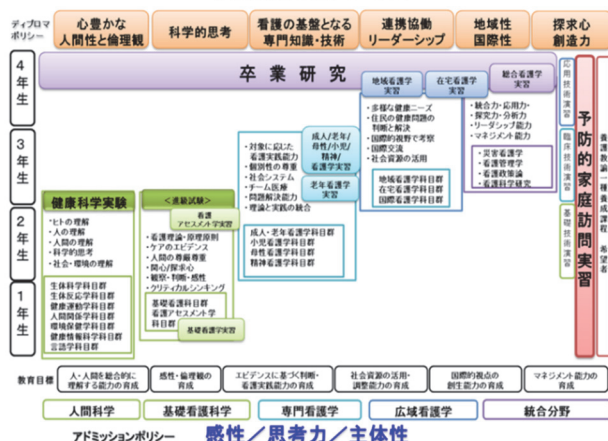
経営審議会委員の大戸朋子氏（前・大分県看護協会会長、写真左下）、監事の福田安孝氏（公認会計士、写真右下）、理事・経営審議会委員・事務局長の阿部剛氏が退任し、後任として、それぞれ玉井保子氏（大分県看護協会会長）、村松政幸氏（公認会計士）、渡邊康弘氏（県庁）が着任しました。



学部の新カリを検討開始

令和 10 年度から導入される看護学部の新カリキュラムについて、学長・学部長が中心となり、全学を上げて検討し始めました。

学部教育のカリキュラム



博士課程後期 DNP コースの入試を実施

大学院博士後期課程 DNP コースを定員 2 名で募集したところ、7 名が受験し、3 名が合格しました。国公立大学では日本初となる DNP 教育が 4 月から始まります。



ミッション、ビジョン、バリューを策定・公表

本学の MVV（ミッション、ビジョン、バリュー）が決定し、公表しました。中心に描かれた楕円は「目」を、下方の両手は「手」を表し、看護の要である「看（＝手と目）」を象徴しています。

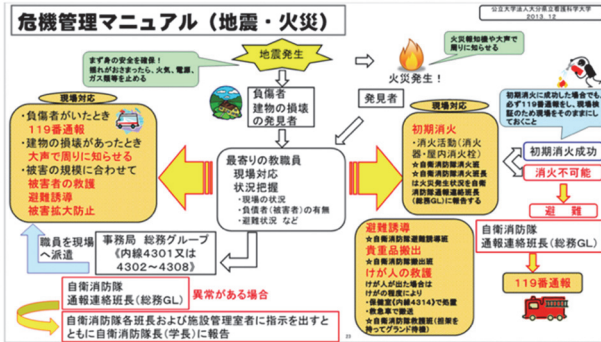
人と社会の“Well-Beingな未来”をともに拓く

Enjoy Challenges! Encourage Innovation!



危機管理マニュアルを改訂

危機対応 TG（リーダー：関根剛教授）を設置して、学内リスク調査を行い、令和元年度の危機対応マニュアルに、住民対策、中長期対策、対策項目の追加・拡充を行い、学内資源調査、BCP 等、関連するマニュアル類を集約し、電子化しました。



看護国際フォーラムを開催

第 27 回看護国際フォーラム「求められる変革をどう実現するかエビデンスを現場に実装する DNP への期待」を大分県看護協会との共催で 10 月 25 日（土）にオンラインで開催しました。



教職員に学長賞を授与

阿部剛事務局長（危機管理、写真左上）、小野逸郎財務グループ主幹（財務、中央上）、関根剛教授（危機管理、右上）、定金香里准教授（看護科学研究、左下）、甲斐博美講師（NP 教育、中央下）、篠原彩学内講師（地域貢献、写真右）の功績が認められ、学長賞が授与されました（カッコ内は功績内容）。



大学院 NP コース学生に学長賞を授与

今年の佐賀関大規模火災の際、現地で実習をしていた大学院 NP コースの学生 4 名が避難所で自主的に救護活動を行ったことが高く評価され、新聞等に掲載されたことから、3 月 18 日の卒業式・修了式でこの 4 名に学長賞を授与しました。この授与式の模様は、各種メディアで紹介されました。



国際看護学修プログラムを開始

国際看護学研究室は「世界に通じる看護力」を育むことを目的とした国際看護学修プログラムを開始することになりました。学生は講義で基礎を学び、4 年次の海外研修で多様な文化や価値観を理解し、看護に活かします。今年度は、次年度オーストラリア/カナダで研修を受ける 4 年生を選抜しました。



博士学位を 4 名に授与

今年度は 4 名に博士学位を授与し、これにより開学依頼の博士授与数は 44 名となりました。博士学位取得率は 8 割を超えています。



2025 年度年報・目次

巻頭言

トピックス

1. 学内行事	1
2. 入学試験等	5
3. 学生の状況と進路	14
4. 研究助成・事業助成等	21
5. 研究業績	28
6. 社会貢献	47
7. 教学・事務組織	68
8. 名簿	107

1 学内行事

1-1 学年歴

令和7年度 学 年 暦

4月

- 8 入学式
- 9 学部オリエンテーション
- 10 新入生オリエンテーション
- 10 一学期授業開始（2～4年次生）
- 9～18 履修登録
- 11 一学期授業開始（1年次生）
- 16 防災訓練
- 16 予防的家庭訪問実習開始
- 22.23 健康診断

5月

- 12～6/6 在宅看護学実習，地域看護学実習（4年次生）
- 17.18 若葉祭

6月

- 19 開学記念日
- 16～27 総合看護学実習（4年次生）

7月

- 9 キャンパスクリーンデー
- 12 オープンキャンパス
- 16 夏期休業開始
- 16 大学院特別選抜試験
- 22～31 小児看護学（保育所）実習（3年次生）

8月

- 22 大学院入学試験
- 29～11/21 老年看護学実習，成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ，小児看護学実習，母性看護学実習，精神看護学実習（3年次生）

9月

- 2 夏期休業終了
- 3 二学期授業開始
- 20 公開講座

10月

- 25 看護国際フォーラム

11月

- 20 卒業研究論文要旨提出締切（4年次生）
- 22 学校推薦型選抜試験および社会人選抜試験
- 28 卒業研究論文提出締切（4年次生）

12月

- 1 三学期授業開始
- 1.2 卒業研究発表会
- 8～22 看護アセスメント学実習（2年次生）
- 24 冬期休業開始

1月

- 7 冬期休業終了
- 17.18 大学入学共通テスト
- 19～30 基礎看護学実習（1年次生）

2月

- 未定 看護師国家試験
- 25 一般選抜試験（前期）および私費外国人留学生選抜試験
- 26 進級試験（2年次生）
- 28 三学期授業終了

3月

- 1 春期休業開始
- 12 一般選抜試験（後期）
- 18 卒業式・修了式

1-2 オープンキャンパス

7月12日（土）に、午前と午後の2部構成で開催した。内容は、学長挨拶、大学紹介、入試概要説明、在校生による合格体験談・メッセージ、本学教員による模擬授業、研究室ごとの体験企画、進学相談、大学・研究室紹介パネル展示である。開催に先立ち、オープンキャンパスの案内を大学ホームページおよびInstagram 広告に出稿し、広報活動を行った。当日は、午前の部に高校生173名・保護者135名、午後の部に高校生92名・保護者70名が参加し、合計470名となった。昨年度（444名（高校生274名・保護者170名））と比較して約30名の増加であった。参加者からは、「合格体験談」や「在校生メッセージ」が進路選択の参考になったという意見が多く寄せられた。また、約40名の在學生に協力を依頼し、学生によるツアーガイドを実施した。参加者は在學生との交流を通して、本学の魅力や大学生活を具体的にイメージできた様子であった。

来年度は、今年度好評であったプログラムを継続するとともに、当日参加できない方に向けてキャンパスツアーを随時実施していることを、大学ホームページやSNS（Facebook、Instagram、LINE）を通じて積極的に周知していく予定である。

1-3 看護国際フォーラム

第27回看護国際フォーラムを10月25日（土）に大分県看護協会と共催でZoom ウェビナーで開催した。テーマを「求められる変革をどう実現するか ―エビデンスを現場に実装するDNPへの期待―」とし、米国から1名の講師が録画プレゼンテーション、国内から麻原きよみ学長を含めた3名の講師がライブプレゼンテーションをした。講演後の総合討論には、国内講師2名がライブ参加し、活発な質疑と討論が行われた。今年度は初めてオンデマンド配信を行った。参加者は当日参加およびオンデマンド配信視聴含めのべ389名と大盛況であり、参加者背景は高校生、診療看護師や看護管理者を含む看護職、教員の他、企業からの参加もあった。参加者アンケートの結果では講演内容・総合討論の満足度は、それぞれ97.5%、90.2%であり、全体として参加者の満足度は高かった。

1-4 国際交流

MOU 締結校である韓国の蔚山大学およびインドネシアのムハマディア大学と以下の国際交流を実施した。

1) 韓国の蔚山大学校医科大学看護過程学生受入れと交流

蔚山大学から学部生8名と同行教員2名を7月14日から7月18日までの5日間受入れ、県内3カ所の施設訪問や学内での学生交流を実施した。学内交流では、2年次生43名が参加した。日本の文化や看護教育についてプレゼンテーションする企画を立て、事前学習・事前準備を行い当日の交流に臨んだ。実施後の蔚山大学学生へのアンケートでは、施設見学や学生との交流について、全員が「満足」と

回答していた。

2) 蔚山大学校医科大学への本学学生派遣と交流

4月～5月に学部2・3・4年次生から派遣希望者を募集し、8名を選出した。8月18日から8月22日までの5日間、本学の学部2年次生2名、3年次生3名、4年次生3名の計生8名が同行教員2名と共に韓国の蔚山大学校医科大学看護学部を訪問した。現地では大学での講義や周辺地域の施設見学等に参加し、プログラム全体を通しての経験について、全員が「満足」と回答した。参加学生は学生交流プログラムの目的、および派遣前に学生自身が立てた目標を達成できた。

3) インドネシアのムハマディア大学とのオンライン学生交流

インドネシア ジョグジャカルタにあるムハマディア大学と、国際交流の一環として国際看護学演習の授業時間を活用し、8月27日（水）にオンライン学生交流を実施した。本学から2年次生38名、UMYから59名が参加し、双方の大学で2名ずつのペア、4名ずつのグループに分かれてオンライン交流に臨んだ。互いの文化や看護について学ぶ貴重な機会となった。

1-5 若葉祭

5月17日、18日に第25回若葉祭、テーマ「Re: Create」を開催した。若葉祭実行委員会と運営系の学生を中心に、イベントや模擬店の出店などが行われ、約500人の地域の方々の参加があった。また、普段予防的家庭訪問実習でお世話になっている地域住民の方がステージイベントに出演したり、実習施設のスタッフや利用者の方々がブースを出展したり等、地域との交流を促進するイベントとなった。

1-6 公開講座

9月20日（土）に、対面（大分県立看護科学大学23講義室）およびオンラインの同時開催にて実施した。今年度のテーマは「災害時に家族に寄り添う看護師の支援活動」とし、本学看護アセスメント学研究室教授の石田佳代子氏が「災害時における多数傷病者発生時の医療活動について」、済生会熊本病院看護主任（クリティカルケア認定看護師・日本DMAT）の南和恵氏が「DMAT活動において家族に対応した事例」、京都第一赤十字病院看護師長（日本赤十字社こころのケア指導者・一般社団法人日本DMORT（災害死亡者家族支援チーム）理事）の河野智子氏が「災害時における家族への支援活動の実際」について、それぞれ講演を行なった。告知用チラシは、県内の高等学校・大学専門学校・病院や各種施設等に配布した。参加者の年代は10代から60代以上と幅広く、職業も医療従事者に限らず、高校生、大学教職員など様々で、総勢90名の参加があった。終了後のアンケートでは、「大変良かった」「良かった」が合わせて100%と高い評価が得られた。参加理由は「テーマに興味があったから」が最も多く89%であり、情報源は「大学からの案内」、「チラシ」、「本学のHP」、「知人・友人からの紹介」の4つで約7割を占めた。今後の開催方法については、対面希望とオンライン希望がそれぞれ

れ 50% 以上と多かったため、次年度も対面とオンラインの同時開催を計画する。また、大分県民の関心が高いテーマを選定して開催できるよう企画していく。

1-7 アニュアルミーティング

アニュアルミーティングは、教員同士が互いの研究内容を把握するとともに、研究活動に必要なスキルを高める機会である。学内競争的研究費を獲得した全教員および過去 3 年間アニュアルミーティングでの発表がない助教以上の教員には、発表が義務付けられている。

今年度は3月6日（金）13:00～14:30 に開催した。発表演題数は 19 演題（学内競争的研究費応募者による発表 13 題・一般演題 6 題）、参加者数は発表者 19 名を含め 47 名であった。発表要旨集は図書館に所蔵している。

今年度はポストコロナを踏まえ、カレッジホールにおいてポスター発表と質疑応答を併用する形式を採用した。発表全体を 2 群に分け、各群の発表および質疑応答の持ち時間をそれぞれ 40 分とした。スケジュールは、1 月上旬に教員全体アナウンスと併せて発表予定者へ日程を提示、1 月末に演題登録を締め切り、2 月上旬に発表要領を通知し、2 月末を要旨提出の締め切りとした。

当日は各群とも活発なディスカッションが展開された。講評についてはディスカッションが十分に機能していることから、今年度より割愛した。また、開催時間を更に短くして欲しいという意見も会場から聞かれた。次年度も対面形式での実施を予定しており、より円滑な進行に向けて、日程および前後の進行管理のあり方を引き続き検討する。

2 入学試験等

2-1 学部入試

令和8年度入学試験の選抜区分及び募集人員、入学者選抜試験結果の概略は次表のとおりである。

選抜の区分及び募集人数

学部	学科	入学定員	募集人員				
			学校推薦型選抜	一般選抜			
				前期日程	後期日程	社会人	私費外国人留学生
看護学部	看護学科	80人	30人	40人	10人	注1) 若干名	注2) 若干名

注1) 一般選抜（社会人）の「若干名」は学校推薦型選抜の30人に含める。

注2) 一般選抜（私費外国人留学生）の募集人員「若干名」は一般選抜（前期日程）の40人に含める。

入学者選抜試験結果の概略

（単位：人、倍、％）

区 分		志願者	受験者	合格者	競争率	入学者		
						計	県内（率）	男性（率）
学校推薦型選抜		76	76	30	2.5	30	30（100.0）	1（3.3）
一般選抜	前期日程	103	97	47	2.1	43	25（58.1）	2（4.7）
	後期日程	96	38	11	3.5	11	4（36.4）	1（9.1）
	社会人	0	0	0	—	0	—	—
	私費外国人留学生	0	0	0	—	0	—	—
	計	199	135	58	2.3	54	29（53.7）	3（5.6）
合 計		275	211	88	2.4	84	59（70.2）	4（4.8）

試験教科等

区 分		教科	試験期日	出願期間
学校推薦型選抜			令和7年11月22日（土）	令和7年11月1日（土）～11月7日（金）
一般選抜	前期日程	小論文 面接	令和8年2月25日（水）	令和8年1月26日（月）～2月4日（水）
	後期日程		令和8年3月12日（木）	
	社会人		令和7年11月22日（土）	令和7年11月1日（土）～11月7日（金）
	私費外国人留学生		令和8年2月25日（水）	令和8年1月26日（月）～2月4日（水）

2-1-1 学校推薦型選抜

大分県内の高等学校卒業見込者の中から、各高等学校長が推薦した生徒を対象に、「小論文」と「面接」により実施した。試験の配点は下表の通りである。

区分	小論文	面接等	計
学校推薦型選抜	200	50 注1) 段階評価を行い、評価が一定基準に達しない者は不合格とする	250

注1) 面接等 50 点に、出願書類（活動報告書）の評価点 20 点を含む。

2-1-2 一般選抜（社会人）

社会人としての実体験から看護学への強いモチベーションを持った学生を確保することにより教育・研究への活性化を図るため、また、生涯学習の要請に対応するため、社会人の選抜区分を設けているが、志願者はなかった。

年齢が満 24 歳以上で、社会人の経験を 3 年以上有し、大学入学資格を有する者を対象に、「小論文」と「面接」を試験科目とし、試験の配点は下表の通りである。

区分	小論文	面接等	計
一般選抜 (社会人)	200	40 得点が配点の 50%以下の者は、総合点にかかわらず不合格とする	240

2-1-3 一般選抜（私費外国人留学生）

日本国籍を有しない者であって、所定の要件を満たした在留資格を有する者に対して、私費外国人留学生の選抜区分を設けているが、志願者はなかった。

「小論文」と「面接」を試験科目とし、試験の配点は下表の通りである。

区分	小論文	面接等	計
一般選抜 (私費外国人留学生)	200	段階評価を行い、評価が一定基準に達しない者は不合格とする	200

2-1-4 一般選抜（前期日程）

令和 8 年度大学入学共通テストで本学が指定する教科・科目（下表参照）を受験した者について、「小論文」と「面接」により試験を実施した。

教科	科目		教科・科目数
国語	『国語』	1 科目	5 教科 6 科目 または 6 教科 6 科目
地理歴史	『地理総合，地理探究』 『歴史総合，日本史探究』 『歴史総合，世界史探究』 『地理総合／歴史総合／公共』	左記科目から 1 科目 2 科目を受験した場合は、いずれか 高得点の科目を合否判定に利用	
公民	『公共，倫理』 『公共，政治・経済』		
数学	『数学Ⅰ，数学A』 『数学Ⅱ，数学B，数学C』	左記科目から 2 科目	
情報	『情報Ⅰ』	3 科目を受験した場合は、高得点の 上位 2 科目を合否判定に利用	
理科	『物理基礎／化学基礎／ 生物基礎／地学基礎』 『物理』 『化学』 『生物』 『地学』	左記科目から 1 科目 2 科目を受験した場合は、いずれか 高得点の科目を合否判定に利用	
外国語	『英語』	1 科目	

本学で実施する個別試験を含んだ配点は下表の通りである。

試験区分	国語	地理歴史 ・ 公民	数学 ・ 情報	理科	外国語	小論文	面接	合計
大学入学 共通テスト	100 注 1)	50 注 2)	100 注 3)	100	200 注 4)	—	—	550
個別試験	—	—	—	—	—	200	30	230
計	100	50	100	100	200	200	30	780

注 1) 「国語」100 点は、200 点に 0.5 を乗じた値とする。

注 2) 「地理歴史」「公民」50 点は、1 科目 100 点に 0.5 を乗じた値とする。

注 3) 「数学」「情報」の配点は、1 科目を 50 点に換算し計 100 点とする。

注 4) 「外国語」の「英語」は、「リーディング」及び「リスニング」の合計点とする。

※面接は、段階評価を行い、評価が一定基準に達しない場合は不合格とする。

2-1-5 一般選抜（後期日程）

令和 8 年度大学入学共通テストで本学が指定する教科・科目（下表参照）を受験した者について、「小論文」と「面接」により試験を実施した。

教科	科目数			教科・科目数
国語	『国語』	1 科目	3 教科 3 科目 4 教科以上受験した場合は、高得点の上位 3 教科を合否判定に利用 地理歴史・公民、数学・情報、理科において、複数科目を受験した場合は、高得点の科目をその教科の得点とし、合否判定に利用	4 教科 4 科目
地理歴史	『地理総合，地理探究』 『歴史総合，日本史探究』 『歴史総合，世界史探究』 『地理総合／歴史総合／公共』	左記科目から 1 科目		
公民	『公共，倫理』 『公共，政治・経済』			
数学	『数学Ⅰ，数学Ⅱ』 『数学Ⅲ，数学Ⅳ，数学Ⅴ』	左記科目から 1 科目		
情報	『情報Ⅰ』			
理科	『物理基礎／化学基礎／ 生物基礎／地学基礎』 『物理』 『化学』 『生物』 『地学』	左記科目から 1 科目		
外国語	『英語』	1 科目		

本学で実施する個別試験を含んだ配点は下表の通りである。

試験区分	国語	地理歴史 ・ 公民	数学 ・ 情報	理科	外国語	小論文	面接	合計
大学入学 共通テスト	(100) 注 1)	(100)	(100)	(100)	200 注 2)	—	—	500
個別試験	—	—	—	—	—	200	30	230
計	300				200	200	30	730

注 1) 「国語」100 点は、200 点に 0.5 を乗じた値とする。

注 2) 「外国語」の英語は、「英語」は、「リーディング」及び「リスニング」の合計点とする。

※面接は、段階評価を行い、評価が一定基準に達しない場合は不合格とする。

2-2 令和8年度大学院看護学研究科博士課程（前期）

2-2-1 特別選抜

修了後、県内で活躍を希望する優秀な本学学生を確保すべく広域看護学コースおよび助産学コース、NPコースに特別選抜を設定して実施している。

募集人員

研究科名	専攻名	課程名	専攻領域		募集人員
看護学研究科	看護学専攻	博士課程（前期）	実践者養成	広域看護学コース	3名程度
				助産学コース	3名程度
				NPコース（老年・小児）	若干名

試験の概略

区分	志願者	受験者	合格者	競争率 (倍)	入学者		
					計	県内 (%)	男 (%)
看護学専攻	7	7	7	1.0	7	7 (100.0)	0 (0.0)

(単位：人)

試験科目等

試験科目	試験期日	出願期間
小論文 面接	7月16日(水)	6月11日(水)～6月20日(金)

2-2-2 一般選抜

大学卒業者等を対象に、「総合問題」と「面接」により実施した。大卒者でないものは就業経験により出願前に資格認定を行っている。

募集人員

研究科名	専攻名	課程名	専攻領域		募集人員
看護学研究科	看護学専攻	博士課程 (前期)	研究者養成		5 名
			実践者養成	NP コース	10 名 (うち 5 名は 地域枠、特別選抜枠を含む)
				広域看護学コース	10 名 (特別選抜枠を含む)
				助産学コース	10 名 (特別選抜枠を含む)
				看護管理・ リカレントコース	2 名

試験の概略

区 分	志願者	受験者	合格者	競争率 (倍)	入 学 者		
					計	県内 (%)	男 (%)
看護学専攻	34	34	25	1.4	22	15 (68.2)	4 (18.2)

(単位：人)

試験科目等

試 験 科 目	試 験 期 日	出 願 期 間
総合問題 面 接	8 月 22 日 (金)	7 月 22 日 (火)～7 月 28 日 (月)

(二次募集)

8 月に実施した試験の結果、合格者が定員を下回ったコース・専攻領域を中心に 12 月に再度募集を行った。

募集人員

研究科名	専攻名	課程名	専攻領域		募集人員
看護学研究科	看護学専攻	博士課程 (前期)	研究者養成		4 名
			実	NP コース	2 名
			践	広域看護学コース	3 名
			者		
			養		
			成		

試験の概略

区 分	志願者	受験者	合格者	競争率 (倍)	入 学 者		
					計	県内 (%)	男 (%)
看護学専攻	2	2	1	2.0	1	1 (100.0)	0 (0.0)

(単位：人)

試験科目等

試 験 科 目	試 験 期 日	出 願 期 間
総合問題 面 接	12 月 12 日(金)	11 月 10 日(月)～11 月 14 日(金)

2-3 令和8度大学院看護学研究科博士課程（後期）

2-3-1 進学審査

該当者がいなかったため、実施しなかった。

2-3-2 一般選抜

修士の学位を有する者等を対象に募集した。

募集人員

研究科名	専攻名	課程名	募集人員
看護学研究科	看護学専攻	博士課程（後期）	4名

試験科目等

試験科目	試験期日	出願期間
総合問題 口頭試問	8月22日(金)	7月22日(火)～7月28日(月)

試験の概略

区分	志願者	受験者	合格者	競争率 (倍)	入学者		
					計	県内(%)	男(%)
看護学専攻	4	4	4	1.0	4	3(75.0)	1(25.0)

(単位：人)

(12 月募集)

DNP コースを新たに立ち上げることとし、12 月に募集を行った。

募集人員

研究科名	専攻名	課程名	コース	募集人員
看護学研究科	看護学専攻	博士課程（後期）	DNP コース	2 名

試験科目等

試験科目	試験期日	出願期間
総合問題 口頭試問	12 月 12 日(金)	11 月 10 日(月)～11 月 14 日(金)

試験の概略

区分	志願者	受験者	合格者	競争率 (倍)	入学者		
					計	県内 (%)	男 (%)
看護学専攻	7	7	3	2.3	3	1 (33.3)	1 (33.3)

(単位：人)

3 学生の状況と進路

3-1 在学生の状況（令和7年4月1日現在）

学生総数 415 名（学部生 330 名、院生 85 名）

学生数					
区分		計	県内	県外	
学部	1年次生	88	60	28	8
	2年次生	75	60	15	2
	3年次生	80	54	26	5
	4年次生	87	57	30	2
	計	330	231	99	17
	%	100.0	70	30	5.2
大学院	博士前期	1年次生	31	15	16
		2年次生	34	24	10
	博士後期	1年次生	3	3	0
		2年次生	3	2	1
		3年次生	14	12	2
	計		85	56	29
合計		415	287	128	37

3-2 奨学金・授業料減免

■日本学生支援機構奨学金実績（人）

	貸与		給付
	一種	二種	
学部	63	49	98
大学院	8	2	—
合計	71	51	98

■その他奨学金実績

- ・長崎県看護職員修学資金 学部生 1 名
- ・壽崎育英財団奨学金 学部生 4 名
- ・大分県看護職員修学資金 学部生 3 名
- ・キーエンス財団 学部生 1 名
- ・大分市奨学資金 学部生 1 名
- ・大分県奨学金 学部生 5 名
- ・三和酒類地域文化振興会奨学金 学部生 5 名

■修学支援制度授業料・入学金減免実績（学部）（人）

	前期	後期	入学金
全額免除	83	83	23
2/3 免除	14	11	2
1/3 免除	4	8	0
合計	101	102	25

修学支援制度減免額計 56,220,000 円

■大分県立看護科学大学授業料減免制度実績（学部・大学院）（人）

	学部		大学院	
	前期	後期	前期	後期
全額免除	0	0	3	2
2/3 免除	0	0	1	0
1/3 免除	0	0	0	1
1/4 免除	0	0	1	1
合計	0	0	5	4

本学制度授業料減免額計 1,741,350 円

3-3 卒業生・修了生の進路

3-3-1 学部卒業生

1 卒業生の状況（85 名）

出身地別	県内	57	名	67.1	%
	県外	28	名	32.9	%
進路希望別	就職	67	名	78.8	%
	進学	18	名	21.2	%

2 進路決定状況

就職	決定	65	名	97.0	%
	未定	2	名	3.0	%
進学	決定	18	名	100.0	%
	未定	0	名	0.0	%

3 就職先内訳

(1) 地域別

大分県内	31 (県内出身者 26 名＋県外出身者 5 名)	47.7	%
大分県外	34 (県内出身者 15 名＋県外出身者 19 名)	52.3	%
計	65 名	100.0	%

(2) 就職先

独立行政法人等	29 名	44.6	%
都道府県	6 名	9.2	%
市町村	10 名	15.4	%
民間	20 名	30.8	%
その他	0 名	0.0	%
計	65 名	100.0	%

大分県内	大分大学医学部附属病院(15)、大分県立病院(4)、大分赤十字病院、大分岡病院、大分丘の上病院、井野辺病院、佐伯中央病院、中津市立中津市民病院、SBC グループ、日田市立津江小学校、豊後高田市立真玉中学校、日出町立大神中学校、大分県立大分支援学校、大分市立竹中小学校
大分県外	東京大学医学部附属病院(3)、浜の町病院(3)、国立がん研究センター中央病院(3)、横浜市立みなと赤十字病院(2)、福岡市立こども病院(2)、埼玉石心会病院、東京科学大学病院、聖路加国際病院、東京医科大学病院、国立成育医療研究センター、兵庫県立病院、広島市民病院、九州大学病院、福岡大学病院、九州がんセンター、九州医療センター、小倉記念病院、産業医科大学病院、和白病院、高峰会グループ、福岡新水巻病院、嬉野医療センター、熊本赤十字病院、熊本大学病院、長崎医療センター、松浦市立上志佐小学校

4 進学先内訳

大分県立看護科学大学大学院 12 名（広域看護学コース 7 名、助産学コース 5 名）

熊本保健科学大学公衆衛生看護学専攻科 1 名

熊本大学養護教諭特別別科 1 名

藤華医療技術専門学校 1 名

洛和会京都看護学校 1 名

遠賀中央看護助産学校 1 名

鹿児島医療福祉専門学校 1 名

3-3-2 大学院修士課程

1 修了生の状況（修了生 31 名）

出身地別	県内	22 名	71.0	%
	県外	9 名	29.0	%

2 進路決定状況

就職	決定	28 名	90.3	%
	未定	3 名	9.7	%
進学	決定	0 名	–	%
	未定	0 名	0.0	%

3 就職先内訳

(1) 地域別

大分県内	18 名	64.3	%
大分県外	10 名	35.7	%
計	28 名	100.0	%

(2) 就職先

独立行政法人等	9 名	32.1	%
都道府県	2 名	7.1	%
市町村	5 名	17.9	%
民間	12 名	42.9	%
大学	0 名	0.0	%
その他	0 名	0.0	%
計	28 名	100.0	%

大分県内	研究者	なし
	広域看護学	大分県、大分市(2)、豊後大野市、日本製鉄
	助産学	大分大学医学部附属病院(4)
	NP	大分大学医学部附属病院、天心堂へつぎ病院、黒木記念病院、中津市立中津市民病院、川島整形外科病院
	看護管理・リカレント	大分市保健所、大分医療センター、大分岡病院、臼杵市医師会立コスモス病院
大分県外	研究者	なし
	広域看護学	長崎県
	助産学	横浜労災病院、熊本大学病院（2）、小倉医療センター、社会保険田川病院、あまがせ産婦人科
	NP	佐世保市総合医療センター、嶋田病院
	看護管理・リカレント	なし

※既に就職している施設名も併せて記載。

4 進学先内訳

なし

3-3-3 大学院博士課程

1 修了生の状況(修了生4名)

出身地別	県内	4 名	100.0 %
	県外	0 名	0.0 %

2 進路決定状況

就職	決定	4 名	100.0 %
	未定	0 名	0.0 %

進学	決定	0 名	0.0 %
	未定	0 名	0.0 %

3 就職先内訳

(1) 地域別

大分県内	4 名	100.0 %
大分県外	0 名	0.0 %
計	4 名	100.0 %

(2) 就職先

独立行政法人等	0 名	0.0 %
都道府県	0 名	0.0 %
市町村	0 名	0.0 %
民間	1 名	25.0 %
大学	3 名	75.0 %
その他	0 名	0.0 %
計	4 名	100.0 %

就職先	大分県立看護科学大学(2)、大分大学、佐賀関病院
-----	--------------------------

※既に就職している施設名を記載。

4 研究助成・事業助成等

4-1 研究助成

4-1-1 日本科学振興会科学研究費助成事業（科研費）

麻原きよみ

ヘルスヒューマニティーズを基盤とした公衆衛生看護における態度・価値教育の構築. 基盤研究 (C). (代表)

市民と保健医療者が共に考える「市民主導型ケア」の教材のグローバルスタンダード開発. 基盤研究(B). (分担)

組織変容を伴うプリセプター保健師教育支援プログラムの実装. 基盤研究(C). (分担)

新任保健師の多様な背景に対応するプリセプター保健師教育支援プログラムの開発. 基盤研究 (C). (分担)

荒木章裕

中山間地域の訪問看護ステーションにおける課題と安定・持続化に向けたモデルの検討. 若手研究. (代表)

石田佳代子

災害時における「黒エリア」の構成のための基本となる指標の作成とその普及. 基盤研究 (C). (代表)

岩下（水田）恵子

ヘミデスモソーム制御性競合と $\gamma\delta$ 型 T 細胞依存性組織反応による放射線発がんしきい値. 基盤研究 (C). (代表)

恵谷玲央

持続的な医療被ばく国民線量評価のためのデータ収集、線量評価法の構築. 基盤研究(B). (分担)

小嶋光明

重粒子線すだれ状照射による抗がん効果を正常・がん細胞間クロストークから紐解く. 基盤研究(B). (代表)

小野美喜

医師からのタスクシフトを担う看護師の倫理的行動と行動促進の方策. 基盤研究 (C). (代表)

甲斐博美

診療看護師（NP）の職業的アイデンティティを明確にした NP 教育プログラムの開発. 基盤研究 (C). (代表)

影山隆之

労働者の睡眠とストレスチェックの関連及び生活習慣に基づく睡眠健康教育に関する研究. 基盤研究(C). (代表)

医療的ケアが昼夜必要な在宅療養児の養育者の生活に即した地域包括支援システムの構築. 基盤研究(B). (分担)

森林環境下でのリモートワークが労働者のメンタルヘルスと労働効率に及ぼす影響. 基盤研究(C). (分担)

保育従事者の離職予防のためのプログラム開発. 基盤研究(C). (分担)

影山隆之、後藤成人

民生委員を対象にした短縮版ゲートキーパー養成プログラムの開発及び効果検証. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C). (分担)

草野淳子

医療的ケア児を支える訪問看護師と専門支援相談員をつなぐ連携教育プログラムの開発. 基盤研究(C). (代表)

古賀雄二

同一ツールによるせん妄多領域モニタリング体制の構築に関する研究. 基盤研究(C). (代表)

痛みの強度と周期性（性質）の同時モニタリング法の検証. 基盤研究(C). (分担)

集中治療後症候群患者(PICS)の潜在化を防ぐ地域医療連携支援モデルの開発. 基盤研究(C). (分担)

後藤成人

自殺ハイリスク者への対応内容から見るゲートキーパー養成プログラムの実践的評価. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C). (代表)

Web を活用した依存症の偏見解消プログラムの開発と社会実装の普及効果検証 日本学術振興会 科学研究費助成事業. 基盤研究(C). (分担)

定金香里

東アジアを越境するバイオエアロゾル：日本本土への拡散・沈着とその生体影響の評価. 基盤研究 (A). (分担)

佐藤愛

自立高齢男性における咳嗽反射時の喀出力の関連要因の解明. 基盤研究(C). (代表)

品川佳満

看護学生の情報倫理統合力の修得を目的とした学習支援ポータルサイトと演習教材の開発. 基盤研究 (C). (代表)

ICT を活用した医療職との連携による新しい保育者実習プログラムの開発と評価. 基盤研究 (C). (分担)

篠原彩、桑野紀子

女性技能実習生担当者等の健康支援コンピテンス醸成プログラムの構築. 基盤研究(C). (代表、分担)

秦さと子

デジタル機器使用と嚥下機能との関連. 基盤研究(C). (代表)

杉本圭以子

精神障害者が地域で活躍するための総合的就労促進プログラムの構築と評価. 基盤研究(C). (代表)

田中佳子

シャント血流音から狭窄を評価する機器の開発に関する基礎的研究. 基盤研究 (C). (代表)

堤恒貴

痛みの強度と周期性（性質）の同時モニタリング法の検証. 基盤研究 (C). (代表)

坪内優太

ベルト電極式骨格筋電気刺激が骨癒合過程に与える効果の解明と新規骨折治療法の探索. 基盤研究(C). (代表)

徳丸由布子、濱耕子、永松いずみ

産後パパ育休を取得する夫婦の夫婦関係満足度を高める支援に関する研究. 基盤研究(C). (代表、分担)

濱耕子

産後女性における骨盤矯正機能付き筋力サポートアンダーウェア着用効果の検証. 日本学術振興会科学研究費助成補助金 基盤研究 (C). (代表)

膀胱底の位置の縦断的計測による妊産褥婦の尿失禁リスク予測のための指標の探索. 日本学術振興会科学研究費助成補助金 基盤研究 (C). (分担)

濱中良志

長鎖非コード RNA による miRNA 制御を介した放射線誘発線維症の解明と臨床的応用. 基盤研究 (C). (分担)

永松いずみ、徳丸由布子

父親の育児参加と育児休業取得の現状と課題. 基盤研究(C). (分担)

樋口幸、吉田成一

妊娠期の高脂肪食摂取が出生児の皮膚に与える影響と増悪・感受性要因の解明. 基盤研究 (B). (代表、分担)

樋口幸

新生児皮膚トラブル予防を目的とした胎脂の網羅的解析による予測バイオマーカーの創出. 挑戦的萌芽. (代表)

福田広美

中小規模病院における効率的かつ質の高い看護に向けた人材育成に関する理論の開発. 基盤(C). (代表)

矢野亜紀子、福田広美、荒木章裕

中小規模病院の看護管理者の管理行動が看護の質と定着に及ぼす効果予測モデルの開発. 基盤研究(C). (代表、分担)

4-1-2 その他の研究助成

小嶋光明

ヒト正常・がん3次元共培養集団を用いたすだれ状X線マイクロビーム照射による抗がん効果の検証. 高エネルギー加速器実験機構共同利用実験 (代表)

放射線照射したマウスの骨髄・脾臓内造血幹細胞の細胞動態の解析 ～放射線誘発マウス急性骨髄性白血病のメカニズムを考える～. 放射線災害・医科学研究拠点 (代表)

坪内優太

ベルト電極式骨格筋電気刺激装置を用いた難治性骨折に対する新規治療法の開発. 株式会社ホームイオン研究所 受託研究. (代表)

樋口幸

胎脂の構成成分と新生児の皮膚バリア機能・皮膚組織に与える影響. サラヤ株式会社共同研究費. (代表)

4-1-3 学内の競争的研究資金

安部涼子

エフィナコナゾール外用薬塗布のために作成した自助具の活用と有効性. 奨励研究.

石田佳代子, 安部涼子

訪問看護師を対象としたフィジカルアセスメントの遠隔研修プログラムの開発と評価 ―デジタル聴診器を使用した聴診スキルなどについて―. 先端研究.

石丸智子

災害時の地域開放大学避難所の役割と課題～A 大学近隣住民の防災意識と大学避難所に対する期待についてのアンケート調査～. 先端研究.

井上陽士、古賀雄二

ICU せん妄総合教育プログラムの日本語版の開発と検証. 奨励研究.

小野治子

養護教諭が地域の健康課題を捉える視点に関する研究―養成課程・養護教諭育成指標・地域連携の観点から―. 先端研究.

川南公代

A 県内における自治体保健師の標準的なキャリアラダーの実態とリーダー育成に関連する活動領域の検討.先端研究.

首藤佐織

A 県における市町村災害時受援計画策定への自治体保健師の参画に関する研究. 奨励研究.

妻木美香

地域包括支援センターにおけるひきこもり支援の実際—保健師へのグループインタビューから—.
奨励研究.

永松いずみ、徳丸由布子、濱耕子

女性のライフサイクルの包括的な健康増進へのインターコンセプションケアの現状と課題. 奨励研究.

堀裕子、中釜英里佳、小野美喜

性差に着目した向老期における認知症イメージに対する認識と認知症予防行動. 先端研究.

三苫美和

看護学生のヘルスアセスメント思考育成に向けたデジタル教材開発. 奨励研究.

4-2 事業助成

篠原彩、桑野紀子

おおいた地域連携プラットフォーム 令和7年度 フィールドワーク支援事業
つながる健康・ひろがる共生—すこやかな多文化共生の地域づくり事業. (代表)

4-3 外部研究者受入れ

本年度実績なし

5 研究業績

5-1 著書

麻原きよみ: 公衆衛生看護とは, 保健師活動の「見える化」. 井伊久美子, 勝又浜子, 森永裕美子, 荒木田美香子, 坂本真理子, 村嶋幸代編, 新版 保健師業務要覧 第 4 版 2026 年版, p5-7, p270-273, 日本看護協会出版会, 東京, 2026.2.

麻原きよみ: 荒木田美香子 責任編集, 麻原きよみ, 佐伯和子, 岡本玲子 編, 公衆衛生看護学テキスト 4 公衆衛生看護活動Ⅱ 学校保健・産業保健 2026-2027 年度版, 医歯薬出版株式会社, 東京, 2026.2.

保健師ジャーナル編集室編(岡本玲子, 岸恵美子, 松本珠実, 臺有佳, 岩本里織, 麻原きよみ, 他): 保健師ジャーナル 電子別冊「私たち保健師のコアバリューとコアコンピテンシー」【電子版】, 医学書院, 2025.

関根剛, 小澤優璃: 第 4 章 12 節 公認心理士会・臨床心理士会における被害者支援, 4.12.1-6, 被害者支援テキスト～支援に携わる人たちのために～【知識編】, 公益社団法人全国被害者支援ネットワーク, 2026.

関根剛: 第 8 章 2 節 研修プログラムの構成, 8.2.1-4, 被害者支援テキスト～支援に携わる人たちのために～【知識編】, 公益社団法人全国被害者支援ネットワーク, 2026.

関根剛: 第 9 章 1 節 研修目標と講義の展開, 9.1.1-8, 被害者支援テキスト～支援に携わる人たちのために～【実践編】, 公益社団法人全国被害者支援ネットワーク, 2026.

関根剛: 第 9 章 2 節 講義資料の作成 (プレゼンテーション技術), 9.4.1-6, 被害者支援テキスト～支援に携わる人たちのために～【実践編】, 公益社団法人全国被害者支援ネットワーク, 2026.

5-2 原著論文・査読付総説

荒木章裕, 姫野雄太, 矢野亜紀子, 福田広美: 中山間地域の条件不利性に着目した訪問看護ステーション経営に関する看護師の経験 質的メタ統合による分析. 日本看護研究学会雑誌, 48(5), 669-679, 2026.

Naoki Maki, Hitomi Matsuda, Sachie Eto, Akihiro Araki, Toshifumi Takao, Thomas Mayers: Loneliness and Its Association with Depression, Aspiration Risk, and Conversation in Japanese Older Adults, Healthcare, 2026 Jan 12, <https://doi.org/10.3390/healthcare14020190>.

Naoko Tokunaga, Akihiro Araki, Hiromi Fukuda: Cross-sectional study of interprofessional collaboration among Japanese nurse practitioners. Journal of general and family medicine, 26(6), 570-578, 2025 Nov, <https://doi.org/10.1002/jgf2.70062>.

角樹香, 荒木章裕: 看護系大学生が持つ自閉スペクトラム症に対する認識および受容性の実態調査. ヒューマンケアリング学研究, 16(1), 1-10, 2025.

Abe K, Baba S, Etani R, Fujimoto T et al.: Establishment of National Diagnostic Reference Levels 2025 for nuclear medicine in Japan. Annals of Nuclear Medicine 2025 Sep 39. <https://doi.org/10.1007/s12149-025-02102-y>.

Kitajima T, Ojima M, Etani R, Kai M: Effects of Thyroid Size and Short-lived Radionuclides on Measurement Values in Pediatric Thyroid Screening: Health Physics 2026 Mar 9. <https://doi.org/10.1097/HP.0000000000002119>

Hiroshi Kuwahara, Mitsuaki Ojima, Tsuneko Kawamura, Daisuke Saitou, Kazunari Andou, Eiji Ariga, Kotaro Hasegawa, Michiaki Kai, Dose-Dependent Analysis of Image Quality in Pediatric Head CT Scans Across Different Scanners to Optimize Clinical Protocols Using Phantom-Based Assessment, Tomography, 11(11), 119-119, 2025

Shiotsuki S, Ono M: The past, present, and future of nurse practitioners (NPs) in Japan: The views of a graduate of the first class of NP students in Japan. The Nurse Practitioner. 2026 February 41-45.

影山隆之, 森口泉: 自殺念慮をもつ人がインターネット検索で得られる情報の検討: 自殺を抑止するか促進するか? 自殺総合政策研究 6(1): 31-40, 2026.

飯田法子, 影山隆之: 大分県の保育園の施設管理者による保育コーディネーターの評価. こころの健康 40(1): 22-32, 2025.

岡本文恵, 影山隆之, 杉本圭以子, 小林敏生: 一金融系企業のホワイトカラー労働者における睡眠不全の関連要因の男女差, とくに睡眠不全と家庭要因との関連. 睡眠と環境 19(2):1-13, 2025.

朴相俊, 今村晴彦, 岡田真平, 影山隆之: 一般住民に対する自殺予防教育効果の評価尺度「ゲートキーパー教育効果評価尺度 (Gatekeeper Educational Effectiveness Assessment Scale : GEEAS)」の開発. 信州公衆衛生雑誌 20(1): 1A1-1A11, 2025.

川南公代, 渡邊千秋, 橋本結花, 中板育美: 新人保健師の実践力 UP 事例検討会を経験しての効果と学びに関する研究. インターネットジャーナル「看護科学研究」 24. 136-147.2025.

草野淳子, 井原健二, 野上藍: 特別支援学校における医療的ケア児へ養護教諭が果たす職務に関する文献研究.小児保健研究,84(6),424-432,2025.

草野淳子, 井原健二, 佐々木真理子: A 県におけるこどもの訪問看護の実施状況と課題.小児看護, 48 (7), 885-892,2025.

金慧敏, 桑野紀子, 篠原彩: 韓国の産後調理院を利用した母親が心身の回復を促進したと感じたケア・サービス. 日本母性衛生学会誌, 66(4), 637-645, 2025.

伊東由康, 植村桜, 山田奈津子, 五十嵐真, 岡田和之, 花山昌浩, 古厩智美, 古賀雄二. セン妄ケアリスト (ver.1) の臨床現場への導入に対する看護師の認識, 日本クリティカルケア看護学会誌,21,1-6,2025.

Naruto Goto, Takayuki Kageyama. Suicidal ideation, social support, and a pessimistic view on life in the middle-aged and elderly. Academia Mental Health and Well-Being 2: Issue 1, 2025.

金城芳秀, 李延秀, 西川浩昭, 佐伯圭一郎: 看護教育における学生のシビリティ概念の認識を育むことを目的とした学生と教員によるアクションリサーチ. 日本健康学会誌, 91(4), 149-161, 2025.

Sadakane K, Ichinose T, Maki T, Takano H, Shibamoto T: A comparative analysis of five fungal species isolated from high-altitude air samples based on their induction of murine lung eosinophilia along with heated Asian sand dust. Int J Environ Health Res. 2025 Apr 4. <https://doi.org/10.1080/09603123.2025.2484775>

Yamano S, Sadakane K, Ichinose T, Umeda Y, Maki T: Mouse pulmonary pathological characteristics induced by Asian-mineral dust transported with *Coniothyrium fuckelii* at a high altitude of 2,000 meters. Sci Rep. 2025 Dec 1. <https://doi.org/10.1038/s41598-025-31378-3>

Zhang K, Honda A, Sagawa T, Miyasaka N, Qiu B, Ishikawa R, Okuda T, Kameda T, Sadakane K, Ichinose T, Takano H: Complement system is activated in acute inflammatory response to environmental particulates in the lungs. *Ecotoxicol Environ Saf*. 2025 June 1. <https://doi.org/10.1016/j.ecoenv.2025.118259>

佐藤栄治: 自発的発声および能動的聴取が筋活動に及ぼす影響の検討：スコーピングレビュー．看護理工学会誌, 12, 147-160, 2025.

橋本勇人, 品川佳満: 個人情報保護違反に関する東京地裁平成 25 年 3 月 28 日判決の評釈 判例の位置づけ・法人の不法行為・過失・損害を中心として．川崎医療福祉学会誌, 35(1), 243-249, 2025.

Shinohara A., Kuwano N., Shinagawa Y., Kawasaki R., Ohnishi M.: Development of a health support competence scale for supervisors of female migrant workers in Japan. *BMC Public Health* 25, 2688, 2025. <https://doi.org/10.1186/s12889-025-23837-3>

杉本圭以子: ヨガを実践する更年期女性の更年期症状と特性マインドフルネスの関連．こころの健康, 40(1), 47-57, 2025.

Keiko Tanaka, Keisuke Nishijima, Ken'ichi Furuya, Satoko Shin, Michiaki Kai: Risk assessment of arteriovenous fistulas focusing on the relationships between the properties of shunted blood flow sounds and a medical/surgical history of hemodialysis patients. *PLoS One* 2025 May 23. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0324747>

Kento Takahashi, Yuta Tsubouchi, Tetsutaro Abe, Yuhi Takeo, Marino Iwakiri, Takashi Kataoka, Kohei Inoue, Noriaki Sako, Masashi Kataoka, Masashi Miyazaki, Nobuhiro Kaku: Influence of Main Thoracic and Thoracic Kyphosis Morphology on Gait Characteristics in Adolescents with Idiopathic Scoliosis: Gait Analysis Using an Inertial Measurement Unit. *Sensors* 25(14) 4265-4265 2025 年 <https://doi.org/10.3390/s25144265>

前田竜也, 佐藤元紀, 大平大, 久保竜仁, 川上慧, 後藤正喜, 坪内優太, 渡邊一也: 大腿骨近位部骨折患者の 25-ヒドロキシビタミン D に影響を与える要因の検討. *The Journal of the Japanese Clinical Orthopaedic Association*. 2026.

徳丸由布子, 林猪都子, 永松いずみ: 産後 1 ヶ月の夫婦における男性育休の認知度および取得に関する予定と意識．母性衛生, 66(2), 359-367. 2025.

佐藤榛香, 林猪都子, 永松いずみ, 徳丸由布子: 多胎児を持つ母親の乳幼児期における育児の困難感の実態．母性衛生, 65(4), 541-548. 2025.

後藤麻乃, 林猪都子, 永松いずみ: 産褥 1～4 日目の褥婦の身体的疼痛の部位と経日的変化、母性衛生 65 (4), 91-98, 2025.

中田覚子, 濱耕子: 日本人妊婦の Quality of Life 尺度 50 項目版の開発 ～信頼性・妥当性の検証～. 日本助産学会, 39(1), 54-66, 2025.

Kozue Okesaku, Kouko Hama, Masayo Yoneda, Ardith Doorenbos, Hiromi Tobe: Development and Testing of an Information-Sharing Questionnaire on the Sexuality of Adolescent and Young Adult Cancer Survivors. Journal of AYA Oncology Alliance, 5(2), 27-37, 2025.

原真佑子, 桶作梢, 野沢ゆり乃, 河合美佳, 曾山小織, 濱耕子, 米田昌代: 母性看護学における沐浴の実践能力評価表の開発. 看護実践学会誌, 37(1), 42-52, 2025.

佐伯真優, 樋口幸: 微酸性次亜塩素酸水を用いた新たな哺乳瓶の洗浄消毒効果の検証. 看護理工学会誌, 13, 93-97, 2026.

佐藤未来, 樋口幸: 乳児用スキンケア製品の特性および特徴の可視化の試み. 看護理工学会誌, 13, 108-115, 2026.

Hiromi Fukuda, Chizuru Harada, Akihiro Araki, Yuta Himeno, Akiko Yano, Sachiyo Murashima: Experiences of developing competency in a network of nurse executives working at rural medical facilities: an ethnographic qualitative study. Journal of Rural Medicine, 20(2), 78-87, 2025.

姫野雄太, 福田広美, 荒木章裕, 矢野亜紀子: OOVL 日本版を用いた看護学部 2 年次生への意思決定支援教育の評価. 日本看護科学会誌, 45, 278-285, 2025.

堀裕子, 中釜英里佳, 小野美喜, 林猪都子: 向老期女性の認知症に対するイメージと予防行動, 日本認知症予防学会誌, Vol.15 No.1. 14-20.2025.

小西恵美子, ミーガン・ジェイン ジョンストン, 宮内信治: 道徳的苦悩を超えて: Megan-Jane Johnstone との Q&A. 日本看護倫理学会誌, 18, 2025.

宮内信治: 英国の言語学習における音読の変遷. 英語教育音声学, 4 : 71-81, 2025.

Iwashita K, Suzuki K, Ojima M: Recent advances in understanding of radiation-induced skin tissue reactions with respect to acute tissue injury and late adverse effect. Journal of radiation research 2025 Sep23. <https://doi.org/10.1093/jrr/rraf052>

Moriyama, M., Gomi, M., Kamei, Y., Mochida, E., Xie, H., Nitamizu, A., Yoshino, Y., & Arakida, M. (2025). Five-year evaluation of a multilingual website on pregnancy and parenting for foreign families in Japan. *Cureus*, 17(10), Article e94592. <https://doi.org/10.7759/cureus.94592>

Akiko Yano, Hiromi Fukuda, Akihiro Araki, Yuta Himeno, Gerald Shirley, Chihiro Tanaka, Sachiyo Murashima: A qualitative study of the developmental process of professional identity of nurses who stutter—Narratives of a nurse at career maturity: An analysis using the trajectory equifinality approach. *Jpn J Nurs Sci*, 23: e70041, 2026. <https://doi.org/10.1111/jjns.70041>

山口優実, 菊池良和, 佐藤あおい, 岡部健一, 吉田恵理子, 安井美鈴, 飯村大智, 伊神敬人, 園田一博, 小野寺宰, 坂崎弘幸, 矢野亜紀子, 小林宏明, 中川尚志. [研究ノート] 大学における吃音症に対する合理的配慮の実態調査. 吃音・流暢性障害学研究 8(1) 1-6. 2025.

吉田成一, 呼吸器を介した環境因子による精子への影響, IVF 学会誌, 28(1), 2025

5-3 その他の論文等

影山隆之: 学校での自殺予防－教育と研修の実際を知る. 自殺予防と危機介入 45(2): 46-48, 2025.

影山隆之: 風力発電施設からの騒音と睡眠・自覚症状の関連－住民の疫学調査から. 日本の科学者: 60(11): 38-40, 2025.

野村恭子, 影山隆之, 山内貴史, 佐々木那津, 瀧澤透, 太刀川弘和, 反町吉秀, 竹島正: 自殺対策基本法制定 20 周年を振り返る: 自殺実態の把握. 日本公衆衛生雑誌 72: 819-825, 2025.

西村靖史, 菅野恵, 安保寛明, 影山隆之: これからの日本精神衛生学会に期待すること. こころの健康 40(1): 2-11, 2025.

品川佳満, 橋本勇人: 今は知ってて当たり前!?看護学生とネットリテラシー. クリニカルスタディ, 46 (7), 588-595, 2025.

5-4 プロシーディングス

本年度実績なし

5-5 報告書

荒本章裕: 令和 6 年度大分県中小規模病院等看護管理者支援事業報告書 由布地域の実施内容・参加状況.

村嶋幸代, 佐伯和子, 臺有桂, 岸恵美子, 加藤典子, 小野治子, 岡田悠希, 川崎涼子, 田村秀: 令和 6 年度「自治体保健師の計画的・継続的な確保に関する研究」研究報告書

小嶋光明, 恵谷玲央: 放射線照射したマウスの骨髄・脾臓内造血幹細胞の細胞動態の解析～放射線誘発マウス急性骨髄性白血病のメカニズムを考える～, 2024 年度放射線災害・医科学研究拠点共同利用・共同研究課題成果報告書.

島田義也, 浜田信行, 甲斐倫明, 佐藤達彦, 中村典, 坂田律, 吉永信治, 恵谷玲央, 小嶋光明: 「ICRP 次期主勧告ウェビナー」ミーティングレポート&印象記、放射線生物研究 Radiation Biology Research Communications 60(1), 2025.

大分県立大分雄城台高校放送部 (影山隆之監修): ひとりじゃない～大分市ゲートキーパー普及啓発動画, 2025. <https://www.city.oita.oita.jp/shisejoho/kohokocho/koho/dogachannel/4ch/20251201.html>

飛鳥井望, 斎藤実, 川本哲郎, 関根剛ほか: 令和 7 年度海外調査事業 (フィンランド・イギリス) 活動報告書.2026.3. (編集委員・著)

5-6 学術講演

石田佳代子: シンポジウム「九州内の大学院・DNP コースの紹介」. 第2回 日本 NP 学会九州地方会学術集会・総会. オンライン, 2025.12.

小嶋光明, 平山亮一, 香崎正宙, 大原麻希, 伊藤 敦, 鈴木啓司, 宇佐美德子, 甲斐倫明: マイクロビーム放射線療法の抗がん効果を細胞間クロストークから紐解く ― X 線から重粒子線への期待. 第5回日本量子医科学会学術大会. 福岡, 2025.11.

小野美喜: ナースプラクティショナー（仮称）制度創設に向けた三団体の取り組み 日本 NP 教育大学院協議会の活動. 日本 NP 学会第11回学術集会. 島根, 2025.10.

影山隆之: 女性労働者の睡眠問題. 第98回日本産業衛生学会シンポジウム5 安全・安心を衛る睡眠研究の最近の動向. 女性労働者の睡眠問題. 第98回日本産業衛生学. 仙台, 2025.5.

影山隆之: 教員のための SOS の受け方研修. 日本精神衛生学会第41回大会学会主催研修会 若い人達の心に届く支援を考える. 札幌, 2025.12.

後藤愛, 松本佳代, 仁宮真紀, 市原真穂, 草野淳子: パネルディスカッション 医療的ケア児・重症心身障害児の「遊」を創る. 日本 NP 学会第11回学術集会. 島根, 2025.10.

古賀雄二: せん妄と看護～せん妄ケアは包括的患者生活管理である～. 国立病院機構熊本医療センター看護部公開看護セミナー講師

後藤成人: アルコール看護基礎講座. 第35回日本アルコール看護研究会・第20回九州アルコール看護研究会 沖縄大会. 沖縄, 2025. 5.

後藤成人: ギャンブル依存症セミナー教育講演. 大分, 2025. 5.

山野莊太郎, 定金香里, 市瀬孝道, 梅田ゆみ, 牧輝弥: 上空由来植物病原菌・黄砂の複合曝露が誘導する肺病理像の再定義: 第16回本シンポジウムを契機とした共同研究成果. 第17回大気バイオエアロゾルシンポジウム. 大阪, 2026. 2.

坪内優太: 癌治療関連骨減弱症に対するベルト電極式骨格筋電気刺激法を用いた予防的アプローチの提案. 日本基礎理学療法学会 第9回若手研究者ネットワークシンポジウム. 札幌市, 2025. 8.

坪内優太: 骨折者に対する理学療法（ジョイントシンポジウム（日本予防理学療法学会）転倒・骨折の『しんか』）. 第4回日本老年療法学会学術集会. 東京, 2025. 12.

樋口幸: 微酸性次亜塩素酸水とともに Well-being な未来へ-いのちを守る現場への応用可能性と課題-.
微酸性次亜塩素酸水協会第1回セミナー招待講演. 東京, 2025.12.

持田恵理: DNP コース紹介. 育む力、つなぐ力～九州 NP 教育の挑戦～. 第2回日本 NP 学会九州地方会学術集会. ZOOM, 2025.12.

持田恵理: 看護実践を目指した戦略と工夫. 実装研究の実際-エビデンスを現場に根付かせるための戦略と実践-令和7年度九州大学看護共創・実装研究拠点シンポジウム. 福岡市, 2026.3.

矢野亜紀子: シンポジウム 大学における吃音の合理的配慮を考える. 看護系大学における合理的配慮の実態—事例報告—. 日本吃音・流暢性障害学会第13回大会. 福岡, 2025.8.

5-7 学会発表等

江川優子, 長尾怜, 三好諒, 大森純子, 小林真朝, 浦口真奈美, 河本秋子, 佐伯和子, 都筑千景, 松永篤志, 今村晴彦, 平野美千代, 望月宗一郎, 麻原きよみ: “社会的排除”の概念分析: 社会的包摂との同時概念分析 (SCA) の中間報告〈第1報〉第14回日本公衆衛生看護学会学術集会, 石川, 2025.12.

三好諒, 長尾怜, 江川優子, 大森純子, 小林真朝, 浦口真奈美, 河本秋子, 麻原きよみ, 望月宗一郎, 平野美千代, 今村晴彦, 松永篤志, 都筑千景, 佐伯和子: “社会的包摂”の概念分析: 社会的排除との同時概念分析 (SCA) の中間報告〈第2報〉第14回日本公衆衛生看護学会学術集会. 石川, 2025.12.

小野治子, 生田寛子, 池戸啓子, 林利恵子, 田谷奈津世, 野澤憲子, 高本佳代子, 大河内彩子, 麻原きよみ: 2040年を見据えた令和における保健師の地区活動に関する調査 (第1報) ~全国保健師長会からの好事例から見えた地区活動の傾向~. 第14回日本公衆衛生看護学会学術集会. 石川, 2025.12.

生田寛子, 池戸啓子, 林利恵子, 田谷奈津世, 野澤憲子, 小野治子, 高本佳代子, 大河内彩子, 麻原きよみ: 2040年を見据えた令和における保健師の地区活動に関する調査 (第2報) ~インタビューから見えた地区活動を推進するための保健師の技~. 第14回日本公衆衛生看護学会学術集会. 石川, 2025.12.

嶋津多恵子, 鳩野洋子, 吉野純子, 山谷麻由美, 麻原きよみ, 遠藤直子, 今野弘美, 清水雅子: プリセプター保健師研修におけるモデルプログラムの評価~年度末質問紙調査から~. 第14回日本公衆衛生看護学会学術集会. 石川, 2025.12.

江川優子, 長尾怜, 三好諒, 大森純子, 麻原きよみ, 今村晴彦, 浦口真奈美, 河本秋子, 小林真朝, 佐伯和子, 都筑千景, 根岸薫, 平野美千代, 松永篤志, 望月宗一郎: 日本国内における「社会的排除」をテーマとした学術研究に関する文献レビュー: 第1報, 第84回 公衆衛生学会総会. 静岡, 2025.10.

長尾怜, 三好諒, 江川優子, 大森純子, 麻原きよみ, 今村晴彦, 浦口真奈美, 河本秋子, 小林真朝, 佐伯和子, 都筑千景, 根岸薫, 平野美千代, 松永篤志, 望月宗一郎: 日本国内における「社会的包摂」をテーマとした学術研究に関する文献レビュー: 第2報. 第84回 公衆衛生学会総会. 静岡, 2025.10.

石田佳代子, 山田貴子, 松久美: 訪問看護師向けのフィジカルアセスメント双方向型遠隔研修の試み. 2025年度第56回日本看護学会学術集会. 愛知県 (名古屋市), 2025.9.

石丸智子, 安部智也: 大分県における救急指定病院ウェブサイトの情報アクセシビリティ評価. 大分, 2025.4.

内田真奈, 石丸智子: 看護技術習得度向上を目指した 1 人称視点の動画教材の評価の検証. 第 13 回日本シミュレーション医療教育学会学術大. 東京, 2025.11.

岩下恵子, 鈴木 啓司, 香崎 正宙, 恵谷 玲央, 小嶋 光明: 標準的スキンケアが放射線皮膚炎の予防と軽減に及ぼす効果の検証. 日本放射線看護学会第 14 回学術集会. 福島, 2025.9.

Keiko Iwashita, Keiji Suzuki, Masaoki Kohzaki, Reo Etani, Michiaki Kai, Mitsuaki Ojima: Radiation exposure induces epidermal thickening coupled with both polyploidization as well as uncoupling of cell cycle exit and differentiation in keratinocytes . 日本放射線影響学会第 68 回大会. 広島, 2025.10.

梅野貴恵, 姫野綾, 樋口幸, 宇留嶋佳子: 長期母乳育児を経験した女性の離乳後のエクオール産生能と骨代謝状態. 第 66 回日本母性衛生学会学術集会. 東京, 2025.10.

明石楓香, 梅野貴恵: 育児不安・困難感と育児満足感の要因における類似点と相違点からみた母親支援のあり方に関する文献研究. 第 66 回日本母性衛生学会学術集会. 東京, 2025.10.

稲光心, 梅野貴恵, 樋口幸: 出産後 1 か月時混合栄養を行っていた母親が母乳栄養へ変更したきっかけとその背景. 第 66 回日本母性衛生学会学術集会. 東京, 2025.10.

加藤優, 梅野貴恵, 姫野綾: COVID-19 感染症を経験した助産師が理想と考える母親学級-コロナ前・コロナ禍・現在の母親学級を通して-. 第 66 回日本母性衛生学会学術集会. 東京, 2025.10.

江坂奈々美, 梅野貴恵: 看護大学生の大学入学までの性教育・不妊の認知と不妊教育の希望に関する実態調査. 第 66 回日本母性衛生学会学術集会. 東京, 2025.10.

恵谷玲央, 小嶋光明, 香崎正宙, 甲斐倫明: Dose rate-dependent effects of Gamma-rays on Sfp1 deletion in hematopoietic stem cells of mice. 日本放射線影響学会第 68 回大会. 広島, 2025.9.

小野孝二, 藤淵俊王, 横山須美, 赤羽恵一, 松原孝祐, 川浦稚代, 長谷川隆幸, 恵谷玲央, 張維珊, 勝沼泰, 山本和幸, 福永正明: 医療被ばく国民線量評価委員会研究報告. 日本保健物理学会第 58 回研究発表会. 茨城, 2025.10.

Mitsuaki Ojima, Atsushi Ito, Noriko Usami, Maki Ohara, Keiji Suzuki, Michiaki Kai, DNA damage response to a spatially fractionated X-ray microbeam irradiation in human normal and cancer cells., The 68th Annual Meeting of the Japanese Radiation Research Society. 広島, 2025.10.

村嶋幸代, 佐伯和子, 臺有桂, 岸恵美子, 加藤典子, 小野治子, 岡田悠希, 川崎涼子, 田村秀: 自治体保健師の計画的・継続的な確保に関する研究 (第1報) -退職保健師数と養成数の実態と課題
第14回日本公衆衛生看護学会学術集会. 石川, 2025.12.

川崎涼子, 臺有桂, 村嶋幸代, 佐伯和子, 岸恵美子, 加藤典子, 小野治子, 岡田悠希, 田村秀: 自治体保健師の計画的・継続的な確保に関する研究 (第2報) -大分県におけるモデル事業の成果-。
第14回日本公衆衛生看護学会学術集会. 石川, 2025.12.

臺有桂, 村嶋幸代, 佐伯和子, 岸恵美子, 加藤典子, 小野治子, 岡田悠希, 川崎涼子, 田村秀: 自治体保健師の計画的・継続的な確保に関する研究 (第3報) -神奈川県におけるモデル事業の成果-。
第14回日本公衆衛生看護学会学術集会. 石川, 2025.12.

加藤典子, 臺有桂, 村嶋幸代, 佐伯和子, 岸恵美子, 小野治子, 岡田悠希, 川崎涼子, 田村秀: 自治体保健師の計画的・継続的な確保に関する研究 (第4報) -派遣等に関する実態と課題-。第14回日本公衆衛生看護学会学術集会. 石川, 2025.12.

宮脇杏奈, 小野治子: 九州8県におけるヤングケアラー実態調査の比較 ～定義と認知度の違い～。
第71回大分県公衆衛生学会. 大分市, 2026.3.

飯田千尋, 小野治子: 更年期女性に対する健康教育に関する過去10年間の文献検討～。第71回大分県公衆衛生学会. 大分市, 2026.3.

小野美喜, 堀裕子, 中釜英里佳, 伊東多聞, 桑原宏, 伊東朋子: A有料老人ホームの往診ニーズと診療看護師(NP)介入の可能性-訪問看護師が往診要請をした症例より-。第11回日本NP学会学術集会. 島根, 2025.10.

江本絵里奈, 小野美喜, 佐藤愛: 健康な段階から人生の最終切れ目のないACP(アドバンス・ケア)を促進するための文献検討. 日本看護倫理学会第18回年次大会. 神戸, 2025.6.

谷口祐一郎, 藤内美保, 甲斐博美: 諸外国の文献レビューからみた高齢者の救急初期診療に求められる診療看護師(NP)の能力. 日本NP学会第11回学術集会. 島根, 2025.10.

影山隆之, 岡本文子, 小林敏生: 職業性ストレス簡易調査票の睡眠に関する設問の意義: 横断的調査結果の男女別分析. 第98回日本産業衛生学会. 仙台市, 2025.5.

齊藤友子, 影山隆之: 保育従事者の精神健康と職業性ストレス, コーピング特性及びSOCとの関連. 日本精神衛生学会第41回大会. 札幌市, 2025.12.

鳥羽玲華, 影山隆之, 杉本圭以子: 市町村の自殺対策計画の分析～大分県と自殺死亡率が高い県／非危険における事業の比較. 第 71 回大分県公衆衛生学会. 大分市, 2026.2.

鴛海真純, 高木優衣, 岡本明, 佐野貴英, 佐古朋子, 小野翠, 金並由香, 児玉晶子, 生田寛子, 鈴木由美, 白石清美, 影山隆之: 大分市における若年層を対象とした自殺対策の取組について (第 2 報) ～高校生とのゲートキーパー普及啓発動画作成を通じて. 第 71 回大分県公衆衛生学会. 大分市, 2026.2.

鈴木由美, 川南公代, 小野治子: 警察から通報があった自殺企図者支援を行う保健師の思い～精神保健福祉法第 23 条以外の通報に焦点をあて. 第 71 回大分県公衆衛生学会. 大分, 2026.2.

草野淳子, 伊東春奏, 井原健二: 小児に関わる看護師のプリパレーション実施とその影響要因との関連. 第 72 回日本小児保健協会学術集会. 石川, 2025.6.

草野淳子, 船田紗希, 井原健二: コロナ禍からポストコロナの移行による小児病棟における対応の変化. 第 72 回日本小児保健協会学術集会. 石川, 2025.6.

草野淳子, 井原健二: 医療的ケア児を支える訪問看護師と相談支援専門員をつなぐ連携教育プログラムの開発(相談支援専門員への介入調査結果から). 第 72 回日本小児保健協会学術集会. 石川, 2025.6.

草野淳子, 井原健二: 医療的ケア児を支える訪問看護師と相談支援専門員をつなぐ連携教育プログラムの開発(訪問看護師への介入調査結果から). 第 72 回日本小児保健協会学術集会. 石川, 2025.6.

網田真利子, 草野淳子: 医療的ケア児へ訪問看護師が行う在宅移行期の看護実践. 日本 NP 学会第 1 回学術集会. 島根, 2025.10.

榎並博子, 草野淳子, 井原健二, 前田知己: 小児診療看護師 (NP) が担う新生児集中治療室異動看護師への教育的役割を考える. 日本 NP 学会第 11 回学術集会. 島根, 2025.10.

藤本沙綾香, 草野淳子: 小児の診療看護師 (NP) が新生児集中治療室 (NICU) において期待される新人看護師への教育. 日本 NP 学会第 11 回学術集会. 島根, 2025.10.

佐藤利憲, 来生奈巳子, 伊藤久美, 上原章江, 草野淳子, 小迫幸恵, 今野美紀, 近藤美和子, 菅原淳, 西田みゆき, 泊祐子, 野村智美: 災害を経験した子どものグリーフケア及び日本小児看護学会災害対策委員会「災害対策マニュアル改訂版」の紹介. 日本小児看護学会第 35 回学術集会. 宮城, 2025.7.

Kuwano N., Warandaningsih S., Mitsuyoshi M. Perception toward Tuberculosis among Indonesian Muslim Women living in Japan. EAFONS, South Korea, 2025.2.13-14.

本多楓佳, 後藤成人, 影山隆之: 精神疾患の疑いのある未受診者が医療や地域のサービスに繋がるための促進要因と阻害要因. 日本精神衛生学会第41回大会. 札幌, 2025.12.

定金香里, 市瀬孝道, 吉田成一: ナリルチンの抗アレルギー作用に影響を与えない糖の検討. 第55回日本環境アレルギー学会総会・学術大会. 大阪, 2025. 6.

定金香里, 市瀬孝道, 吉田成一: *Cladosporium* 属 2 種における加熱黄砂との複合曝露による気道炎症応答の違い. 第66回大気環境学会年会. 愛知, 2025. 9.

宮坂奈津子, 本田晶子, 井上健一郎, 定金香里, 市瀬孝道, 石川良賀, 大畑良子, 亀田貴之, 奥田知明, 高野裕久: 環境中微粒子による肺線維化の異同における炎症・血管新生関連分子の役割. 第32回日本免疫毒性学会学術年会. 岐阜, 2025. 9.

赤路佐希子, 佐川友哉, 本田晶子, 宮坂奈津子, 定金香里, 市瀬孝道, 高野裕久: 染色標本における環境中微粒子の同視野可視化手法に関する検討. 第32回日本免疫毒性学会学術年会. 岐阜, 2025. 9.

赤路佐希子, Pasunun Rattanaroongrot, 本田晶子, 宮坂奈津子, 定金香里, 市瀬孝道, 奥田知明, 井上健一郎, 高野裕久: 粒子状物質曝露による生体反応と粒子局在の可視化. 第30回日本エンドトキシン・自然免疫研究会. 滋賀, 2025. 11.

増田朱里, 佐藤愛: 社会的フレイル評価指標に関する国内文献の検討. 第71回大分県公衆衛生学会学会, 2025.

佐藤栄治, 山下万結: 視覚（照度）と聴覚（環境音）の複合刺激が圧痛閾値に及ぼす効果. 日本看護技術学会. 京都, 2025.10.

Shinohara A., Shinagawa Y., Kuwano N.: Factors Influencing Intercultural Sensitivity of Supervisors of Female Migrant Workers in Japan. EAFONS, South Korea, 2025.2.13-14.

篠原彩, 桑野紀子, 品川佳満, 川崎涼子, 大西真由美: 女性外国人労働者への健康支援に関する指導者のコンピテンス評価尺度（HSCSS-F）：有用性の検証. 第9回日本国際看護学会学術集会. 神奈川, 2025.9.6-7.

杉本圭以子, 小野静里奈: 精神障害をもつ人の権利擁護の現状－身体障害をもつ人との相違に焦点を当てて－. 日本精神保健看護学会第35回学術集会. 金沢市, 2025.6.

杉本圭以子, 青木一也, 山本隆正: 精神科デイケアにおける IPS 型個別就労支援による就労継続期間と離職後の再就職に関連する要因. 日本精神障害者リハビリテーション学会第 32 回大会. 札幌市, 2025.10.

田中佳子, 秦さと子: 血液透析患者におけるシャント血管造設からの時間経過によるシャント血流音の変化と血管状態の関連. 第 13 回看護理工学会学術集会. 滋賀, 2025.11.

坪内優太, 片岡高志, 高瀬良太, 大津健史, 濱中良志, 片岡晶志, 加来信広: 癌治療関連骨減弱症に対するベルト電極式骨格筋電気刺激法を用いた予防的アプローチの提案. 第 13 回日本運動器理学療法学会学術大会. 大阪市, 2025. 11.

自見美菜, 高瀬良太, 坪内優太: パンフレットを活用した SDM 実践により後悔のない意思決定をした脳卒中患者の一例. 九州作業療法学会 2025 in 宮崎. 宮崎市, 2025. 6.

後藤慎吾, 坪内優太, 児玉慶司: 経時的評価および多職種連携により経口摂取再開が図れた舌癌術後症例への介入報告. 第 31 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会. 横浜市, 2025. 9.

久保田啓太, 坪内優太: Sodium glucose co-transporter 2 (SGLT2) 阻害薬の投与は早期運動療法介入の契機となり得るか. 第 79 回国立病院総合医学会. 金沢市, 2025. 11.

高橋兼人, 坪内優太, 児玉慶司, 片岡高志, 穴見圭汰朗, 細山嗣晃, 宮崎正志, 加来信広: 思春期特発性側彎症患者における脊椎の形態的变化が歩行特性に与える影響: 小型慣性センサーを用いた検討. 第 13 回日本運動器理学療法学会学術大会. 大阪市, 2025. 11.

片岡高志, 佐々木翔子, 坪内優太, 岩崎達也, 細山嗣晃, 加来信広: 大腿骨近位部における腫瘍部位毎の病的骨折リスクの検討 -有限要素法を用いたシミュレーション-. 第 13 回日本運動器理学療法学会学術大会. 大阪市, 2025. 11.

前田竜也, 佐藤元紀, 大平大, 久保壱仁, 川上慧, 後藤正喜, 坪内優太, 渡邊一也: 大腿骨近位部骨折患者の 25-ヒドロキシビタミン D に影響を与える要因の検討. 第 38 回日本臨床整形外科学会学術集会. 津市, 2025. 7.

妻木美香, 麻原きよみ: ひきこもり研究の文献的整理-保健師による関与の可能性-, 第 14 回日本公衆衛生看護学会学術集会, 石川, 2025.12.

徳丸由布子, 瀧耕子, 林猪都子, 永松いずみ: 産後パパ育休を取得した夫婦の体験－妻の視点からの質的分析－. 第 66 回日本母性衛生学会学術集会. 東京, 2025.10.

永松いずみ, 林猪都子, 徳丸由布子: 両親学級に参加する初妊婦の育児休業取得の体験に関する研究. 第 66 回日本母性衛生学会学術集会. 東京, 2025.10.

西田裕子, 福山美季, 三笥里香: 離島における日本の診療看護師 (NP) の臨床的意思決定の実態. 日本看護研究学会第 51 回学術集会. 石川, 2025.8.

江崎希, 濱耕子, 永松いずみ, 徳丸由布子: 正常分娩における分娩第 1 期の進行を促進するための看護に関する文献研究. 第 66 回日本母性衛生学会学術集会. 東京, 2025.10.

小坂侑生, 濱耕子, 永松いずみ, 徳丸由布子: 成人男性の低用量経口避妊薬に対する知識獲得と意識についての文献研究. 第 66 回日本母性衛生学会学術集会. 東京, 2025.10.

尾崎陽香, 濱耕子, 永松いずみ, 徳丸由布子: 妊娠期の父性獲得の要因に関する文献研究. 第 66 回日本母性衛生学会学術集会. 東京, 2025.10.

竹下和, 濱耕子, 永松いずみ, 徳丸由布子: 特定妊婦に対する助産師による支援に関する文献研究. 第 66 回日本母性衛生学会学術集会. 東京, 2025.10.

日當香里, 足立朱李, 矢野ミノリ, 甲斐美紀, 松永研一, 濱耕子: 訪問診療の認知度調査からみえる課題～外来患者を対象として～. 第 43 回大分県病院学会. 別府, 2025. 7.

工藤ありさ, 河野風紗, 三浦千恵, 岡崎敬一郎, 松永研一, 濱耕子: 輸血業務に対する看護師の不安と課題 ～指示受けから手順について～. 第 43 回大分県病院学会. 別府, 2025. 7.

矢野博之, 矢野真美, 濱中良志, 樋田真理子, 松尾哲孝, 吉岡秀克: 放射線誘発線維症における miRNA と lncRNA の競合的相互作用の解析. 日本結合組織学会学術大会. 大阪, 2025. 6.

矢野真美, 矢野博之, 濱中良志, 樋田真理子, 吉岡秀克, 松尾哲孝: 放射線誘発線維症における long non-coding RNA (lncRNA) の役割. 日本分子生物学会. 横浜, 2025.12.

矢野博之, 矢野真美, 濱中良志, 樋田真理子, 松尾哲孝, 吉岡秀克: lncRNA-Y と microRNA の ceRNA 機構を介した骨分化制御の検討. 日本分子生物学会. 横浜, 2025.12.

小西花恋, 樋口幸: 湿潤環境における清拭操作が皮膚バリア機能に及ぼす影響. 第 66 回日本母性衛生学会学術集会. 東京, 2025.10.

稲光心, 樋口幸: 出産後 1 か月時混合栄養を行っていた母親が母乳栄養へ変化したきっかけとその背景. 第 66 回日本母性衛生学会学術集会. 東京, 2025.10.

柴田歩里, 姫野綾: 立ち会い分娩をする夫への産前教育に関する文献検討. 第 66 回日本母性衛生学会学術集会. 東京, 2025.10.

堀裕子, 中釜英里佳, 小野美喜: 向老期女性の認知症イメージ認識と予防行動の実態調査. 第 18 回日本性差医学・医療学会学術集会. 熊本市, 2025.1.

堀裕子, 小野美喜, 中釜英里佳: 性差に着目した向老期世代の認知症予防行動の実態-向老期男性の実態を女性の先行結果と比較して-, 第 19 回日本性差医学・医療学会学術集会. 宮城, 2026.01.

宮内信治: 文化的基盤から見る日本の看護倫理. 日本看護倫理学会第 18 回年次大会, 兵庫, 2025. 5.

宮内信治: ナイチンゲールの時代と現代の「取り残された人々」: 感染症事象から学ぶ未来. 看護科学大学アニュアル・ミーティング, 大分, 2025. 3.

Masumi MORIYAMA, Yayoi SHOJI, Eri MOCHIDA: The real situation of affairs of supporting the foreign parents and children at the health checkups for infants through ethnography -First Report-, ICN. 2025.6.

森山ますみ, 庄司弥生, 持田恵理: 乳幼児健康診査における外国人親子への対応の実相ー健診従事者が見えている世界. 日本公衆衛生看護学会学術集会, 2025.12.

矢野亜紀子: シンポジウム 複線径路等至性アプローチ (TEA) と Triple Gegenstand 理論の新たな接合可能性を探る. 吃音のある看護師の職業的アイデンティティ発達プロセス入職後の低迷期から脱するきっかけとなった分岐点. 日本質的心理学会第 22 回大会. 広島, 2025.10.

Akiko Yano, Akihiro Araki, Yuta Himeno, Hiromi Fukuda. A qualitative study of the professional identity development process of nurses who stutter. Narratives of a nurse at career maturity: An analysis using the Trajectory Equifinality Approach. The ICN Congress, Helsinki, 2025.6

伊神敬人, 矢野亜紀子: 吃音のある看護師交流会の取り組み. 日本吃音・流暢性障害学会第 13 回大会. 福岡, 2025.8.

Seiichi Yoshida: Effects of Tobacco Heating System on male reproductive function in mice and exploration of contributing factors. IFFS World Congress 2025. Tokyo, Japan, 2025. 4.

吉田成一: 新型たばこ蒸気中の主成分曝露により生じる雄性生殖機能への影響. 日本アンドロロジー学会 第 44 回学術大会. 神戸, 2025. 6.

5-8 開発・特許等

本年度実績なし

5-9 受賞

齊藤友子，影山隆之：保育従事者の精神健康と職業性ストレス．コーピング特性及び SOC との関連．
日本精神衛生学会第 41 回大会大会長賞．札幌市，2025.12.

6 社会貢献

6-1 講演等

麻原きよみ

診療看護師の現状と今後の課題. 一般社団法人大分県病院協会 令和 7 年度定時社員総会. 一般社団法人大分県病院協会. 大分市, 2025.6.

地域社会に求められる看護師教育. 川崎医療福祉大学 保健看護学科 FD 研修会. 川崎医療福祉大学 保健看護学科. オンライン, 2025.8.

感性を磨く現任教育. 保健師スキルアップ研修. 名桜大学看護実践教育研究センター, 2025.10.

看護のこころをつなぐ～今まで、そしてこれから～. 大分県立厚生学院同窓会(草の実会)懇親会. 大分県立厚生学院同窓会(草の実会). 大分市, 2025.10.

トークセッション「アルメイダの功績と人物像から考える大分の魅力再発見」(パネリスト). ルイス・デ・アルメイダ生誕 500 年記念フォーラム. 大分市, 2025.11.

感性をみがく人材育成～予防活動の実践、そして地域に根づく保健師活動の継承のために～. 長崎県保健師長会 研修会. 長崎県保健師長会, 2026.1.

足立綾

令和 7 年度第 2,3 回医療的ケア研修. 大分県教育委員会. 大分市, 2025.7.

保健師助産師看護師実習指導者講習会 指導案作成演習. 大分県看護協会. 大分市, 2025.7～9.

荒木章裕

大分県看護協会令和 7 年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル. ヘルスケアシステム論I (ヘルスケアサービスにおける看護の役割). 大分市, 2025.7.

トヨタカローラ大分店舗イベント「シニア向け健康教室」講師. 大分市, 2025.12.

石田佳代子

看護過程. 令和 7 年度保健師・助産師・看護師実習指導者講習会. 大分市, 2025.6

臨床に役立つフィジカルアセスメント実践編. 令和 7 年度大分県看護協会研修会. 大分市, 2025.7

実習指導計画・指導案作成. 令和 7 年度保健師・助産師・看護師実習指導者講習会. 大分市, 2025.8

大分県立看護科学大学 令和 7 年度公開講座 災害時に家族に寄り添う看護師の支援活動

「災害時における多数傷病者発生時の医療活動について」. 大分市, 2025.9

実習指導計画・指導案の作成 (第 3 回・第 4 回). 大分県立病院 臨地実習指導者短期教育プログラム. 大分市, 2025.11

看護研究をはじめよう. 大分赤十字病院看護師研修会. 大分市, 2026.2

石丸智子

指導案作成演習. 保健師助産師看護師実習指導者講習会. 大分県看護協会. 大分市, 2025.9.

梅野貴恵

「助産師教育課程，母性看護学」．保健師助産師看護師実習指導者講習会．大分県看護協会．大分市，2025.6.

小嶋光明

放射線療法における放射線防護と安全管理．久留米大学認定看護師教教育．大分，2025.10.

放射線セミナー「身の回りの放射線」．福島県郡山市立喜久田小学校．福島，2025.7.

放射線セミナー「身の回りの放射線」．福島県郡山市立芳山小学校．福島，2025.7.

小野治子

地域診断と保健活動．令和 7 年度大分市保健師年代別研修．大分市保健所，2025.7.

2040 年を見据えた保健活動．令和 7 年度大分市保健活動定例研修会．大分市保健所，2025.7.

小野美喜

令和 7 年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修．看護専門職論.看護実践における倫理．大分市，2025.8.

令和 7 年度大分県看護協会.実習指導者講習会．「実習指導計画・指導案」．大分市，2025.8.

影山隆之

職場のメンタルヘルス．大分県自治人材育成センターマネジメント研修．大分市，2025.4.

女性労働者の睡眠問題．第 98 回日本産業衛生学会シンポジウム 5 安全・安心を衛る睡眠研究の最近の動向．仙台市，2025.5

犬猫多頭飼育問題等発生の原因とその対策の考え方．大分市，2025.6

風車騒音による健康影響：全国風力発電所周辺の住民調査から．日本弁護士連合会公開学習会 風力発電による騒音・低周波音問題の健康影響と規制の必要性について～再生可能エネルギーのより一層の推進のために．オンライン，2025.6

メンタルヘルス：管理監督者が知っておきたいこと．大分県自治人材育成センター新任課長級研修．大分市，2025.6.

睡眠と健康．大分産業保健総合支援センター衛生管理者研修．大分市，2025.7.

睡眠と健康管理．大分産業保健総合支援センター産業医研修．大分市，2025.7.

日田市でできる自殺対策．日田市自殺対策委員会講義．日田市，2025.7

日田市でできる自殺対策．日田市自殺庁内推進委員会講義．日田市，2025.7

日本の自死予防のパイオニアから教わったこと．第 49 回日本自殺予防学会総会齋藤友紀雄先生追悼シンポジウム，2025.9

職場のストレスマネジメント：快適環境づくり．令和 7 年度全国労働衛生週間説明会．日田市，2025.9

睡眠と健康～質の良い睡眠のとり方．日田市民公開講座．日田市，2025.11

自殺予防のためにできること．宇佐市自殺対策ゲートキーパー研修．宇佐市，2025.11

教員のための SOS の受け方研修. 日本精神衛生学会第 41 回大会研修会「若い人達の心に届く支援を考える」. 札幌市, 2025.12

子どもの自殺リスクと校内での対応. 由布市学校保健安全研究大会. 由布市, 2026.1

自殺予防につながる子どもの発達支援. 豊後大野市学校保健会学校保健安全研究協議大会. 豊後大野市, 2026.2

川南公代

保健師教育課程（公衆衛生看護学）（地域・在宅看護論）. 2025 年度保健師助産師看護師実習指導者講習会. 大分県看護協会, 2025.6.

保健師が世代を超えて受け継ぎ、そして受け継ぐもの. 令和 7 年度地域保健総合推進事業「九州ブロック保健師等研修会」. （財）日本公衆衛生協会. 大分県, 2025.7.

中堅期保健師に求められる公衆衛生看護管理. 令和 7 年度大分県中堅保健師研修会. 大分県医師会, 2025.8.

保健師の技を伝承していくために～達成体験をリフレクションしよう～!. 令和 7 年度全国保健師長会大分県支部研修. 大分県看護協会, 2025.10.

地区活動に活かすための地域診断. 令和 7 年度東部圏域新任期保健師・栄養士人材育成に係る研修会. 大分県東部保健所, 2025.7.

各階層に求められる公衆衛生看護管理. 令和 7 年度保健職人材育成研修（後期）. 福岡県久留米市, 2026.2.

草野淳子

令和 7 年度第 1 回医療的ケア看護師研修会. 大分県教育委員会, 2025.4.

令和 7 年度第 2 回医療的ケア看護師研修会. 大分県教育委員会, 2025.8.

令和 7 年度第 2 医療的ケア教員研修会. 大分県教育委員会, 2025.7.

令和 7 年度第 3 医療的ケア教員研修会. 大分県教育委員会, 2025.7.

令和 7 年度保健師助産師看護師実習指導者講習会. 大分県看護協会, 2025.7.

令和 7 年度やってみよう看護研究 3 質的研究と分析. 大分県看護協会, 2025.8.

令和 7 年度医療的ケア研修会. 大分県立日田支援学校, 2025.8.

桑野紀子

看護職という専門職の魅力・可能性～あなたの未来を拓く～. 大分県立臼杵高等学校, 2025.7

研究でつながろう！ネットワーキングで深める国際看護. 神奈川県立保健福祉大学, 2025.9

古賀雄二

国立病院機構熊本医療センター看護部公開看護セミナー講師：せん妄と看護～せん妄ケアは包括的患者生活管理である～

アルメイダ病院看護部ラダーⅡ・Ⅲ対象研修講師：看護倫理

後藤成人

ギャンブル依存症セミナー. NPO 法人全国ギャンブル依存症家族の会. 大分市, 2025. 5.

定金香里

初年次地域キャリアデザインワークショップ. 大分大学地域連携プラットフォーム推進事業. 大分市, 2025. 6.

品川佳満

やってみよう看護研究 2 量的研究と分析. 大分県看護協会教育研修. 大分市, 2025.8.

首藤佐織

地域診断を自身の保健活動に活かそう. 令和 7 年度新任期保健師・管理栄養士地域診断取組説明会. 大分県宇佐総合庁舎, 2025.6

秦さと子

看護論・看護理論. 2025 年度保健師助産師看護師実習指導者講習会. 大分市, 2025.6.

基礎看護学における実習指導. 2025 年度保健師助産師看護師実習指導者講習会. 大分市, 2025.8

杉本圭以子

やってみよう看護研究 1 テーマの絞り方から研究開始まで. 大分県看護協会教育研修. 大分市, 2025.5.

やってみよう看護研究 4 看護研究のまとめ方とプレゼンテーション. 大分県看護協会教育研修. 大分市, 2025.8.

精神看護学における実習指導 保健師助産師看護師実習指導者講習会. 大分県看護協会教育研修. 大分市, 2025.7.

関根剛

被害者の心理. 全国被害者支援ネットワーク「外国人被害者支援のための基礎知識」. ZOOM, 2025.5.

対話の基本・カウンセリング基礎知識. 大分県警察安全相談・犯罪被害者等支援専科教養. 大分市, 2025.5

子どもたちのストレス対処の仕方をどう育てるか. 国東中学校. 国東市, 2025.6.

チーム力を向上させるコミュニケーション. フォローアップ研修「人間関係構築力向上」大分県教育センター. 大分市, 2025.6.

カウンセリング理論の理論と実際(2) カウンセリングスキル. 大分いのちの電話電話相談員養成講座. 大分市, 2025.6.

電話対応のそれぞれの質問に答えます. 大分いのちの電話全体研修会. 大分市, 2025.6.

カウンセリングスキルの基礎・犯罪被害者に対する電話対応の仕方. 山口被害者支援センター被害

者支援員養成講座. 山口県, 2025.7.

信頼を築くコミュニケーション. 新規採用栄養教諭研修・栄養教諭フォローアップ研修. 大分県教育庁体育保健課. 大分市, 2025.7.

相談支援技術・被害者に寄り添う. かがわ被害者支援センターボランティア支援員養成講座. 香川県, 2025.7.

犯罪被害者支援の質の向上を目指して. かがわ被害者支援センター継続研修. 香川県, 2025.7.

支援者の自己理解（チームワークとメンタルケア）. 全国被害者支援ネットワーク中国四国質の向上研修. 岡山県, 2025.8.

性犯罪被害者の心理と支援・支援者の二次受傷・惨事ストレス対策. 大分県警察学校性犯罪捜査専科教養. 大分市, 2025.8.

カウンセリング理論の理論と実際（２）カウンセリングスキル. 大分いのちの電話電話相談員養成講座. 大分市, 2025.9.

チャイルドラインで子どもの声を受けるために（ロールプレイ／自分を知るワークショップ）. チャイルドライン大分電話・オンラインチャット受け手ボランティア養成講座. 大分市, 2025.9.

犯罪被害者に対する電話対応・支援者のストレスとサポート. 山口県警察学校犯罪被害者支援専科. 山口県, 2025.10.

大分東警察署被害者等支援連絡協議会. 大分市, 2025.10.

自殺予防ゲートキーパー研修会（介護予防サポーター等対象）. 臼杵市役所. 臼杵市, 2025.10.

自殺予防ゲートキーパー研修会（子ども家庭支援センター等対象）. 臼杵市役所. 臼杵市, 2025.10.

自殺予防ゲートキーパー研修会（子ども家庭支援センター等対象）. 大分市保健所. 大分市, 2025.10.

惨事ストレス. 大分県消防学校消防職員専科教養警防科. 由布市, 2025.11.

支援者が受けるストレスとメンタルケア・助言指導の在り方. 全国被害者支援ネットワーク支援活動責任者研修. 東京都, 2025.12.

犯罪被害者の心理とその支援. 被害者サポートセンターおかやま.

事例検討会. チャイルドライン大分継続研修. 大分市, 2026.1.

人材育成（１）助言・指導のありかた. 全国被害者支援ネットワーク（中国・四国ブロック）質の向上研修. 高知県, 2026.1.

イギリス APCC. イギリス catch22. 全国被害者支援ネットワーク海外調査事業報告会. ZOOM, 2026.2.

人材育成（２）育成される側から育成する側へ. 全国被害者支援ネットワーク（九州・沖縄ブロック）質の向上研修. 宮崎県, 2026.2.

信頼関係を築くコミュニケーション. 大分市保健所ゲートキーパー養成研修（専門コース②）. 大分市, 2026.2.

被害者への関わり方について. 大分被害者支援センター被害者支援ボランティア養成講座. 大分市, 2026.3.

地域だからできる自殺予防. 国東市役所自殺予防ゲートキーパー研修会. 国東市, 2026.3.

惨事ストレス. 大分県消防学校消防職員専科教養救命科. 由布市, 2026.3.

坪内優太

骨粗鬆症の病態理解と理学療法. 一般社団法人 大阪府理学療法士会生涯学習センター 令和 7 年度 大阪府理学療法士会生涯学習センター主催研修会. オンライン, 2025.5

骨代謝の視点から考える骨粗鬆症の予防と理学療法. XPERT prime セミナー. オンライン, 2025. 7
令和 7 年度大分県教育委員会免許法認定講習「養護概論」. 大分県教育委員会 令和 7 年度大分県教育委員会免許法認定講習. 大分市, 2025. 7

病態から再考する骨粗鬆症の予防と口腔機能・栄養. 大分健生病院 NST 学習会. 大分市, 2025.10

濱中良志

高校生を対象とした ZOOM での夢ナビ講義

樋口幸

新生児の優しい保清・スキンケア方法-赤ちゃんによりよい未来を届けたい-. 大分県助産師会 第 1 回研修会 アドバンス助産師認証制度選択研修. 大分市. 2025.6.

福田広美

大分県看護協会令和 7 年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル. 組織管理論. 大分市, 2025.8.

大分県看護協会令和 7 年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル. 統合演習. 大分市, 2025.9.

三苫美和

実習指導計画・指導案の作成 (第 3 回・第 4 回). 大分県立病院 臨地実習指導者短期教育プログラム. 大分市, 2025.11

看護研究をはじめよう. 大分赤十字病院看護師研修会. 大分市, 2026.2

吉村匠平

構成的エンカウンターグループを用いたコミュニケーション演習. 大分医師会立アルメイダ病院 新入職員研修. 大分, 2025.6.

プリセプターシップに関わる事例検討会～PCAGIP 法を使って. 大分医師会立アルメイダ病院プリセプター研修. 大分, 2025.7.

愛着概念の理解. 大分県 SSW 研修. 大分, 2025.10.

大分県教員育成ガイダンス. 大分県立大分鶴崎高校. 大分西高校. 大分上野丘高校. 大分雄城台高校. 宇佐高校. 大分. 宇佐, 2025.10.

愛着障害の理解. 玖珠九重地区養護教諭部会研修講師. 大分, 2025.11.

安全運転と睡眠. 令和 7 年度安全運転管理者講習. 大分, 2025.11.

6-2 非常勤講師

麻原きよみ

国際医療福祉大学大学院 公衆衛生看護学原論
東京科学大学大学院 看護倫理
東京大学大学院 行政看護学
富山県立大学 環境保健論
聖路加国際大学大学院 公共哲学・保健医療福祉システム特論

安部涼子

藤華医療技術専門学校 看護学科 臨床病態学演習I・フィジカルアセスメント・国家試験対策

稲垣敦

大分医学技術専門学校 運動学

井上陽士

藤華医療技術専門学校 看護の統合と実践III「救急看護」
大分県看護協会 検査データを読み取り看護実践に活かそう

梅野貴恵

藤華医療技術専門学校助産学科 助産学研究

恵谷玲央

久留米大学認定看護教育センター がん放射線療法看護分野、放射線療法における放射線の安全な取り扱い

小嶋光明

久留米大学認定看護教育センター

影山隆之

別府大学文学部人間関係学科 精神保健の課題と方法I, II
別府市医師会看護専門学校 精神看護学概論、精神看護の方法I

桑野紀子

藤華医療技術専門学校 国際社会と看護
宮崎県立看護大学看護学部 国際看護論
高知大学大学院実践助産学課程 地域助産活動論

古賀雄二

亀田医療大学院 CNS コース

金沢医科大学 CNS コース

後藤成人

中津ファビオラ看護学校 看護研究

中津ファビオラ看護学校 看護師国家試験対策

佐伯圭一郎

別府医師会立別府青山看護学校 情報科学, 情報科学演習

藤華医療技術専門学校 情報科学II

定金香里

大分リハビリテーション専門学校 生理学 I、生理学 II、生理学国試対策補講

品川佳満

別府医師会立別府青山看護学校 情報科学

関根剛

大分大学医学部医学科 導入II (自己理解のための心理臨床学入門)

大分大学医学部看護科 臨床心理学

大分医学技術専門学校 心理学

大分平松総合医療専門学校臨床工学科 コミュニケーション学

濱中良志

養護教諭のための教育講演講義

地域連携プラットフォーム 国際健康コンシェルジェ養成講座

大分平松総合医療専門学校 臨床検査学科 生化学

智泉福祉製菓専門学校 社会福祉士学科・精神保健福祉学科 医学一般

樋口幸

藤華医療技術専門学校助産学科 助産学研究

宮内信治

大分県立芸術文化短期大学 英語I

持田恵理

群馬大学保健学科 地域看護学方法論演習Ⅲ 政策形成過程

東北大学大学院医学系研究科保健学専攻 公衆衛生看護学活動論Ⅱ 在日外国人に対する公衆衛生看護活動

東京都立大学 健康福祉学部 地域看護学概論 地域包括ケアシステム

聖路加国際大学 公衆衛生看護学特論Ⅲ プロフェッショナリズム

南部保健所 保健師活動に活かす地域診断

大分県看護協会 保健師管理者能力育成研修

6-3 研究指導

荒木章裕

大分県立病院

石丸智子

独立行政法人国立病院機構 別府医療センター

恵谷玲央

大分医師会立アルメイダ病院

小嶋光明

大分県立病院

小野治子

独立行政法人国立病院機構 大分医療センター

影山隆之

親和会衛藤病院

古賀雄二

アルメイダ病院

後藤成人

医療法人社団親和会 衛藤病院

医療法人とよみ会 仲宗根病院

定金香里

大分赤十字病院

品川佳満

独立行政法人国立病院機構 大分医療センター

秦さと子

大分赤十字病院

中釜英里佳

大分赤十字病院

濱耕子

医療法人社団親和会 えとう内科病院 研究支援

吉田成一

独立行政法人国立病院機構 別府医療センター

6-4 学会役員等

麻原きよみ

一般社団法人日本看護系大学協議会 副代表理事
一般財団法人日本看護学教育評価機構 評議員
一般社団法人日本地域看護学会 理事・代議員
一般社団法人日本看護倫理学会 理事(2025年6月まで)・課題検討委員会 委員
一般社団法人日本公衆衛生看護学会 監事・代議員
公益社団法人日本看護科学学会 代議員
一般社団法人聖路加看護学会 評議員
一般社団法人日本公衆衛生学会 代議員
一般社団法人日本在学ケア学会 代議員

安部涼子

日本 NP 学会九州地方会 副会長
第2回日本 NP 学会九州地方会学術集会 大会長

荒木章裕

日本ヒューマンケアリング学研究会 理事兼編集委員

石田佳代子

大分県看護協会 実習指導者講習会運営委員会 委員長
日本看護系大学協議会 災害支援対策委員会 災害連携教員
日本 NP 教育大学院協議会 監事
日本 NP 教育大学院協議会 資格更新制度委員会委員
大分岡病院 特定行為研修管理委員会委員

石丸智子

日本救急看護学会雑誌 専任査読委員

稲垣敦

日本スポーツ救護看護学会 顧問

梅野貴恵

日本助産診断実践学会 理事・編集委員
一般社団法人 日本助産学会 代議員
大分県母性衛生学会 理事・副会長

宇留嶋佳子

一般社団法人大分県助産師会 教育委員

恵谷玲央

日本保健物理学会 コミュニケーション委員会委員

日本放射線影響学会 放射線リスク・防護検討委員会

日本アイソトープ協会 放射線安全取扱部会 広報専門委員会委員

日本保健物理学会 医療被ばく国民線量評価委員会

日本放射線影響学会 論文紹介企画小委員会委員

小嶋光明

日本放射線影響学会理事

大分大学医学部附属病院臨床研究審査委員会委員

日本放射線影響学会放射線リスク・防護検討委員会委員長

日本保健物理学会倫理委員会委員

放射線生物研究編集委員会委員

放射線影響懇話会世話人

小野治子

一般社団法人日本看護系大学協議会 50周年記念事業プロジェクト委員

小野美喜

日本看護協会特別委員会 ナースプラクティショナー（仮称）制度検討委員

日本看護倫理学会評議員・理事

日本看護倫理学会学術活動推進委員長

日本 NP 教育大学院協議会理事・副会長

日本 NP 教育大学院協議会 制度検討委員会委員長

大分県立病院 地域医療支援病院運営委員会委員

甲斐博美

日本 NP 学会九州地方会 監事

影山隆之

日本精神衛生学会 理事長

日本精神衛生学会 編集委員

日本自殺予防学会 常務理事

日本自殺予防学会 編集委員長

日本学校メンタルヘルス学会 評議員

日本学校メンタルヘルス学会 編集委員

日本産業ストレス学会 評議員

日本産業精神医学会評議員

日本看護科学学会 編集委員

草野淳子

一般社団法人日本小児看護学会 評議員

一般社団法人日本小児看護学会 災害対策委員

日本 NP 教育大学院協議会 NP 資格認定試験 委員

日本 NP 学会第 11 回学術集会 査読委員

桑野紀子

一般社団法人日本国際看護学会 理事

一般社団法人日本国際看護学会 研究委員会 委員長

一般社団法人日本国際看護学会 学会賞・奨励賞選考委員会 委員

一般社団法人日本国際看護学会第 9 回学術集会企画・準備委員会 委員

古賀雄二

日本看護科学学会和文誌専任査読委員

日本クリティカルケア看護学会評議員

日本クリティカルケア看護学会せん妄ケア委員会委員

日本クリティカルケア看護学会専任査読委員

日本救急看護学会評議員

日本救急看護学会専任査読委員

日本看護学会誌査読委員

看護科学研究査読委員

大分県看護協会学会委員会副委員長

後藤成人

一般社団法人 日本精神科看護協会 大分県支部 教育委員長

九州アルコール看護研究会 委員

佐伯圭一郎

日本テスト学会編集委員

定金香里

日本生理学会 評議員
日本大気環境学会健康影響分科会 幹事
日本大気環境学会九州支部会 役員

首藤佐織

第 56 回（2025 年度）日本看護学会学術集会 抄録選考委員

関根剛

公益社団法人 全国被害者支援ネットワーク 理事（九州沖縄ブロック担当）
公益社団法人 大分被害者支援センター 副理事長
社会福祉法人 大分いのちの電話協会 理事・スーパーバイザー

坪内優太

大分 OLS ネットワーク 世話人
第 30 回日本基礎理学療法学会学術大会 準備委員 広報部長
一般社団法人 日本運動器理学療法学会 評議員

中釜英里佳

日本看護倫理学会 学術活動推進委員

永松いずみ

大分県母性衛生学会 幹事
第 56 回（2025 年度）日本看護学会学術集会 抄録選考委員

西田裕子

日本 NP 学会 九州地方会役員 会計

濱耕子

日本看護学教育学会誌 専任査読者
日本助産学会誌 専任査読委員
大分県母性衛生学会 理事

濱中良志

癌・炎症と抗酸化研究会 世話人

樋口幸

大分県看護協会 助産師職能理事 兼 助産師職能委員長
看護理工学会 評議員
看護理工学会 将来構想委員会委員
日本助産学会学会誌 専任査読委員

姫野綾

大分県助産師会 教育委員

堀裕子

一般社団法人日本放射線看護学会 編集委員
日本認知症予防学会 査読委員

宮内信治

日本英語教育音声学会 常任理事
日本看護倫理学会編集委員会 委員

吉田成一

日本アンドロロジー学会 評議員・理事
日本アンドロロジー学会 学会賞 審査委員
精子形成・精巣毒性研究会 評議員
大気環境学会健康影響分科会 幹事
大気環境学会論文賞選考委員

6-5 その他委員等

麻原きよみ

厚生労働省 医道審議会保健師助産師看護師分科会 保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部
会 委員
千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター運営協議会 委員
大分県都市計画審議会 委員
大分県医療審議会 委員
健康寿命日本一おおいた創造会議 委員
生涯健康県おおいた 21 推進協議会 委員
大分県国民保護協議会 委員
大分県公立学校教育協議会 委員
大分県石油コンビナート等防災本部員 委員
特定非営利活動法人大学コンソーシアムおおいた 理事
おおいた地域連携プラットフォーム 監事
野津原地域まちづくりビジョンフォローアップ会議 委員

安部涼子

リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2025 大分 実行委員

荒木章裕

令和 7 年度大分県中小規模病院等看護管理者支援事業 支援者

石丸智子

大分市救急業務検討委員会 委員
大分市救急医療電話相談事業（＃7119）検証委員会 委員

小野治子

全国保健師教育機関協議会 教育評価推進委員会 委員
大分市建築審査会委員 委員
大分市風俗関連営業建築物審査会委員 委員
大分市開発審査会 委員
大分県国民健康保険団体連合会情報公開および個人情報保護審査会 委員
大分県国民健康保険団体連合会介護サービス苦情処理委員会 委員
大分県保健師連絡会 委員

小野美喜

大分県社会福祉審議会 委員
大分市高齢者福祉計画/介護保険事業計画策定委員

甲斐博美

特定行為研修推進連絡会（大分県特定行為研修普及啓発事業） 委員
大分大学医学部附属病院 特定行為管理委員会 外部委員
社会医療法人関東会大東よつば病院 特定行為管理委員会 外部委員
日本 NP 学会第 11 回学術集会 査読委員
大分大学医学部附属病院 特定行為研修 OSCE 第三者評価者

影山隆之

大分県ギャンブル等依存症対策推進協議会 会長
大分県自殺対策連絡協議会 副会長
大分県精神疾患医療連携協議会 委員
大分県アルコール健康障がい対策推進協議会 委員
大分県公害審査会調停委員会 委員
大分市民のこころといのちを守る自殺対策行動計画策定推進検討委員会 会長
別府市自殺対策計画策定推進委員会 委員長
豊後大野市自殺対策連絡協議会 助言者
日出町自殺対策連絡協議会 委員
中津市自殺対策連絡協議会 委員長
第 3 次健康ここのえ 21 計画策定委員会 委員長
大分産業保健総合支援センター 産業保健相談員
大分県社会福祉協議会日常生活自立支援事業契約締結審査会 審査委員

川南公代

大分市社会福祉審議会 委員
大分県医療費適正化推進協議会 委員
大分県ナースセンター事業運営委員

草野淳子

令和 7 年度大分県立大分県立特別支援学校 第三者評価委員
令和 7 年度大分県障害児適正就学指導委員会・病弱・虚弱部会 委員
令和 7 年度大分県訪問看護推進協議会 委員
令和 7 年度大分県立病院看護師特定行為研修管理委員会 委員
令和 7 年度大分県立病院特定行為研修 OSCE 試験評価者
令和 7 年度社会福祉法人別府発達医療センター倫理委員会 外部委員

令和7年度大分県小児保健学会役員
九州・沖縄小児看護教育研究会 幹事
小児糖尿病サマーキャンプボランティア

桑野紀子

大分県・大分市日中友好協会 大分武漢学生オンライン交流会実行委員会 委員
別府市外国人患者対策検討委員会 委員

後藤成人

大分県アルコール依存症対策推進協議会 会長
大分アクションフォーラム 実行委員
日本精神衛生学 研修委員

佐伯圭一郎

大分市宇曾山荘指定管理者予定者選定等委員会委員

定金香里

大分県理科化学教育懇談会 幹事
大分県リサイクル認定製品審査会 委員
大分県公害審査会 委員

佐藤栄治

大分県脳卒中懇話会 世話人

品川佳満

大分県情報公開・個人情報保護審査会 委員

篠原彩

令和7年度 重層的支援体制構築に向けたスーパーバイズ事業 スーパーバイザー

首藤佐織

大分県公衆衛生協会 評議員

杉本圭以子

大分地方労働審議会 委員
大分県自殺対策連絡協議会 委員
大分県看護協会教育委員会 委員

関根剛

総務省消防局緊急時メンタルサポートチーム・メンバー
大分県 DPAT 運営委員・メンバー

妻木美香

一般社団法人日本看護系大学協議会 50 周年記念事業プロジェクト委員

中釜英里佳

一般社団法人日本看護学習支援協会 理事

永松いずみ

第 56 回（2025 年度）日本看護学会学術集会 抄録選考委員

濱耕子

おおいた地域連携プラットフォーム教育プログラム開発部会 FD・SD 事業ワーキンググループ
構成員
第 5 期大分市地域福祉計画・第 6 次地域福祉活動計画策定委員会 委員

樋口幸

大分市産業活性化プラザ産学官連携推進事業検討委員会 委員

福田広美

大分県看護協会令和 7 年度認定看護管理者教育課程運営委員
大分県中小規模病院等看護管理者支援協議会
大分県在宅医療連携協議会

堀裕子

大分県介護保険審査会の公益代表委員
国立感染症研究所 IHEAT 要員

三苫美和

大分県准看護師試験委員

宮内信治

大分県高等学校教育研究会英語部会 顧問

持田恵理

大分県国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員会 委員

大分県国民健康保険審査会 委員

大分県国民健康保険運営協議会 委員

大分県後期高齢者審査会 委員

大分市国民健康保険運営協議会 委員

吉田成一

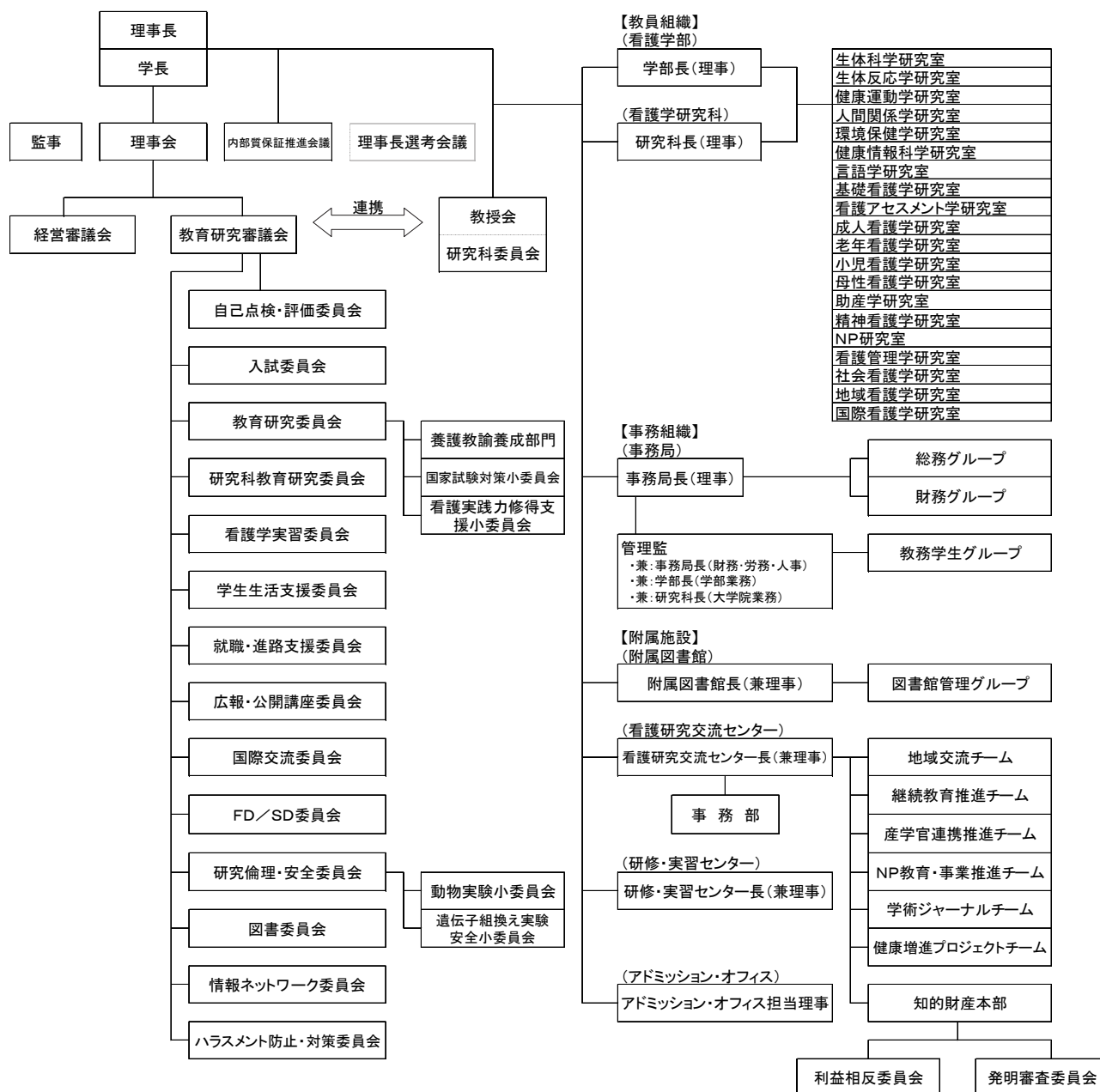
大分県 喫煙対策部会 委員

7 教学・事務組織

7-1 組織図（法人組織図）

法人組織図

令和7年4月 大分県立看護科学大学



7-2-1 理事会

理事長 麻原きよみ

学内理事 福田広美、稲垣敦、阿部剛

学外理事 井原健二、宇都宮徹、渡邊規生

監事 村松政幸、中野洋子

理事会の役割は、法人の運営に関する重要事項を審議することである。本年度は新理事長が着任し合計 4 回の理事会を開催した。主な内容は年度計画に関する事項、地方独立行政法人により知事の許可または承認を受けなければならない事項、重要な規定の制定または改正、予算の作成及び執行並びに決算、教員及び事務職員の人事及び評価などについて審議した。

特記すべき報告および審議事項として、第 1 回は、第 4 期中期計画評価指標令和 6 年度実績及び第 4 期中期計画期間 1 年目事業年度における実績、令和 6 年度決算、令和 6 年度事業実績調書について審議を行った。さらに、DNP コース設置に係る令和 8 年度カリキュラムの提案と大学院学則の一部改正について審議した。第 2 回は、学則や学位規定の一部改正、学術相談に関する扱いについて審議が行われた。その他、令和 7 年度第 1 回地方独立行政法人評価委員会について報告した。第 3 回は、第 4 期中期計画具体策の取組状況、大学院学則および学位規程の一部改正として広域看護学コースのカリキュラムの一部改正、博士後期課程の修了要件の改定等について審議を行った。また、令和 7 年度中間決算、令和 8 年度予算編成方針について審議した。第 4 回は、第 4 期中期計画令和 7 年度実績見込み・令和 8 年度具体策、学術ジャーナル「看護科学研究」廃刊、令和 8 年度予算および事業計画について審議を行った。その他、名誉教授の称号授与について報告が行われた。

大学の円滑な運営のために活発な意見をいただいております、今後も引き続き、外部理事の方々の意見をいただき議論をして決定するよう進める。

7-2-2 内部質保証会議

議長 麻原きよみ

構成員 阿部剛（事務局長）、福田広美（学部長）、稲垣敦（研究科長）、

佐伯圭一郎（自己点検・評価委員長）、【氏名非公開】（入試委員会委員長）、

小野美喜（学生生活支援委員会委員長）、川南公代（就職・進路支援委員会委員長）、

濱耕子（FD/SD 委員会委員長）、川島貴博（総務グループリーダー）、

小野逸郎（財務グループリーダー）、吉野美穂（教務グループリーダー）

本会議は、当大学の内部質保証に関する総括的な評価を行うことである（大分県立看護科学大学内部質保証推進会議設置要綱第 1 条）。また、分掌事項は、(1)内部質保証に関する規程第 4 条第 2 項、第 5 項及び第 6 項に関する自己点検・評価委員会への指示に関すること、(2)内部質保証に関する規程第 4 条第 5 項に定める認証評価及び公立大学法人評価において、自己点検・評価委員会が作成し

た評価原案の承認に関すること、(3)内部質保証に関する規程第4条第6項に定める評価に対する改善及び向上の取組案の承認に関すること、(4)その他内部質保証に関し必要なこと、である（大分県立看護科学大学内部質保証推進会議設置要綱第2条）。

第4期中期計画では、毎年1回の開催を目標としているが、今年度は4回開催した。第1回（5月14日）は、大分県公立大学法人に対する評価基本方針等の改定にともなう各実績報告書の作成について及び今後の中期計画評価指標進捗管理についての検討を行った。第2回（6月11日）は、第4期中期計画評価指標の指標管理に係る令和6年度実績、第4期中期計画期間1年目事業年度における実績報告書を承認した。第3回（12月3日）は、第4期中期計画評価指標の指標管理に係る令和7年度実施状況を承認し、第4期中期計画評価指標 期中通算達成項目の今後の対応について検討を行った。第4回（3月3日）では、第4期中期計画 令和7年度実績見込・令和8年度具体策について承認した。

次年度も、第4期中期計画の進捗管理を中心に審議する。

7-2-3 経営審議会

理事長 麻原きよみ

学内理事 福田広美、稲垣敦、阿部剛

学外理事 井原健二、宇都宮徹、渡邊規生

経営審議会委員 千野博之、吉村充功、佐藤政昭、玉井保子

本審議会の役割は、法人の経営に関する重要事項を審議することである。法人の経営状況について報告し、審議した。

本年度は4回の経営審議会を開催し、年度計画に関する事項のうち、法人の経営に関するもの、地方独立行政法人により知事の許可または承認を受けなければならない事項のうち法人の経営に関するもの、重要な規定の制定または改正に関する事項のうち法人の経営に関するもの、予算の作成及び執行並びに決算、教員及び事務職員の人事及び評価に関する事項のうち法人の経営に関するもの、組織及び運営の状況について自ら行う点検および評価などについて審議した。

なお、理事会成員は、経営審議会の委員も兼ねており、審議内容も関係することから経営審議会と同時に開催し、特記すべき報告および審議事項は、理事会と同様の内容である。

運営費交付金が年々減額されていく状況のなかで、外部資金の獲得をさらに推進すること、大学の魅力を発信し優秀な学生の継続的な確保の戦略が必要であり、効果的・効率的な経営に関して継続的に審議する。

7-2-4 教育研究審議会

学長 麻原きよみ

学部長 福田広美

研究科長 稲垣敦

事務局長 阿部剛

委員 津村弘（学外委員）、梅野貴恵、小嶋光明、小野美喜、川南公代、持田恵理、影山隆之

草野淳子、桑野紀子、古賀雄二、佐伯圭一郎、秦さと子、石田佳代子、濱中良志、濱耕子

宮内信治、吉田成一、関根剛、甲斐博美

令和 7 年度の教育研究審議会における主な重点審議事項について、成果や大学運営上の効果、今後の課題等を以下に示す。

1.大学のミッション・ビジョン・バリュー（MVV）の策定

大学のミッション・ビジョン・バリューを明確にするため、タスクグループの答申に基づき検討を行った。審議の結果、ミッションを「人と社会の“Well-being な未来”をともに拓く ～Enjoy Challenges! Encourage Innovation!～」と定め、ビジョン、バリューについても決定し、日本語や英語表記、ロゴデザインについても確定した。大学のミッション・ビジョン・バリューが明確化されることで、新たな理念を大学から発信でき、学内外において共有することで、MVV をもとに大学運営や、教育、研究、地域社会貢献を目指すことが可能となった。今後は、MVV を教職員や学生と共に活用し、理念を実現していくことが課題である。

2.大学院博士後期課程 DNP コースの新設

大学院博士後期課程において高度な看護実践能力を持つ人材を育成するため、令和 8 年度から DNP コース設置に向けて教育カリキュラムや学則、規程等について審議を行った。DNP コースの開設準備が整うことで、大学院博士前期課程を修了した多くの高度な看護実践者に新たな教育の機会を提供できることとなった。今後は、DNP コースに入学してくる学生により良い教育を提供し、学生がディプロマ・ポリシーに示される能力を身につけ、社会に貢献できるようにすることが課題である。

3.学部教育におけるカリキュラム改革と国際看護学修プログラム新設

令和 4 年度カリキュラムが令和 7 年度に完成年度となり、令和 10 年度カリキュラムの改訂に向けたスケジュールや検討体制等について審議を行った。学生にとって、さらに学びやすいより良いカリキュラムの改訂を開始することができた。令和 8 年度は、カリキュラム改定を進め、文部科学省へ申請できるようにすることが課題である。

令和 8 年度から新たに「国際看護学修プログラム」の導入を決定し、グローバルな視点を持つ看護職の育成を強化することとした。国際看護学に関心のある学生の能力を伸ばす機会を増やすことができた。令和 8 年度は、国際看護学修プログラムを受講する学生の学びを支援することが課題である。

4.危機管理体制等の改善

大学における危機対応の改善に関する第二次答申案を審議し、具体的な危機管理マニュアルの策定や備蓄物資の検討など、学生・教職員の安全を確保するための体制整備に関する事項を決定した。これにより、大学における危機管理体制が充実し、学生や教職員の安全を確保できることとなった。今後は、新たな危機管理体制等を実装させ、評価、改善を行うことが課題である。

7-2-5 教授会

学長 麻原きよみ

学部長 福田広美

委員 足立綾、荒木章裕、石田佳代子、石丸智子、稲垣敦、梅野貴恵、恵谷玲央、小嶋光明、小野治子、小野美喜、影山隆之、甲斐博美、川南公代、草野淳子、桑野紀子、古賀雄二、後藤成人、佐伯圭一郎、定金香里、佐藤栄治、品川佳満、首藤佐織、篠原彩、秦さと子、杉本圭以子、関根剛、藤内美保、濱中良志、濱耕子、樋口幸、堀裕子、宮内信治、三苫和美、持田恵理、中釜英里佳、永松いずみ、吉田成一、吉村匠平、西田裕子

本教授会の役割は、大学の教育課程の編成に関する事項、学生の入学、卒業、その他の在籍に関する事項、学生の表彰及び懲戒に関する事項の審議を行うことである。

本年度は4回の教授会を開催し、学部入試の合否判定、卒業判定、および学生の表彰に関する事項について審議・承認した。令和7年度の卒業生は85名であった。4年次の学生表彰は、学長賞1名、優秀賞2名、卒業研究発表優秀賞6名、学生賞1名の計10名、2年次生の表彰は2名、3年生の表彰は2名が承認された。教育研究審議会で審議・承認された休学、復学、退学、進級判定についての事項は教授会で報告された。

令和8年度入学生は84名、卒業生は82名を予定している。今後も入学、卒業に関して量的、質的な観点から審議し、今後も優秀な学生の輩出に向けて努力する。

7-2-6 研究科委員会

学長 麻原きよみ

研究科長 稲垣敦

委員 荒木章裕、石田佳代子、石丸智子、梅野貴恵、恵谷玲央、小嶋光明、小野治子、小野美喜、影山隆之、草野淳子、桑野紀子、古賀雄二、佐伯圭一郎、定金香里、品川佳満、秦さと子、杉本圭以子、関根剛、濱中良志、濱耕子、樋口幸、福田広美、堀裕子、宮内信治、持田恵理、森加苗愛、吉田成一、吉村匠平

本学大学院看護学研究科は、看護学及び関連領域の理論及び応用の教授研究を通して、より高い専

門性を有し、看護の実践、教育及び研究において指導的役割を果たすことのできる人材を育成し、もって地域社会における健康と福祉の向上及び看護学の進展に寄与することを目指しており（大分県立看護科学大学大学院学則第1条）、当委員会の分掌事項は、(1)学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項、(2)学位の授与に関する事項、(3)学生の表彰及び懲戒に関すること、(4)前3号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項である（大分県立看護科学大学大学院研究科委員会規程第8条）。

昨年度、大学院設置基準に基づいて指導体制を変更するため、研究科委員会規程を変更し（第11回教育研究審議会：3月13日、第5回理事会・経営審議会：3月19日）、研究指導教員（主・副指導教員）を教授及び准教授と定めたことに伴い、今年度より委員は、教授及び准教授となった。また、昨年度、学長からの提案で制定した大学院生の表彰制度を活用して、佐賀県大規模火災で支援活動を行った4名のNPコース修了生に対し、卒業式・修了式（3月18日）で学長賞を授与した。

今年度は、博士論文の合否判定・後期修了判定（第1回：7月9日）、特別選抜の合否判定（第2回：7月23日）、一般入試の合否判定（第3回：9月4日）、博士論文の合否判定・後期修了判定（第4回：9月30日）、2次募集の合否判定（第5回：12月18日）、助産学コース・広域看護学コース修了判定（第6回：2月12日）、前期・後期修了判定（第7回：3月4日）、博士論文の合否判定・後期修了判定（第8回：3月19日）について審議した。この結果、今年度の修了者（学位授与者）は、修士が31名、博士が5名であった。また、次年度の入学予定者は、博士課程前期が30名（募集人員37名）、博士課程後期が7名（募集人員4名）であった。

第4期中期計画の【2】-2の評価指標の目標値は博士号取得率であり、目標値は「在学年限までに博士号を取得した者の割合80%以上（第4期中の通算）」であるが、過去6年間に在籍年限を迎えた学生の博士号取得率は80.0%であった。

次年度からは、日本では6番目、国公立大学では日本初となる後期DNPコースが開講され、3名の入学生を迎え入れる。このため、上の目標を達成するための具体策として、本学独自の優れたDNP教育を進め、大学院各コースの3Pを見直し、学生に研究指導等に関する調査を実施する予定である。

7-3-1 自己点検・評価委員会

委員長 佐伯圭一郎

副委員長 吉田成一

委員 樋口幸、小野治子、安部涼子、川島貴博、大東直子

自己点検・評価委員会は、本学の教育研究水準の向上を図り、かつ本学の目的及び社会的使命を達成するため、大学の自己点検・自己評価に関すること、内部質保証に関すること、年報の編集・発行に関すること、本学の中期目標・中期計画に関すること、および認証評価その他の第三者評価に関することを分掌している。

第4期中期計画の2年目として、各委員会等の活動の具体策・評価指標と目標・達成状況の取りまとめを継続した。また、法人情報の公開、年報の作成と公開、議事録等の整備など、例年と同様の

活動を実施した。2025 年度年報については、一部記載事項の削減や記載様式や内容の整理など作成に関する見直しを行った。さらに、自己点検・評価に関する技能向上および次の大学機関別認証評価受審に向けて、情報収集と検討を継続した。委員が参加した研修等は、大学教育質保証・評価センターの「2025 年度大学機関別認証評価実務説明会」、日本看護学教育評価機構「第 3 回 JABNE 研修交流集会」、大学教育質保証・評価センター「2025 年度質保証研究会」、高等教育質保証学会「第 14 回大会」である。なお、高等教育質保証学会へは 2026 年度から団体会員として入会することを決定した。

現時点では 2028 年度に大学機関別認証評価の受審を予定しているが、いまだ今後の変更点が不明確な点があり、継続して情報収集と検討を行い、次年度には具体的なスケジュールを確定し、準備を進めることになる。また、当委員会だけでなく、学内の各組織・各教員の自己点検・評価活動の円滑な進行と点検・評価に関するスキルアップを推進することが必要である。

7-3-2 入試委員会

構成員は非公開としている。

入試委員会は、学部の入学者選抜を分掌し、令和 8 年度入学者選抜の全体及び大学入学共通テストの実施を統括するとともに、入学者選抜の方法及び入試広報に取り組んだ。特に今年度から、全ての選抜区分において総合問題を小論文に変更したため、出題内容や、採点基準、および採点方法などの詳細について繰り返し検討したうえで決定し、実施した。各選抜試験実施後に評価し、必要な調整を行った。その結果、大きなトラブルなく実施できた。

選抜試験における面接試験の運用については、面接担当者に実施後に情報収集を行い、意見に基づく改善を行った。

多様な受験生が受験しやすいことを目的に小論文に変更したところであるが、令和 8 年度入学者選抜の出願倍率は、学校推薦型選抜で 2.5 倍、社会人選抜と私費外国人留学生選抜は昨年度と同様に志願者 0 名、一般選抜前期日程は 2.6 倍、一般選抜後期日程は 9.6 倍であり、全体の出願倍率は 3.4 倍となり目標の 4.0 倍には至らなかった。目標達成に至らなかった要因について分析を進めている。

令和 8 年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会に 2 名が参加し、高大接続入試に関する報告や、多様な選抜方法、入試広報に関する情報を収集した。また、大学入学共通テストに関しては、今年度は受験生の出願方法がウェブを利用したシステムに変更となったことから、事業者との連絡、連携テストの実施による実際の運用への準備、学内手順の見直しと周知を行った。また、限られた動員数で効果的な運用となるよう案内係の配置などの見直しを行った。

入試に関する広報活動では、オープンキャンパスや若葉祭、随時受付のキャンパスツアー3 件で進学説明会を開催した。大学入学共通テスト終了後に個別進学相談会をオンラインで開催し、県内 2 名、県外 2 名の受験生と保護者の参加があった。本学開催の高校教諭に対する進学説明会については、案内状送付対象高校を大分県内 55 校、県外高校 57 校に送付し、オンラインと対面のハイブリット形式で 6 月 19 日に開催した。28 校 32 名の教諭が参加、うち会場参加が 19 名、オンライン参加が 13

名であった。昨年度と比較して 5 校増え、県外 2 校の参加があった。県内外の高校生への本学の知名度向上を目的に、業者主催の全国高校生対象の大学合同進学オンラインイベントの大学別説明会（10 月 4 日）に参加し、55 名の高校生が参加した。説明会参加後アンケートは高い関心度であった。教育コンサルタント業者から模試における本学志望者の動向等を聴き取って広報戦略に活用し、九州地区で看護系国公立大学を志望する受験生 800 名を対象に、本学の魅力を PR するデジタルメッセージを送信した。大学ホームページの入試情報の頁を活用して、適時新着情報を掲載していった。

今後も入試の広報と運営方法の両面について改善のための検討を重ねながら、年度計画に沿って活動していく予定である。

7-3-3 教育研究委員会

委員長 福田広美

副委員長 杉本圭以子

委員 石丸智子、古賀雄二、定金香里、品川佳満、阿部剛、葛城奈穂、吉村匠平

1. 教学マネジメント IR・カリキュラム改定

4 年間の看護師基礎教育の評価として、1～4 年次の学生は自己の学修成果を把握するために、ディプロマポリシー（以下、DP）の自己評価を教務情報システム（キャンパススクエアのキャリアカルテ）に入力した。2～4 年次生の各学年における大項目別 DP 平均値はいずれも前年度に比べていずれも高く、4 年次生はすべての項目で 3.5 を上回る結果であった。

アセスメントチェックリストに沿って、多角的な教育成果を可視化、一元化し、教育研究審議会を経て学内で情報共有を行った。また、学生の DP 達成に向けた教育に関する分析結果や、学生を対象とした教育に関するアンケート結果も改善に向けて学内で共有を行った。学部学生の学習成果に関する学外への情報公開として、学生の DP 自己評価結果を HP の大学案内に掲載した。

本年度は、令和 4 年度カリキュラムが完成年を迎え、DP 評価および看護学教育モデル・コア・カリキュラム令和 6 年度改訂版（以下、モデルコアカリキュラム）をもとに新たなカリキュラムに向けた調査を行った。令和 8 年度は、新たなカリキュラムについて、養成する人材と DP、CP および科目構成等の検討を行う。

2. 入学前教育

本委員会は、入学前教育を通して入学者の基礎学力の向上と入学後の学修への円滑な移行を支援することを目的としている。令和 7 年度は昨年度の方針を継続し、「生物学」を入学前学習の重点科目と位置づけ、必要な学習内容をまとめた「わかば通信」を合格者に Web 配信した。あわせて、入学前教育の効果を把握するため、入学直後に入学後テストを実施し、1 学期終了後に入学者を対象としたアンケートを行った。入学後テストの結果、昨年度と比較して低得点層が増加し、高得点層が減少していた。生物未履修者の平均点は履修者より 9.1 点低かったが、その差は昨年度より縮小してい

た。アンケートでは、入学前教育を「役に立った」と回答した学生は90.2%であり、一定の効果が認められた。生物関連科目である「生命科学入門」や「生体構造・機能論」に対して困難感を訴える学生は7割以上いたが、昨年度より減少傾向であった。以上より、入学前教育は一定の効果を示していると考えられるが、全体として入学時における生物の学力低下がみられた。アンケート調査では、勉強の仕方が分からないと回答する学生が多かったことから、次年度の「わかば通信」では、在学生による学習方法の提示や学習ツールの紹介などの内容を拡充する方針とした。

3.シラバス関連

令和8年度の学部シラバスを作成した。シラバス担当者および各領域担当者による2段階のチェック（書式や内容等）を実施し、修正が必要と判断した記載については、科目担当者にコメントを返却し、修正を依頼した。次年度は、適切なシラバス作成を目指すと共に、学生がより学びやすいシラバスの運用に向けて、キャンパススクエアの改修を開始する。

4.総合人間学

様々な分野で活躍されている県内外の講師による講義から構成される科目として運営した。9名が履修し、全員が合格した。本科目はカリキュラム改正に伴い今年度で開講を終了した。

5.教育環境等

講義室のスクリーンが旧型であり、学生が授業の資料を見やすくするため、スクリーン用のライトと併せて、新たなスクリーンに取り換えを行った。次年度は、スクリーンの取り換え効果を評価するとともに、学生が学びやすい教育環境の改善に向けて新たな情報を収集する。

6.卒業研究

令和7年度の卒業研究は、文献研究や二次データを活用した研究が、調査や実験研究が行われた。本年度も担当教員による卒業研究および原著講読のルーブリック評価を行い、一定レベルに到達し単位を修得できた。また、学生による自己評価も実施した。卒業研究発表優秀賞は、卒業研究発表会の3分科会から2名ずつ、合計6名の優秀賞を選出することとし、本年度は合計6名が選出された。

卒業研究発表会は、ZOOMによるオンライン方式で実施した。3つの分科会を同時に進行させ、トラブルなく1日間で全演題の発表が終了した。学生が卒業研究を行う研究室配属について、メール稟議等を含めて検討を行いながら進めた。令和8年度の卒業研究に向けて、継続して検討を行うこととなった。

7.学生表彰

4年次生の学生表彰は学長賞1名、優秀賞2名、卒業研究発表優秀賞6名、学生賞1名の計10名を表彰した。2年次生と3年次生の学生表彰は各学年の学生2名、合計4名に行った。

国家試験対策小委員会、看護実践力習得支援小委員会、進級試験WG、養護教諭養成部門の活動は、別途項目により記載しているため、ここでは省略する。

7-3-3 1) 養護教諭養成部門

部門長 吉村匠平

部門員 秋本慶子、小野治子、葛城奈穂、草野淳子、佐伯圭一郎、関根剛

教職課程（養護教諭一種養成）の運営を担当した。主な業務は、1～3年生対象の履修カルテ面談、1年生希望者を対象としたガイダンス、非常勤講師の時間割（教科書）調整、遠隔講義の実施対応、講義資料の送信、実習校選定業務（大分市教育委員会と連携）、実習校の巡回指導（養護実習Ⅰ、Ⅱ）、養護実習Ⅰ履修者選考（令和7年度は9名中7名に履修許可）、大分県内者（大分市の学生を除く）対象の母校実習（宇佐市1校、別府市2校で実施）調整業務、教員採用試験一次対策用オンデマンド教材の作成、教員採用試験二次対策講座（実技、場面指導）、採用試験終了後の就職活動の支援、教員免許の一括申請、教職課程変更届の文部科学省への提出、大分県教委が実施する教員育成ガイダンスへの参加（県内5校）、既卒者対象の就職相談、である。ホームページに掲載している「Q&A」における教職課程の運営状況、免許取得者数、教員就職率など、志願者が必要と思われる情報を更新し、開示した。12月に学内で卒業生が研修（交流会）を企画実施した（12名が参加）。

令和7年度卒業生は19名が養護教諭一種の免許状を取得した。教員採用試験の受験者は12名、1次試験合格者7名、最終合格者は3名だった。免許取得者の進路は、大分県正規採用2名、非常勤講師3名、長崎県臨時講師1名、大学院等進学5名、医療機関就職者8名、教員就職率は42.3%、教員として勤務する卒業生の大分県内就職率は83.3%だった。また、今年度は3年次生2名が、教員採用試験の一次試験に合格した。

現カリキュラムでは、養護実習Ⅰを3年次後期（2月）に実施している。近年の採用試験の実施時期の前倒し、試験日程の分散、3年次受験が可能になったことから、学校現場を体験し進路を検討する機会をより早期に設定する必要があると認識している。看護学の学位プログラムとの整合性を勘案しながら、養護実習Ⅰの実施時期、実地形態（学校ボランティア）の変更について、次年度以後、検討を進める必要がある。

7-3-3 2) 看護実践力修得支援小委員会

委員長 石丸智子

委員 井上陽士、内倉佑介、大矢七瀬、後藤成人、篠原彩、堤恒貴、妻木美香、徳丸由布子、堀裕子

看護実践力修得支援小委員会の主な活動目的と役割は、①看護技術修得プログラム（統合科目）を企画・運営・評価すること、②臨地実習および演習に関する環境整備を行うことである。

看護技術修得プログラム（統合科目）については、2022年度改正カリキュラムに基づき、本委員会が担当する2年次3学期「基礎看護援助技術演習（選択科目）」、3年次1学期「臨床看護援助技術演習（必須科目）」、4年次2学期「応用看護援助技術演習（選択科目）」を開講した。また、4年間で計画的な技術修得を図るべく、1年次生へ「看護技術修得確認シート」の説明と配布を行った

ほか、従来は4年次生のみを対象としていた「看護技術確認アンケート」を、今年度は全学年に対し各実習終了後に実施した。来年度も各臨地実習における技術実施状況を把握し、プログラム内で経験機会をさらに拡充できるよう、演習内容の検討を継続する。

環境整備の面では、実習・演習に必要な物品や設備の管理に加え、模擬カルテ「Medi-EYE」およびeラーニングツール「ナースングスキル」の運用、実習記録デジタル化に伴う実習用モバイルWi-Fiの管理を行った。さらに、実習指導指針や実習ガイドブックの改定とともに、実習用ナース服の刷新に取り組んだ。来年度も学生が効果的に学習できるよう、研究室・領域間での情報共有を行い、臨地実習および演習における学習環境のさらなる充実に努めていく。

7-3-3 3) 国家試験対策小委員会

委員長 杉本圭以子

委員 葛城奈穂、定金香里、佐藤愛、姫野綾、水田恵子

当小委員会は、教育研究委員会と連携・調整しながら国家試験受験に関する業務を担当し、学生が国家試験に向けて主体的に取り組めるよう支援し、高い合格率を目指して活動した。

学生委員とともに4月にガイダンスを行い、7月と12月に国試対策への動機づけを高め学習を促す企画を実施した。年間7回の業者模試を学生委員と連携して実施した。模試結果から要支援学生をピックアップし、委員が個別支援を継続的に実施した。さらに模試の結果を全国の結果と比較し、本学学生の正答率が低い問題をチェックし全学教員に広報した。また、国家試験の過去問を9月～1月の期間、毎月1回全学年に配信し低学年のうちから国家試験について意識付ける取り組みを行った。本試験後の学生アンケート結果によると、7月と12月の対策企画、直前期の予想問題提供、勉強場所の確保について7割以上の学生が役に立ったと答えた。合格率は、全国の88.3%に対し、本学は97.7%であった。残念ながら全員合格は達成できなかったため、次年度も学生が主体的に早期から国試対策に取り組めるための支援とともに、より個別の状況に合わせた支援を行っていく。

7-3-3 4) 進級試験WG

リーダー 古賀雄二

メンバー 濱中良志、佐伯圭一郎、甲斐博美、岡田悠希

進級試験の実施に関する一連の業務を担当している。

6月23日（月）に進級試験説明会を実施した。2月26日（木）に本試験を実施し、75名対象、74名受験、52名合格、22名不合格であった。平均点は64点（2024年度68点、2023年度71点、2022年度65点）であった。不合格者22名中21名（1名は不受験）は3月5日（木）の再試験を受験し、全員が合格した。その後、本試験問題の正答率や解答分布などを分析した資料を学内に公開し、

出題を担当した全教員にフィードバックした。

今年度は過去 10 年のプール問題の国試出題区分ごとの偏りを把握し、複数年計画での是正を開始した。また、JANPU の CBT 活用についても引き続き検討していく。

7-3-4 研究科教育研究委員会

委員長 稲垣敦（研究科長）

委員 梅野貴恵、川南公代、桑野紀子、福田広美、神崎正太

オブザーバー 麻原きよみ（学長）

大学院看護学研究科は、看護学及び関連領域の理論及び応用の教授研究を通して、より高い専門性を有し、看護の実践、教育及び研究において指導的役割を果たすことのできる人材を育成し、もって地域社会における健康と福祉の向上及び看護学の進展に寄与することを目指している（大分県立看護科学大学大学院学則第 1 条）。この大学院を所管する研究科教育研究委員会の分掌事項は、①アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの企画、調整及び教育の改善に関すること、②カリキュラムの編成(シラバスの作成を含む)に関すること、③大学院教育に関すること(講義・演習・実習を含む)、④教育環境の整備に関すること、⑤成績、進級及び修了に関すること、⑥修了認定、学位授与方針(ディプロマポリシー)に関すること、⑦大学院の入学選抜に関すること、⑧授業料減免及び大学院奨学金に関すること、⑨博士課程後期の進学に関すること、⑩他大学院との単位互換に関すること、(11)研究生、聴講生に関すること、(12)大学院生のティーチングアシスタントに関すること、(13)大学院生の表彰に関すること、である（公立大学法人大分県立看護科学大学各種委員会規程別表 1）。

研究指導体制の改善（主・副指導教員を教授・准教授のみとする）、大学院調整費と論文指導手当の改正、単位取得退学後の博士学位申請制度については、昨年度の第 11 回教育研究審議会（3 月 13 日）、第 5 回理事会・経営審議会（3 月 19 日）に諮り、承認され、今年度の 4 月から運用された。また、DNP に関しては、DNP ワーキンググループが準備を進め、科目名や履修年度の変更が行われ、第 10 回教育研究審議会（2 月 12 日）、第 4 回理事会・経営審議会（3 月 19 日）で承認された。一方、博士課程前期健康科学専攻の在学生がいなくなったため、後期健康科学専攻の募集を停止し、この定員を後期 DNP コースに移動し、入試（12 月 12 日）を実施した。さらに、博士学位申請の要件（副論文等）の変更については第 4 回教育研究審議会（7 月 9 日）、学長賞の設置については第 5 回教育研究審議会（9 月 10 日）で学生表彰規程の改訂が承認され、直ちに運用を開始した。また、大学院生研究費の変更（大学院研究指導費への移行）については第 8 回教育研究審議会（12 月 10 日）で承認され、次年度より運用を開始する。

第 4 期中期計画に関しては、【2】大学院教育の「看護学の教育者・研究者及び実践者に必要な研究能力を有する人材を育成する。これらにより、看護職のリーダーとなりうる人材を大分県に供給する。」に関しては、次年度春に開設予定の博士課程後期 DNP（Doctor of Nurse Practice）コースの入

試を実施し（12月12日）した結果、3名が合格し、次年度より教育を開始する。また、評価指標【2】-1「保健師国家試験、助産師国家試験、NP 資格認定試験の合格率：100%（第4期中毎年度）」については、助産師と NP は全員が合格したが、保健師は7名中1名が不合格であった。【2】-2「博士号取得率：在学年限までに博士号を取得した者の割合 80%以上（第4期中の通算）」については、直近の6年間に修業年限9年間（休学3年間を含む）に達する学生の博士学位取得率は80.0%（=20/25）であり、目標を達成した。

認証評価での指摘については、【改善を要する点①】大学院課程における収容定員の超過について、引き続き教育研究の質の保証・向上の観点から適切な研究指導体制の整備を図りつつ、定員管理についても組織的に検討することが求められる」については、単位取得退学後3年以内に博士学位を申請できる制度及び副論文等の修了要件を変更し、運用を開始した。【改善を要する点②】「教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）」について、中央教育審議会のガイドラインを踏え、『学習成果を評価する方法に関する方針』を明示することが求められる。」については、昨年度改善し、令和7年度の大学院学生便覧に掲載したが、DNP コースの設置に伴い、全コースの3P を再検討しており、継続審議中である。【今後の進展が望まれる点①】「大学院課程における収容定員の未充足について、引き続き定員充足に向けた取組みを行うことが望まれる。」については、博士課程後期の単位取得退学後の博士学位の申請制度の運用を開始し、さらに、副論文等の修了要件を変更し、運用を開始した。また、次年度の開講に向けて後期 DNP（Doctor of Nurse Practice）コースの入試（12月12日）を実施した。【今後の進展が望まれる点②】「シラバスの記載内容について、組織的な点検・確認の体制を整備することが望まれる。」については、学部シラバスの様式を踏襲し、単位の算定基準について教員に周知した。【今後の進展が望まれる点④】「卒業又は修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」と、「教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）」の関係を明確化し、学生に明示することが望まれる。」については、専攻・コース毎に「教育課程の編成方針」、「学修方法・学修過程」、「学修成果の評価」を昨年度検討し、令和7年度の大学院学生便覧に掲載した。

今年度の学位授与者は、修士が31名、博士が5名であった。また、助産師の国家試験及び NP 資格認定試験の合格率は100%、保健師は7名のうち1名が不合格であった。また、次年度の入学予定者は、博士課程前期が30名（募集人員37名）、博士課程後期が7名（募集人員4名）であった。

次年度は、DNP コースを開講し、各コースの3P を再検討し、課題研究の審査について検討する。

7-3-4 1) DNP コース設置 WG

リーダー 持田恵理

メンバー 麻原きよみ、神崎正太、桑野紀子、福田広美

DNP コース設置準備ワーキンググループは、博士課程（後期）に設置する DNP（Doctor of Nursing Practice）コースの開設に向けた準備を目的として活動した。

本年度は、2026年度からの開設に向け、6月12日に麻原学長が大分県庁において佐藤樹一郎知事

および尾野賢治副知事にコース設置説明を行ったことを皮切りに、教育課程や研究指導体制の整備を進めた。また、学内教職員向けの研修会や入試説明会を実施し、DNP 教育およびプロジェクト研究に対する学内外の理解促進に取り組んだ。

1.DNP プロジェクト研究に関する学内研修会

教員の理解促進を目的に研修会を 4 回開催した。第 1～3 回は外部講師および本学教員により実施し、参加者の約 9 割以上から「理解が深まった」との回答を得ており、学内の教育基盤・理解の醸成において高い成果を上げた。第 4 回はガイドブック活用のための説明会を実施した。

2.博士課程 DNP コース入試説明会

9 月 20 日の入試説明会には 16 名（県内 5 名、県外 11 名）が参加した。新規募集かつ変則的な時期であったが、参加者のうち 7 名が出願し、定員を上回る志願者を確保した。これにより、本コースに対する社会的ニーズの高さが実証された。

3.教育体制等の整備

広報用フライヤー作成、学則改正、研究指導および審査要領の整備、カリキュラム構成や授業案の検討、および DNP プロジェクト研究ガイドブックの作成を計画どおりに完了した。

4.評価と今後の課題

2025 年度の活動により、当初の計画どおりに教育課程および研究指導体制の整備を進めるとともに、広報・研修活動を通じて DNP 教育への理解促進と 3 倍超の志願者を集めたことにより、今後の社会的評価に影響する学生の質の面に於いても優秀な 1 期生 3 名の確保を達成できたことは、大きな成果である。特に志願者数において定員を大幅に上回るニーズを確認できたことは、開設に向けた確かな基盤構築につながった。

5.2026 年度の計画

開設後は構築した教育内容や研究指導体制の質を維持・向上させるため、教員や学生等の情報交換を通じて、開設初年度の運営状況を検証する。また、他大学院との DNP シンポジウム協働開催等への参画を通じて、さらなる周知を図り、次年度以降の安定的な志願者獲得に努めていく。

7-3-5 看護学実習委員会

委員長 梅野貴恵

副委員長 秦さと子

委員 石田佳代子、小野美喜、甲斐博美、影山隆之、川南公代、草野淳子、桑野紀子、古賀雄二、
濱耕子、福田広美、持田恵理、北村卓也

オブザーバー 麻原きよみ

①看護学実習委員会は、学部及び大学院の看護系実習の内容及び運営について協議し推進することを目的とした委員会である。

②令和 7 年度は、以下の計画を実施した。

- 1) 本学の既存システム Google workspace を使用した看護学実習記録デジタル化を WG メンバー中心に推進した。クラウド利用について昨年度承諾の得られなかった施設へ 2 度の説明を行い承諾が得られ、1、2 年次生の実習施設 10 施設のすべての学生を対象に e-ポートフォリオを実施した。3 年次生の成人看護学実習でも試行に取り組み、大きなトラブルはなかった。臨地実習前の情報倫理教育を教員・学生ともに実施した（看護学実習記録デジタル化 WG の項参照）。
- 2) 新カリキュラムの総合看護学実習は 6 月 16 日から 6 月 27 日の 2 週間実施され、4 年次生 77 名が実習終了した。平成 27 年カリキュラムの学生 9 名は、7 月 7 日までの 3 週間実施され終了した。
- 3) 実習指導者・大学教員交流会は、7 月 17 日（木）に南大分キャンパスで開催した。講演とグループディスカッションを行った。ディスカッションの参加者は、実習施設 4 か所（アルメイダ病院、大分県立病院、大分赤十字病院、大分大学医学部附属病院）から 28 名、大学教員 20 名の計 48 名で、今後の学生指導に役立つと参加者の 98%が回答した。
- 4) 大分県立病院の実習指導者短期教育プログラムは、10 月 16 日（木）から対面で開催された。講義と演習の後、受講生が実習指導案作成を行った。参加者は、大分県立病院 5 名、本学教員 3 名で、指導案が提出され、本委員会の当該実習責任者が添削指導を実施した。
- 5) 感染症対策は、令和 5 年度作成の大学の方針を引き続き維持し、実習施設の定めがある場合はそれに従って対策を実施することを 4 月の委員会で確認した。9 月からの 3 年次生の専門領域実習（6 科目のローテーション実習）において、学生がコロナ等 5 類感染症に罹患し、当事者含む同じグループメンバーの臨地実習を学内実習に振り替える等の事案が複数発生した。11 月 22 日の委員会で感染症対策についての見直しを行い、「新型コロナウイルス等 5 類感染症に係る看護学実習の大学の方針と注意事項」として 12 月以降の実習で適用した。

③活動の自己評価と今後の計画、展望

「実習記録デジタルシステムの導入」は本学の既存の Google を活用して 3 年次生の成人看護学実習で試行をすることができた。次年度の運用は、基礎看護学実習、看護アセスメント学実習、成人看護学実習で本始動、小児看護学実習、母性看護学実習で試行予定である。R8 年度からは、実習記録デジタル化ワーキングを解散し、看護実践力修得支援小委員会に運用を委託し実施していくことになった。本委員会は、引き続きスムーズな運営を支援する。また、その他の活動についても計画的に取り組むことができた。次年度も看護系実習が適切に運用されるよう活動していく。

7-3-5 1) 看護学実習記録デジタル化 WG

リーダー 秦さと子

メンバー 石丸智子、梅野貴恵、佐藤栄治、品川佳満、三苫美和、小野育子

本 WG は、本学が進める教育の DX 化の一環として、看護学実習記録のデジタル化、電子ポートフォリオの導入を分掌とし、2023 年 10 月から活動を開始した。今年度は、「電子ポートフォリオのシステムを R5 年度入学生で試行、R6 年度入学生から本格導入し、評価する。」、「看護学実習記録

のデジタル化システムを R5 年度入学生で試行、R6 年度入学生から本格導入し、評価する。」、「令和 8 年度からの運用組織の決定と移行準備を整える。」ことを活動目標として取り組んだ。

電子ポートフォリオの運用については、計画通りに対象学生に導入できた。導入後の 3 年次生へのアンケートで、学生の 95.3%が「電子ポートフォリオの必要性が理解できた」と答えたが、「今後の実習で活用できそう」と答えたのは 62.8%であった。学生の活用に関しての継続的な支援が必要である。

看護学実習記録のデジタル運用に関して、実習施設に説明機会を頂き、昨年度と合わせて 10 施設に了承が得られ、本格導入の準備を整えることができた。7 月 18 日に看護系教員の希望者 15 名を対象に看護学実習で活用するシステムの学習会（初級編）を開催した。実施後アンケートで「使用方法が分かった」100%、「使えそう」90%の回答を得た。実際に、基礎看護学実習、アセスメント学実習では、各担当研究室で運用してもらったが、特にトラブルはなかった。試行導入した成人看護学実習においては、実施後の学生アンケートで「記録の作成・提出の手間が少なくなった」100%、「看護実践へつなげやすくなった」100%の回答を得た。教員のアンケートでは「本システムは手間がかかる」0%、「紙媒体と比較して指導がしにくい」0%であったことから試行は問題なく、次年度から本格導入とした。ただし、教員のシステムを使いこなすスキル向上のための支援は継続して必要である。実習前に必修としている情報倫理に関する e-learning については、サイトの更新に伴う学習内容の更新を行い、各所に周知した。

次年度からは、本 WG の活動内容は看護実践力習得支援小委員会に引き継がれることとなった。

7-3-6 学生生活支援委員会

委員長 小野美喜

副委員長 関根剛

委員 岩下恵子、内倉佑介、後藤成人、佐藤愛、時松美香、永松いずみ、吉野美穂

①組織の分掌と、活動目的

学生生活支援委員会は、学生が学修に専念し、安心して安定した学生生活を送れるように学修支援、健康・生活支援、課外活動支援を行っている。令和 7 年度は学生生活支援の基本方針と合理的配慮を要する学生の支援体制を定め、学生の大学生生活の満足度向上に向けて取り組んだ。

②年間の活動実績等の報告

i 学修支援

4 月 9 日に全学部生を対象にオリエンテーションを実施し、4 月 10 日は 1 年生を対象に親睦オリエンテーションを実施し、新学期の学修指導と不安解消を行った。また個別対応として学年担任の面談をのべ 46 件実施し、適宜保護者を交えて面談をした。さらに奨学金情報を逐次提示し必要な学生へのサポートを行った。

ii 健康支援

学生の定期健康診査を実施し（休学生を除く受診率 100%）、個別の助言指導を行った。保健室の年間相談件数はのべ 28 件、学内カウンセリングの活用は 30 件であった。

iii 生活支援

4 月 9 日にコンタクトグループの交流会を実施し、親睦交流を図った。また、学生を対象に交通安全講習会、消費者生活講習会、1 年生対象に防犯講習（4 月 10 日）、デート DV 研修会（7 月 8 日に）を行った。さらに、学生の通学の利便性の観点から自動車通学の許可基準の変更を提案し、1 年生の申請による自動車通学が許可された。それに伴い交通事故防止対策を強化し、1、2 年生の実習前オリエンテーションにて交通事故防止の啓発を行った。対策強化は次年度も継続する。学生生活実態調査では（12 月実施、回収率 44%）、学生満足度は「満足」「まあまあ満足」と回答した学生が 87%であった。学生要望であったカレッジホール採光も今年度改善され、関係部署と連携した協議による生活改善を継続した。

iv 課外活動支援

若葉祭の企画運営の支援・助言を行い、若葉祭が盛況に終了した（5 月 17、18 日）。学生主体の運営、円滑な引継ぎが改善している。サークル活動は、一部のサークルを除き活動が低迷している。サークル活動の活性化支援が必要である。自治会活動支援では、予算化と執行の見直しの助言を行い、学生大会にて予算修正の決定を行うなどの活動支援につながった。自治会運営についても継続した支援を行う。

v 九州地区公立部長会議の企画運営

今年度の企画運営校であり、9 月 19 日にホルトホール大分で開催した。11 校が参加し、意見交換および承合事項について検討した。

③活動の自己評価と今後の計画、展望

学生全体及び個別の学修・生活・健康支援が滞りなく提供でき、大学生活の学生満足度も昨年度に続き高く維持できた。学年担任、保健室、教務との連携支援体制を継続し、相談しやすい環境づくりを行っていく。さらに合理的配慮を要する学生支援の体制を整えることができたため、今後の運用と支援により評価をする。交通事故防止とサークル活動については、次年度より積極的な対策を講じることとする。

7-3-7 就職・進路支援委員会

委員長 川南公代

委員 阿部剛、小野治子、神崎正太、徳丸由布子、中釜英里佳、濱耕子（副委員長）、藤川桂子

①本委員会は、学生自身が自らの適性に応じて就職・進学、およびキャリア形成するため本学の社会的使命を考慮した支援を行うことを目的としている。1.就職及び進学の支援の企画及び推進、2.就職広報、3.県内就職促進、4.就職後のフォローアップ、5.U ターン支援を行っている。令和 7 年度の活動は、第 4 期中期計画の評価指標の達成率は、就職ガイダンスの満足度は、上位 2 項目（非常に満

足している、満足している)の割合が90%以上、学部卒業生の県内就職率は55%以上、学部卒業生の進路決定率は100%とした。

②年間の活動実績は、以下のとおりであった。

1) 就職・進路支援の講座開催

就職活動が年々早期化する背景を鑑み、学生が早期から自己分析し自己のキャリアデザインを考え就職試験に対応できるように、以下の講座を企画した。以下の大学ナビ講座以外の講座は、必須学年以外の学年へも案内し、参加希望者は参加可能とした。

1年次生には、大学ナビ講座の科目の1コマを委員会が担当した。独立行政法人国立病院機構西別府病院の副看護部長を招聘し、講話は「県内の医療機関における看護人材の育成の実際と看護師の魅力」であった。同病院に就職した4名の卒業生も来校し、キャリアを積み重ねながらの看護師の魅力を語った。また、大分県医療政策課看護班課長補佐(保健師)も招き、講話は大分県の看護施策、県内就職のメリット、看護学生病院見学ツアー、看護師等修学資金貸与制度の紹介等だった。学生の学びは、医療機関の特徴を理解し就職活動をしたい、卒業後の看護師の具体的内容が参考になった、県内の看護職の必要性や看護職の充足状況等を知る機会となった、県内就職の際に参考にしたい等であった。

2年次生には、学生が3年次生へ進級し、早期に自らのキャリアについて考え、進路選択に向けて活動できることを目的に、キャリアデザイン講座を実施した。就職に関連する内容と助産師、保健師への進学に関する内容も紹介した。

3年次生には、早期から就職活動に対応できるように、令和6年度よりもさらに開催時期を早め、6月に就職活動スタートアップ講座、12月に履歴書・面接講座を実施した。

1年次生から3年次生を対象とした病院・仕事研究ワークショップを7月に新規に実施した。学生が、夏季休暇中を活用し就職活動に活かすことができるように、夏季休暇前に実施した。

以上の各講座に関する学生の満足度は、上位2項目の割合が90%以上だった。

2) 就職・進路支援

4年次生の就職や進学は、学生の意向を把握し支援した。令和7年度の県内就職率は、目標値を達成できなかった(3. 学生の状況と進路参照)。

3年次生全員への就職相談員による個別面談は、学年末に実施し、就職・進学希望を把握した。

③本委員会の活動評価は、各講座に関する学生の満足度、進路決定率は目標達成できたが、県内就職率は達成できなかった。次年度も社会的背景を把握し、学生の意向を尊重した就職・進路支援を実施し、目標を達成できるように講座の内容等を検討し実施していきたい。

7-3-8 広報・公開講座委員会

委員長 小嶋光明

副委員長 吉田成一

委員 足立綾、安部翼、阿部剛、宇田繭、田中佳子、坪内優太、中釜英里佳、西田裕子（11月～3月）、
三苫美和、矢野亜紀子

1. 令和7年度重点目標

広報・公開講座委員会では、本学の教育・研究活動および学生生活の魅力を効果的に発信し、受験生、保護者、医療関係者および地域住民の本学への理解促進と認知度向上を図ることを目的として、以下の目標を設定した。

- 1) オープンキャンパスや進学相談会等を通じて受験生との接点を拡大する。
- 2) 大学ホームページおよび SNS を活用し、本学の魅力や教育・研究活動に関する情報発信を強化する。
- 3) 公開講座等を通じて地域社会との連携を推進する。

2. 活動実績および自己点検・評価

(1) 受験生向け広報活動

7月にオープンキャンパスを開催し、大学紹介、入試概要説明、在校生による合格体験談・メッセージ、本学教員による模擬授業等を実施した。参加者は470名（前年度440名）であり、前年度より30名増加した。また、8月にキャンパスツアーを実施し、29組47名（前年度32組79名）が参加した。さらに、県内で開催された31回の進学相談会に参加し、高校生・保護者計412名（前年度343名）に本学の特色や入試情報を紹介した。

【評価】

オープンキャンパス参加者は前年度比106.8%、進学相談会に対応した高校生・保護者数は前年度比120.1%となり、受験生との接点拡大という目標に対して一定の成果が認められた。特に進学相談会では県内各地で直接本学の特色や入試情報を伝えることができ、本学への理解促進と認知度向上に寄与した。また、オープンキャンパス終了後のアンケートでは、「大変良かった」80.8%、「良かった」19.2%と参加者全員から高い評価を得ており、本学の教育内容や学生生活への理解促進に効果的であった。一方、キャンパスツアーの参加者数は前年度を下回っており、周知方法等について検討が必要である。

【課題・改善方策】

オープンキャンパス参加者アンケートを分析し、満足度の高い企画を継続するとともに、参加者ニーズを踏まえた内容の充実を図る。また、キャンパスツアーについてはホームページや SNS を活用した周知を強化し、参加機会の拡充に努める。さらに、県外で開催される進学相談会への参加についても検討し、受験生との接点拡大を図る。加えて、将来的な志願者確保に向けて、小・中学生を対象とした看護体験講座等の実施について検討する。

(2) 大学ホームページ・SNS 等による情報発信

大学ホームページでは研究紹介ページの見直しを行い、研究の社会的意義や地域貢献との関連が伝わる内容への改善を進めた。また、イベント情報や実施報告を掲載するとともに、Facebook、Instagram 等を活用して教育・研究活動や学生の活動を発信した。大学アルバム掲載件数は 63 件（前年度 54 件）、Facebook 投稿件数は 240 件（前年度 100 件）、Instagram 投稿件数は 241 件（前年度 95 件）であり、いずれも前年度を上回った。

【評価】

ホームページや SNS を活用した継続的な情報発信により、本学の教育研究活動の可視化が進んだ。大学アルバム掲載件数は前年度比 116.7%、Facebook 投稿件数は 240.0%、Instagram 投稿件数は 253.7% となり、情報発信量を大幅に増加させることができた。研究紹介やイベント情報の積極的な発信により、本学の魅力や教育・研究活動を広く周知する機会の拡充につながった。

【課題・改善方策】

ホームページや SNS による情報発信件数は増加した。今後はアクセス状況や閲覧者の反応を分析し、発信内容の改善を図るとともに、受験生や保護者の関心が高い学生生活や学修活動に関する情報発信を充実させる。また、学生参加型の広報活動を推進し、学生目線による大学の魅力発信や動画コンテンツの活用を強化する。

(3) 地域連携・社会貢献活動

若葉祭では教員の専門性を活かした企画を実施し、本学の教育・研究活動を来場者へ紹介した。また、9 月に「災害時に家族に寄り添う看護師の支援活動」をテーマとした公開講座を対面およびオンラインのハイブリッド形式で開催し、医療従事者に限らず、地域住民、高校生、大学教職員など 90 名（対面 31 名、オンライン 59 名）が参加した（前年度 104 名）。さらに、広報誌「風の広場」を年 2 回発行し、卒業生や教員の活動を紹介することで、本学への理解促進と関係者との継続的な連携強化に寄与した。

【評価】

公開講座の参加者数は前年度を下回ったものの、終了後のアンケートでは、「大変良かった」「良かった」が合わせて 100% と高い評価を得ており、多様な参加者に対する学習機会の提供ならびに地域社会との連携推進に寄与した。

【課題・改善方策】

公開講座については、参加者ニーズを踏まえたテーマ設定を継続するとともに、地域住民や医療従事者に加え、高校生の関心を高める内容についても検討する。また、広報誌「風の広場」については、今後も年 2 回のペースを継続し、本学の取り組み、学部生、卒業生および教員の活動等を積極的に紹介していく。

3. 総括

令和 7 年度は、オープンキャンパス、進学相談会、ホームページ・SNS による情報発信、公開講座等を通じて、本学の教育研究活動および学生生活の魅力を広く発信することができた。特に、受験生

向け広報活動ではオープンキャンパスの参加者数に増加がみられ、広報活動の成果が確認された。一方で、少子化の進行や情報収集手段の多様化に対応するため、SNS や動画コンテンツの活用強化、県外への広報活動の拡充に加え、将来的な志願者確保を見据えた早期広報の充実が課題である。次年度は、小・中学生を対象とした看護体験や公開講座等の実施についても検討し、看護職や本学への関心を高める取組を推進するとともに、広報活動のさらなる充実を図る。

7-3-8 1) 大学案内パンフレット WG

リーダー 吉田成一

メンバー 小野育子（1～3 月）、神崎正太（4～12 月）、坪内優太、永松いづみ、西田裕子、三苫美和、矢野亜希子

本 WG は大学案内パンフレットの制作を行う業者選定、内容構成等について検討し、大学案内パンフレットを完成させることが分掌である。

昨年度の WG により制作された 2026 大学案内パンフレットが 4 月に予定通り納品された。2027 大学案内パンフレットを制作あたり、昨年度作成した本学の MVV から「ともに楽しめる、ともに学びあえる」をコンセプトの基本とすることとし、パンフレット制作業者の選定を行った。いづみ印刷株式会社が契約業者となり、コンセプト、キャッチコピー、デザインコンセプトを受けた。WG でパンフレットに掲載する学部生、大学院生、卒業生、修了生および教職員の選定を行い、掲載モデルとした。また、今年度は、学生等からパンフレット制作に協力可能な在学生を募り、2 名から協力依頼を得た。大学案内パンフレットは大学の広報誌の性格も有しているため、2027 大学案内パンフレットでは 2026 年度から開始される「国際看護学修プログラム」を特集に組むとともに、キャリア形成の情報提供ページについてはイメージしやすい様式に変更する、大学院改組にともなう掲載内容の更新などを行った。複数回の校正作業やパンフレット掲載写真についての取り直し等の過程を経て 2025 年度内におおよそ完成させることができ、2026 年 4 月末納品スケジュールに対応できる進捗であった。

パンフレット制作については特段大きな問題はなかった一方、パンフレット掲載写真について解像度が低い、撮影時期が過年度である等の状況があった。これらは、パンフレット制作業者の選定が夏頃となることにより、契約前に撮影を行うことが望ましい写真について撮影が行われていないためである。今後、WG メンバーにより更新が必要と考えられる構図についてはパンフレットに掲載できる画質レベルでの写真撮影を予め行うなどの対応が必要と考える。

7-3-9 国際交流委員会

委員長 桑野紀子

副委員長 宮内信治

委員 井上陽士、宇田繭、大矢七瀬、篠原彩、大東直子（1～3月）、堤恒貴、姫野綾、
G.T. Shirley（国際交流アドバイザー）

国際交流委員会は、本学の教職員及び学部生・大学院生の国際的活動を推進し、グローバルな視点の育成を図ることを分掌している。2025（令和7）年度も姉妹校・MOU 締結校との国際交流事業や看護国際フォーラムを実施するとともに、本学学生・教職員の海外渡航に関する安全管理体制の整備にも努めた。また、未来応援基金を活用した短期海外個人研修支援奨学金奨学生の募集から選考および4年次生の海外研修奨学生の選考を行った。諸外国からの研修生や留学生を積極的に受け入れるための基盤づくりとして、英語版学外 Web を整備し、発信した。その結果、今年度は各事業をおおむね計画どおりに実施することができた。一方で、看護国際フォーラムへの本学学部生・大学院生の参加を促進し、学習機会としてより有効に活用することが来年度の課題である。

1. 学部生および教員間の国際交流促進事業

1) 韓国 蔚山大学との学生交流プログラム（双方向交流）

韓国の蔚山大学校医科大学看護課程から学部生8名と同行教員2名をから7月14日から7月18日までの5日間受入れ、県内3カ所の施設訪問や学内での学生交流を実施した。学内交流では学生が日本の文化や看護教育についてプレゼンテーションする企画を立て、事前学習・事前準備を行い当日の交流に臨んだ。実施後の蔚山大学学生へのアンケートでは、施設見学や学生との交流について、全員が「満足」と回答した。また、8月18日から8月22日までの5日間、本学の学部生8名が同行教員2名と共に韓国の蔚山大学校医科大学看護学部を訪問した。現地では大学での講義や周辺地域の施設見学等に参加し、プログラム全体を通しての経験について、全員が「満足」と回答した。参加学生は学生交流プログラムの目的、および派遣前に学生自身が立てた目標を達成できた。

2) インドネシア ムハマディア大学とのオンライン交流

インドネシア ムハマディア大学と、国際交流の一環として国際看護学演習の授業時間を活用し、8月27日（木）にオンライン学生交流を実施した。本学から2年次生38名、UMYから75名が参加し、互いの文化や看護について発表し合い、学び合う貴重な機会を創出した。

2. 看護国際フォーラム

当フォーラムは、今年度で第27回を迎え、10月25日（土）に Zoom ウェビナーで開催した。テーマを「求められる変革をどう実現するか -エビデンスを現場に実装する DNP への期待-」とし、米国から1名の講師が録画プレゼンテーション、国内から3名の講師がライブプレゼンテーションした。今年度は初の試みとして開催後にオンデマンド配信も実施した。当日・オンデマンド視聴の参加者は計357名と大盛況であり、参加者背景は看護師、NP、高校生や教員等であった。参加者アンケ

ートの結果では講演内容・総合討論の満足度は、98.6%であり、全体として参加者の満足度は高かった。

3. 個人短期海外研修支援奨学金プログラム

短期海外研修を希望する学部学生への支援事業として創立、令和4年に策定後した本奨学金は、2月に奨学生を公募し、次年度に個人短期海外研修を実施するものである。昨年度の募集では応募者はなかったため、今年度の研修実施はなかった。今年度の募集では複数名からの応募があり、2名が来年度の夏季休暇を活用して海外研修を実施予定である。

4. 海外危機管理マニュアルの整備

学部生、大学院生及び教職員の海外渡航に関する安全管理の一環として、海外留学生安全対策協議会（JCSOS）に継続加入してマニュアルの整備を進め、学部生、大学院生及び教職員の海外渡航に関して情報収集を継続した。また、本学が実施・支援する国際交流に参加する学生に「海外留学危機管理ハンドブック」を配布、JCSOS のサポートについても説明し、渡航前に安全管理研修を実施し注意喚起した。

5. 英語版学外 Web の整備

大学院開講科目の英語名一覧の追加、情報のアップデート等の整備を進め、公開した。また、姉妹校である蔚山大学来学時、本学を紹介する際に英語版パンフレットと英語版学外 Web を活用した。

今年度も継続して対面およびオンラインでの国際交流事業および看護国際フォーラムを成功裏に実施することができ、実り多い一年となった。また、未来応援基金を活用し、学生に海外研修の機会を創出することができたことも成果であった。今後も姉妹校や MOU 締結校との定期的な交流を積極的に進め、教員及び学生同士の国際交流を促進していく予定である。

7-3-10 FD/SD 委員会

委員長 濱耕子

副委員長 古賀雄二

委員 秋本慶子、大矢七瀬、岡田悠希、小野逸郎（10～3月）、久保紘子（4～9月）、首藤佐織

I. 今年度の重点目標

FD/SD 委員会は、教職員の能力開発・教育研究の改善・組織間連携の推進を目的とし、以下の重点目標を設定した。

1. FD/SD 研修の実施、2. 学内競争的研究費の適正運用と研究成果の可視化
3. 科研費等外部研究費の獲得促進および研究力向上支援の強化

4. 授業アンケート新体制の定着と運用改善、5. 教員間の相互研鑽促進（授業参観の試行・改善）
6. 国内外派遣研修制度の適正運用と活用促進、7. FD/SD 関連情報提供体制の強化

II. 主な取り組みと成果

1. FD/SD 研修の実施

- ・新任教職員研修を4月1・2日に実施し、新任の教員、職員各6名を対象に大学組織やカリキュラム等の概要を共有した。
- ・科学研究費説明研修会・ピアレビューを6月19日に開催し、教員51名（85%）が参加した。学外講師による研究計画調書作成やAI活用の講義を実施した。
- ・教育に関する研修として、ハラスメント研修（8月26日）およびAI活用研修（12月23日）を実施し、教員59名（98%）が参加した。
- ・学生理解研修として、学生の特徴や薬物使用の現状に関する研修（3月6日）を実施し、教職員60名が理解を深めた。
- ・人権研修として、部落差別問題に関する講演（2月6日）を実施し、全教職員81名が参加した。
- ・研修旅費補助制度を運用し、教育分野1件を承認した。研究分野の申請1件は外部資金保有等の理由で非承認とした。
- ・危機管理に関する研修が次年度から開始されることが決定した。FD/SD 委員会が研修運営を担うことになった。

2. 学内競争的研究費の適正運用と研究成果の可視化

- ・奨励研究2件・先端研究5件の応募を受け、審査会にて助成を決定した。
- ・新任者向け案内により奨励研究4件の応募が追加された。
- ・令和7年度は継続課題3件含む計14件に助成し、成果はアニュアルミーティングで報告された。
- ・アニュアルミーティングでは、研究発表19題（学内競争的研究費応募者13題・一般演題6題）による活発な討論が行われた。

3. 科研費等外部研究費の獲得促進および研究力向上支援の強化

- ・科研費申請支援として、研修会やピアレビューを実施した。
- ・新規採択は8件（27.6%）、科研費継続課題を含む外部研究費獲得者は32名（59%）であった。
- ・令和8年度申請では29件中5件が学外講師のピアレビューを受け、10件が新規採択（34.5%）であった。

4. 授業アンケート新体制の定着と運用改善

- ・新体制（Google Forms と chihiro 管理）へ移行し、学部96%・大学院72%の回答率を確保した。
- ・マニュアル整備や問い合わせの対応、リマインド運用により回収率向上を図った。
- ・大学院授業アンケートの結果公表について教育研究審議会で承認を得て、公開体制を整備した。

5. 教員間の相互研鑽促進（授業参観の試行・改善）

- ・計7科目で参観を実施し、意見交換を通じて授業改善の気づきを共有した。
- ・意識調査を踏まえ、申込・報告フォームの簡略化と新運用を次年度から開始することを決定した。

6. 国内外派遣研修制度の適正運用と活用促進

- ・国内1件・海外2件の申請があったが、専門性向上の観点から非承認とした。

7. FD/SD 関連情報提供体制の強化

- ・おおいた地域連携プラットフォーム教育プログラム開発部会 FD・SD 事業に委員長が携わった。
- 大分合同 FD・SD フォーラム（2月26日）は学生支援のテーマで開催され、本学から5名が参加した。
- ・研究助成金等の案内72件を全教職員へ提供した。

III. 重点目標の達成状況

IIの状況から、教員間の相互研鑽としての授業参観は部分達成、派遣研修については未達成であったが、その他は達成と評価した。

IV. 次年度に向けた改善方策

1. 次年度は危機管理研修（知識確認テスト）の導入に伴い研修回数が増えるため、受講方法等を見直し負担軽減の策を検討する。FD/SD 研修体系の再編と研修の発展的展開を目指す。
2. 3. 若手教員を中心に学内外の研究費獲得支援を強化する。学内競争的研究費応募時期・回数の検討を行う。科研費申請時のピアレビュー制度や学外講師による科研費申請書の添削指導受講システムを継続的に活用していく。
4. 授業アンケートの結果管理における教員負担の軽減をさらに進めていく。
5. 授業参観は試行から実施の段階に入るため、参加を促進する仕組みを検討する。新カリキュラムを見据えた科目間連動強化に向けた教員間の情報共有、相互研鑽の活性化のための策や FD/SD 研修の兼ね合いで、授業デザイン研修や伝達研修の企画検討を行っていく。
6. 国内外派遣研修制度の認知・目的理解を促すと同時に、派遣研修費の利用者の増加や研修参加を促進するための方策（募集時期など）についても検討する。
7. FD/SD 関連情報提供体制の強化については、再来年度の本学担当の大分合同 FD・SD フォーラム運営に向けて、協力体制を整える。

V. 総括

今年度は、科研費採択率の向上のための取組み、授業アンケート新体制の定着、FD/SD 研修の体系化等、教育研究活動の基盤強化に向けた取組みが着実に進展した。一方で、研修負担の増大や派遣研修の活用不足等、制度運用上の課題も明らかとなった。次年度は、研修体系の最適化と教員負担軽減を重点に据え、教育・研究の質向上に向けた取組みを一層推進する。

7-3-11 事故・災害等危機的状況の対応に関するタスクグループ

委員長 関根剛

副委員長 石田佳代子

委員 阿部剛、後藤成人、川島貴博（事務局）

今後生じうる南海トラフ地震をはじめ、本学において潜在している様々な事故・災害等の危機的状況を明らかにしたうえで、課題や具体的対策について検討することは急務である。本タスクグループでは、全学的な事故・災害等危機的状況に対する課題を洗い出し、具体的対策を検討・推進することを目的として、1)～4)の活動を行った。

1) 会議の開催

4月7日、5月15日、7月29日、10月2日、12月17日、1月14日に会議を開催した。

2) 中間報告

12月5日に「大学における危機対応の改善に関する中間報告（第一次答申）」を行った。

3) 報告

1月30日に「大学における危機対応の改善に関する報告（第二次答申）」を行った。

4) 研修会

3月27日に危機管理マニュアル改定に関する研修会を Zoom で開催し、録画視聴にも対応した。

本タスクグループは令和7年度をもって終了となるが、今後の課題として、①危機意識の涵養、②危機対応マニュアルの更新、③備蓄の拡充といった本学における危機対応の改善を提案する。

7-3-12 研究倫理・安全委員会

委員長 濱中良志

副委員長 草野淳子

委員 小嶋光明、持田恵理、川南公代、荒木章裕

外部委員 田代浩、野村文宏

事務局 安部翼

研究倫理安全委員会は令和7年度は11回開催した。1月が休会であった。各月ごとに教員や大学院生等から申請された研究計画書の審査を行った。今年度の申請件数は85件で、そのうち83件が承認された。A判定12件、B判定71件、C判定2件、審査前取り下げ1件であった。採択率の向上を目指すために、大学院生や教員からの記載要領の相談を受け入れた。大学院生の研究計画の記載内容が充実するように今後も申請時には「研究計画の申請の手引き」を熟読し、担当教員の指導を十分に受けることをアナウンスしたい。

研究倫理教育に関しては、一般社団法人公正研究推進協会のeラーニングAPRINを導入して、教員全員が受講するように年度計画を立てた。毎年度3月末日までに教職員・大学院生が全員受講す

るよう依頼している。令和 8 年 3 月 31 日での修了者は教員 53 人、事務 6 人、大学院生 30 人であった。研究計画の提出時には、研究責任者・共同研究者の APRIN の修了書の提出を義務づけている。

来年度も基本的に令和 7 年度の方法で委員会運営を行う。

7-3-12 1) 動物実験小委員会

委員長 小嶋光明

委員 吉田成一、定金香里、恵谷玲央、岩下恵子、安部翼（事務局）

令和 7 年度の動物小委員会は含めて 6 回開催した。動物実験研究計画書 10 件の審査（新規審査件数 10 件；変更・追加件数 0 件）を行い、10 件が学長によって承認された。令和 7 年度では計画に沿った動物実験が 7 件実施され（うち 2 件は健康科学実験）、そのうち、安全を要する実験計画は 0 件、放射線を用いる実験 1 件であった。使用動物匹数はマウスが 253 匹、ラットが 65 匹で、総使用匹数は 318 匹であった。前年度の総使用匹数 380 匹に比べて今年度は 16% 減少した。令和 7 年度に使用された動物実験における「自己点検・自己評価」を実施すると共に、動物実験実施報告書を作成し学長に報告する。使用動物の慰霊祭は令和 8 年 4 月 9 日に実施した。動物実験教育訓練に関しては動物実験講習会（小嶋・恵谷）を令和 7 年 4 月 9 日（12 名）に、人獣共通感染症の教育訓練は外部講師を迎え令和 7 年 4 月 9 日（13 名）にオンラインで実施した。

来年度も実験計画書の審査に加えて、実験実施中の状況や動物の健康状態について定期的に監視を行い、必要に応じて修正を加えることで、動物の福祉を考えた実験が行われるよう継続的な取り組みを行っていく。

7-3-13 図書委員会

委員長 宮内信治

委員 小野逸郎、神矢恵美、首藤佐織、白川裕子、堀裕子

図書館資料を収集・管理し、知（地）の拠点として職員の教育・研究及び学生の学修に資することを分掌とし、図書等の整備、図書館の運営及び図書館ホームページの整備・発信と図書館だよりの発行を行っている。

定常的な活動のほか、本年度の活動として、委員会選定及び学生リクエストによって新たに 1,526 冊の蔵書を整備した。また、広報誌「図書館だより」（発行回数 2 回 <Vol.23 (2025 年 7 月)、Vol.24(2025 年 1 月)>) の発行、図書企画展示（企画展示 10 回、オープンキャンパス特別展示 1 回）、教職員の推薦図書を毎月紹介する「教職員おすすめの一冊」を継続した。図書企画展示に関しては、洋雑誌の電子ジャーナル化に伴い、雑誌架にできたスペースも企画展示の場所として活用することとし、教職員・学生の図書館利用拡大を図った。

書庫狭隘化対策としては、研究室の図書 236 冊、視聴覚資料 7 点の除籍を行い、オープンキャンパス時には「図書リユースデー」を開催し、図書館の除籍図書及び学生・教職員の不要図書のリサイクルを行った。また、研究・教育がより効果的に行えるよう、文献デリバリーサービス「Repints Desk」、医学文献の検索・閲覧ができる株式会社メデオの「メディカルオンライン」を継続している。更に今後のデータベース等の導入の参考とするため、看護文献の検索・閲覧ができる EBSCO の「CINAHL Ultimate」のトライアル（9 月～11 月）、電子書籍の閲覧ができるメデオの「メディカルオンラインイーブックス」のトライアル（9 月～2026 年 1 月）を行った。洋雑誌に関しては購読形態を冊子体から電子ジャーナルへ移行し利便性の向上を図った。

卒業生・修了生も利用できる休日開館を引き続き行った。学外利用者に向けては新規に「図書館利用案内」を作成し、近隣地区には回覧板や公民館を通じて配布（富士見が丘地区 237 部、野津原地区 120 部）し、さらに看護研究交流センター協力のもと、予防的家庭訪問実習での訪問時に学生を通じて実習協力者等に配布（100 部）を行った。卒業生・修了生や学外利用者の入館状況を次年度以降も継続的に調査集計し、利用拡大のための方策を検討していくこととした。

7-3-14 情報ネットワーク委員会

委員長 品川佳満

副委員長 佐伯圭一郎

委員 恵谷玲央、岡田悠希、佐藤栄治、小野育子

本学のネットワーク、システム・クラウド系サービス（メール、グループウェアなど）、アプリケーション（SPSS、ZOOM など）、共有機器（情報処理教室、教材作成室）の運用・管理・更新ならびに学生・教職員へのセキュリティ教育やユーザー支援などの定常業務を各委員が分担して実施した。

定常的な業務に加え、本年度は、ハードウェア保守や OS サポートの期限を迎えるサーバ・システム（認証、ファイル、メール、監視、DNS、教務）の更新を実施した。また、情報処理教室の端末 50 台を更新し、教育用 ICT 環境を刷新した。情報セキュリティ教育については、学生を対象とした講習会を 7 月にオンデマンド配信で実施し、対象とした 2～4 年次生・院生の 80%が受講した。教職員向け講習会は、7 月 22 日にオンライン形式で実施し、当日参加および後日視聴を含め全教職員が受講した。さらに、情報セキュリティ関連規程の見直しを開始した。

年度当初に計画していたサーバ・システムの更新はすべて完了し、情報通信基盤の安定的な運用を維持することができた。一方で、更新作業に伴う導入業者側の設定ミスにより一部業務に支障が生じた事案が発生した。今後は、導入業者との連携強化および検証体制の充実を図り、再発防止に努めていく。

7-3-15 ハラスメント防止・対策委員会

委員長 阿部剛

委員 稲垣敦、宇田繭、小野美喜、田中保之（外部委員、弁護士）、矢野亜紀子、吉村匠平、
関根剛（オブザーバー）、川島貴博（事務局）

本学の学生、教職員すべてが、個人として尊重され、ハラスメントない快適な環境で学び、研究し、働きやすい環境を確立するため、令和7年度のハラスメント防止・対策委員会として1)～2)の活動を行った。

1) 委員会の開催

6月26日、2月3日に委員会を開催した。

2) 教職員向けハラスメント研修会の開催

8月5日に対面及び録画で、総務グループからハラスメント防止等に関する規程の概要説明と、大分県人権啓発講師 松木和美氏を講師とし「ハラスメントと人権尊重社会～快適な職場環境を守るために」の演題でハラスメント研修会を開催し、対面47名、録画視聴36名の計83名参加があった。

次年度も委員及び相談員の知識を深めるため、第1回委員会で弁護士の田中委員から最新の裁判例の紹介を行うとともに、カスタマーハラスメントの方策を検討する。

7-3-16 衛生委員会

1号委員 阿部剛

2号委員 角匡幸（産業医）

3号委員 小野治子

4号委員 小嶋光明、川島貴博

オブザーバー 時松美香

事務局 大東直子

衛生委員会は、職場の労働災害及び健康障害を防止し、職員の安全及び健康の保持増進を図るために活動を行っている。本年度は、計10回の委員会を開催し、健康診断結果の把握や職場巡視等を行った。

1 職員の健康管理

(1) 定期健康診断を4月9日に実施した。健康診断結果を確認し、精密検査の必要がある職員に当該精密検査受診を勧奨し、定期健康診断受診率及び精密検査受診率ともに100%を達成した。

(2) 労働安全衛生法に基づくストレスチェックを5月15日から5月30日に実施し、集団分析結果から健康リスクの確認を行った（70名受検、受検率92.1%）。また、集団分析結果をふまえて産業医面接等の職場環境改善策を講じた。

(3) インフルエンザ予防対策として、予防接種希望者を募り、11月17日に学内接種を行った（希望

者 35 名（全員接種）。

(4) 有機溶剤を使用する実験室の作業環境測定を 5 月 8 日と 12 月 4 日に実施した。また、局所排気装置（ドラフトチャンバー）の自主点検を 12 月 4 日に実施した。共に測定結果は適切であった旨を委員会で報告した。

(5) 公立学校共済組合が実施する人間ドックは 18 名、器官別健診は 8 名が受診した。

(6) 長時間の時間外勤務を行った教員 6 名に対し、産業医の面接指導を行った。

2 健康増進活動支援事業

(1) 教職員の健康管理への意識向上を図るため、職場ウォーキングラリーを開催し、教職員 43 名（11 チーム）が参加した。

(2) 各種スポーツイベントへの参加負担金助成事業は 2 件 2 名の参加料を助成した。

3 職場巡視

12 月 19 日と 1 月 19 日に屋外を巡視し、第 1 駐車場のタイル破損や第 3 駐車場の白線が消えていることを確認した。職場巡視の結果は事務局財務グループと共有し速やかに修繕等を依頼した。

4 今後の展望

来年度は年次有給休暇及び夏季休暇の積極的な取得を教職員に呼びかけて、取得率の向上を図りたい。

7-3-17 教員評価委員会

構成員 稲垣敦（研究科長）、福田広美（学部長）、阿部剛（事務局長）、
小野美喜（学長が指名した職員）

教員評価委員会は、(1)大学の基本理念を実現する、(2)教員の研究・教育などの活動をより活性化するための目標を与える、(3)教員が自律的・主体的に活動の点検・評価をすることで今後の目標をより明確化するために、理事長及び理事以外の常勤教員の年間の活動に関する教員評価を行い、理事長・学長に報告する。また、評価方法の改善や昇任人事の提案及び準備も当委員会の分掌事項である（公立大学法人大分県立看護科学大学教員評価の実施に関する基本的な方針）。

本年度の委員は、学部長、研究科長、事務局長及び学長の指名による小野美喜教授（老年看護学研究室）が委員を務めた。

今年度は 12 月 16 日に自己評価書等の資料の提出（〆切：1 月 15 日）をメールで教員に依頼し、期限内に提出が完了した。その後、所定の方式で評価を行い、その結果が適切であることを合議で確認し、学長に評価結果を報告した後、学長より差し戻しがあったため再検討し、修正し、3 月 3 日に学長名での評価通知を封筒に入れて棚入れし、総合評価の役職カテゴリー別の頻度分布表をメールで送った。3 月 3 日に教員 1 名から評価結果に関する質問があり、3 月 5 日に回答した。以上により、

第4期中期計画の評価指標【21】-1「教員評価の実施：年1回以上（第4期中毎年度）」は達成した。この教員評価結果を受けて、令和6年度人事基本計画及び昇任基準に基づいて昇任の可能性を検討し、講師1名、学内講師2名の合計3名の昇任案を理事長に提出した。この結果、全員の昇任について学長の承認が得られたため、推薦書や業績目録等の必要書類を準備し、講師1名と学内講師1名については教育研究審議会（3月13日）、要件となっている研究業績のジャーナルへの掲載決定の遅れた学内講師1名については臨時教育研究審議会（3月18日）で承認され、理事会・経営審議会（3月19日）で承認された。また、目標達成のための今年度の具体策として、「大学院指導教員制度、教員の任期制について検討する。」を挙げ、これに関しては文部科学省の調査データ等を参考にして当委員会（11月4日）で検討したところ、時期尚早という意見が多く、次年度も継続審議となった。一方、第4期中期計画の評価指標【23】-1「教員評価の方法の改善」の目標達成のための今年度の具体策として、「FD/SD関連項目の追加等について検討する。」を挙げ、これに関しては授業参観の授業の提供及び授業参観への参加に対して教員評価で加点するという改善を行った。

また、教員選考規程第4条第1項に規定されているように、教員昇任時の選考委員会を代行するため、年度末だけではなく、6月に教授3名、講師1名、9月に助教1名、2月に准教授1名、講師1名の昇任人事を担当し、教育研究審議会、理事会・経営審議会承認を得た。

第4期中期計画の目標達成のための次年度の具体策は、引き続き任期制の導入について検討すること（【21】-1）、教員評価の改善に向けて教員の意見を集めて検討すること（【23】-1）である。

7-4-1 総務グループ

総務グループは、教育研究審議会、理事会及び経営審議会に関する業務、中期計画に関する業務、大学の組織・定数、理事長選考、教職員の採用・人事、給与、福利厚生、健康診断等に関する業務を行っている。

教育研究審議会は、大学の教育研究に関する重要事項の審議のため、8月を除く年11回開催し、理事会及び経営審議会は、法人の経営に関する重要事項の審議のため、6月、9月、12月、3月の年4回開催した。

令和7年度は、第4期中期計画の2年目であり、第4期から新たに項目ごとの評価指標が加わったため、その進捗管理を行った。令和7年度の目標達成のための具体策の策定、その具体策の進捗状況、令和7年度の実績見込み及び令和8年度の具体策の策定について各項目の担当委員会等に照会し、取りまとめを行い、内部質保証推進会議の承認を得て、教育研究審議会及び理事会・経営審議会にて報告を行った。

教員の採用は、定年退職等によって空席となる研究室の教員補充のため、健康情報科学、基礎看護学、成人看護学、助産学、精神看護学、地域看護学の6研究室10名の公募を行い、選考を行った。選考の結果、8名の採用を決定し、採用が決まらなかった2名分については、特任教授等を採用することにした。

総務グループは、教育研究審議会、理事会・経営審議会、各種会議の開催等に関する事務を行っており、今後とも本学の円滑な業務の遂行に尽力していきたい。

7-4-2 財務グループ

令和7年度、財務グループでは、教育研究環境の質的向上と大学経営の安定性を図るため、第4期中期計画の方針に沿って、自己収入の安定的確保、外部資金の獲得促進、経費の削減、資産の活用、施設・設備の計画的整備等の取組を進めた。

授業料収入については、納入の遅れが想定される学生や保護者に対して分割納付等の提案を行い、滞納の未然防止に努めた。施設貸出については、ホームページで施設貸出の情報を整理し、利用の流れや施設写真を分かりやすく掲載した。これまでの継続的な取り組みもあいまって、新たな利用者の獲得にはつながったものの、貸出件数が318件（前年度比85%）と減少した影響により、財産貸付収入は481千円（同50%）と減収になった。今後も債権管理を徹底しつつ、教育研究に支障のない範囲での施設貸出を進め、自己収入の確保を図る。

外部資金については、全学的に情報提供を行い、公募情報の早期共有に努めた。科研費申請に関する研修会では、制度変更点や不正使用の事例を取り上げ、教職員の理解を深めた。引き続き、教員の科研費申請等を支援し、助成金等の獲得を積極的に後押しする。

経費削減の観点では、廃棄予定の物品に関する情報共有を通じて再利用を促進し、無駄の削減とコスト意識の醸成に努めた。電力に関しては、デマンド監視の徹底等により、最大需要電力を277kW（前年度比22kW減）に抑制した。あわせて電力使用量も前年度実績を下回る結果となった。ガスについても同様に使用量を削減できた。一方、水道使用量については近年増加傾向が続いている。設備の老朽化による漏水の懸念もあるため、今後も慎重に注視していく必要がある。引き続き、契約内容や運用方法の見直しを進め、光熱水費全体の抑制に努める。

資産の管理においては、目的積立金を活用し、講義室のプロジェクタの更新や、介護実習人形の更新、カレッジホールの窓フィルム張替工事などを実施し、教育研究の質的向上を図るための設備の充実を図った。また、余裕資金は金利の高い定期預金に乗換え、堅実に運用した。引き続き、中長期の資金計画に基づき適切な管理を徹底する。

施設・設備に関しては、県の5ヶ年保全計画に基づく補助金を活用し、受変電設備改修第1期工事、講義棟外屋上防水改修工事設計委託等を行った。今後も、定期的な点検と計画的な修繕・更新により、安全性と機能性を維持し、学内環境の安定に寄与していく。

財務グループは今後も、限られた財源を最大限に活かす工夫をしながら、本学の教育・研究・組織運営を支えていく。

7-4-3 教務学生グループ

教務学生グループは、学部及び大学院の入学試験、入学手続き、入学式及び卒業式、授業料・入学料制度、シラバス、奨学金、教育システムの運用、学生生活の支援、学生及び職員の健康管理に関する業務を行っている。

入学式は、令和7年4月8日(火)に大学内の講堂で行われた。学部の入学生81名、大学院の入学生

31 名に対して、麻原学長から入学許可が行われた。

卒業式は、令和 8 年 3 月 18 日(水)に大学内の講堂で行われた。学部の卒業生 85 名、大学院の修了生 33 名ひとりひとりに、麻原学長から学位記が手渡された。

教育システムの運用では、DB サーバーが EOL（ライフサイクル終了）を迎えることから、令和 8 年 1 月にクラウド環境の再構築を行い、運用の安定化を図った。

学生生活の支援では、円安や資源価格上昇に伴う物価の高騰が学生の生活に影響を与えていることから、学生が安心して修学していけるように、物価高に対する経済対策として、令和 7 年 9 月に学部生 325 名と大学院生（広域看護学コース及び助産学コース）32 名の計 357 名に 2,000 円分の食堂チケットの配布を行った。また、食堂の営業時間中に通学する機会が少ない大学院生（広域看護学コース及び助産学コース以外）48 名に 2,000 円分の QUO カードを配布した。

教務学生グループの業務は、教務関係の各委員会の業務を担っている側面もあるので、業務を通して必要な提案及び執行を行い、大学の諸目標を達成するために尽力していく。

7-5-1 附属図書館

図書館長 福田広美

2025 年度利用者数は、図書館入館者数（延べ人数）18,730 人で昨年度比 964 人減、学外からの利用者数（実人数）434 人で昨年度比 43 人増であった。図書委員会が学外利用者向けに新規に「図書館利用案内」を作成し、富士見が丘地区 237 部、野津原地区 120 部、予防的家庭訪問実習訪問時に学生を介して実習協力者等に 100 部配布した。結果、学外者の来館数が増加したと考えられる。次年度も引き続き学外への広報を行うとともに、雑誌架スペースを活用して学生、教職員を惹きつける企画展示を実施し、図書館利用の拡大を図りたい。

2026 年 4 月 1 日現在の図書等資料蔵書数は以下の通りであった。

蔵書冊数	89,832 冊
所蔵雑誌タイトル数	650 点
電子ジャーナル購読タイトル数	599 点
電子ブック購読タイトル数	15 点
視聴覚資料	2,344 点

このうち、受入図書冊数は 1,526 冊、うち購入数 1,507 冊（昨年度比 130 冊減）、受入雑誌タイトル数は 120 点、うち購入数 97 点（昨年度比 23 点減）であった。受入雑誌タイトルにおける購入数の減少は、外国雑誌購読料高騰に対応するため、また、閲覧利便性を考慮し、冊子体購入の見直しと電子ジャーナルへの移管を進めたことによる。次年度以降も、国内外の購読雑誌について閲覧実績の観察とともに購入パッケージの見直しや購読の是非を検討し、適正な予算運用を図っていく。

7-5-2 看護研究交流センター

センター長 稲垣敦（研究科長）

副センター長 影山隆之

メンバー 樋口幸、草野淳子、定金香里、石田佳代子（以上、推進会議メンバー）、
佐藤愛（専任教員）、神崎純子（事務局）

看護研究交流センターの目的は、本学の教育・研究を通しての地域貢献、地域の看護職者の研究能力の開発と質的向上、並びに看護に関する国際協力・支援の拠点施設としての役割を果たすことである（公立大学法人大分県立看護科学大学看護研究交流センター規程第1条）。また、当センターの分掌事項は、(1)予防的家庭訪問実習の運営、(2)看護職者の研究支援、(3)看護職者を対象とした継続教育、(4)地域、産官学との連携、(5)知的財産の管理、啓発、保護及び活用等、(6)NP(診療看護師)の教育推進と社会貢献、(7)学術ジャーナルの編集・刊行、(8)健康増進に寄与する地域貢献、(9)その他である（公立大学法人大分県立看護科学大学看護研究交流センター規程第3条）。

各チームの活動は各チームから報告に譲るとして、センター全体としては組織の再編を開始し、交流棟の通称を看護研究交流センターとし、健康増進プロジェクトチームの廃止、インターネットジャーナル看護科学研究の廃刊を決定した。

次年度は、NP 教育・事業推進チームの改編について検討する予定である。

7-5-2 1) 地域交流チーム

リーダー 影山隆之

メンバー 荒木章裕、神崎純子、佐藤愛、篠原彩、妻木美香、福田広美

本チームは予防的家庭訪問実習を運営するとともに、おおいた地域連携プラットフォームに対する窓口となり、チーム会議を年 11 回開催した。

今年度も感染症の著しい流行はなかったことから、予防的家庭訪問実習では学生による家庭訪問を、通年実施することができた。このための実習協力者への依頼、実習要項の作成と学生・教員へのオリエンテーション、本実習における感染対策の実施、進行状況の管理（学生・協力者・担当教員の調整）等を行った。ただし全 80 チームに 1 名ずつの協力者を確保することは困難で 66 名の確保にとどまったため、28 の学生チームが 2 つずつ合流して訪問する方式とした。その結果、協力者の同意が得られた場合には、学生数が増えても大きな問題を生じないことが確認できた。このように例年と異なり合同で訪問するチームも存在したが、本実習における学びの評価ではどの学年も 90%以上の A 評価が得られた。そのため、次年度以降もこの方法を部分的に常態化した場合の課題や運営方法について検討した。協力者の居住地域について学生が理解を深められるよう、市の支所長に学生講話を依頼した。年度末には各チームの担当教員が協力者を訪問した。

これらのために、地域ステークホルダーとの運営会議を 2 回開催し、実習報告、地域の状況について

での情報共有、新規協力者開拓のための方法に関する協議等を行った。協力者の確保という点を除けば、実習全体としてはスムーズに進行した。担当教員の役割など、実習運営の細部について改善を検討し、次年度の実習要項を取りまとめた。

おおいた地域連携プラットフォームでは主に地域交流・課題検討部会と教育プログラム開発部会に参加し、県内の高等教育機関・地方自治体・産業界団体と交流・協議を行った。

引き続き感染症対策に留意しつつ予防的家庭訪問実習の活動を継続し、並行して協力者確保の戦略や実習運営方法の改善を検討し続けることが、課題である。

7-5-2 2) 継続教育推進チーム

リーダー 草野淳子

メンバー 後藤成人、堤恒貴、宇留嶋佳子、神崎純子

活動の目的は卒業生、修了生、地域の看護師に教育機関卒業後の看護教育の継続支援を行うこと及び看護師への進路を考慮中の高校生に動機づけをすることである。具体的活動として、医療施設への看護研究支援、看護研究交流会の実施、公開セミナーの実施を行った。

看護研究支援の目的は、地域貢献の一助として、医療施設への看護研究の取り組みを促進することである。2025年度は、6施設（大分県立病院、大分赤十字病院、大分医師会立アルメイダ病院、衛藤病院・えとう内科病院、国立病院機構別府医療センター、国立病院機構大分医療センター）から研究支援の依頼があった。各施設に講師を2～4人派遣し、看護研究支援を実施した。ほとんどの医療施設は「大変満足」という評価であった。来年度もすべての施設が継続支援を希望しているため、継続する予定である。

看護研究交流会の目的は、本学の看護研究支援を実施している医療施設を招集し、各施設に看護研究を行う上での情報を提供し、意見交換を行うことである。7月4日（金）に看護研究交流会をオンラインで実施した。参加施設は、研究支援を行っている6施設であった。教員による質的研究の講義と研究紹介が行われた。協議では、派遣教員も参加して、活発な意見交換が行われた。

参加者は施設側13名、本学関係者32名であった。オンラインによる参加希望が多く、来年度も同様に実施する。

公開セミナーの目的は卒業生、修了生、地域の看護師に教育機関卒業後の看護教育の継続支援を行うこと及び看護師の進路を考慮中の高校生に動機づけをすることである。11月8日（土）に本学NPコース修了者2名の講師を招いて、診療看護師（NP）の活動を紹介した。参加者は41名であり、活発な質疑応答がなされた。来年度は、同窓会総会の年度に当たるため、ホームカミングデイとして行事を行う。

7-5-2 3) 産学官連携推進チーム

リーダー 樋口幸

メンバー 稲垣敦、神崎純子、佐藤愛、佐藤栄治、大東直子、持田恵理

本チームは、県内企業等との共同研究および受託研究の推進を担い、産学官連携を通じて地域企業の活性化に寄与することを目的として活動している。当該年度は、研究シーズの周知強化、学術相談対応の充実、知的財産支援体制の強化を柱とし、共同研究等の創出に向けた基盤整備とマッチング機能の強化に取り組んだ。

本年度の活動実績として、従来の広報活動に加えデジタル広告を導入した結果、研究シーズ集へのアクセス件数は2,554件となり、周知の強化が図られた。また、企業等からの相談対応の利便性向上を目的として問い合わせフォームを整備した。企業等からの学術相談は、アドバイザー対応が2件、相談件数は1件であった。さらに、知的財産アドバイザーによる研修会および相談対応を実施し、相談件数は7件であった。

以上より、研究シーズの周知および知的財産支援体制の強化において一定の成果が得られた。一方で、学術相談件数は限定的であり、共同研究等の創出に向けた課題が残されている。今後は、企業ニーズと研究シーズを結び付けるマッチング機能の強化に取り組み、共同研究や受託研究の具体的な成果創出を目指す。

7-5-2 4) NP 教育・事業推進チーム

リーダー 石田佳代子

メンバー 足立綾、阿部剛、安部涼子、内倉佑介、大島操、甲斐博美、神崎純子、草野淳子

本チームの活動目的は、①NP 実習の充実および特定行為の実習を円滑にするとともにプライマリ NP 教育の質を担保すること、②NP 大学院教育の特徴を社会に向けて発信すること、③大分県地域枠の NP の活動を支援し県内の医療・福祉施設と連携した活動を行うことである。

①について、今年度の重点目標は、NP 実習施設・特定行為実習施設の実習指導者からの意見聴取と改善などであった。近年の実習施設合同会議の参加者数が100名程度となり、意見交換がしにくくなったことや、特定行為に特化した教育に関わる課題などを共有したり協議したりする必要性が高くなったことなどから、特定行為実習施設合同会議を新たに年に1回（7月）行い、実習施設合同会議を年に2回から1回（2月）に変更した。この変更により、各会議の参加者数が昨年度の半数程度となり、昨年度に比べて意見交換が活発になり、改善に向けた流れが出来たと考える。また、NP 教育の質の担保について、昨年度より1年次生の口頭試問を年2回から3回に増やして知識の定着などの強化に努めており、それを今年度も継続した。進級試験と修了試験は例年通りに行い、受験者全員が合格した。修了試験を受験した10名が3月にNP 資格認定試験を受験し、全員が合格した。

なお、特定行為研修管理委員会についても例年通りに年に 2 回開催し、特定行為研修に係る事務局との連携を密に行いながら、当該研修のスムーズな運営に務めた。

②と③について、今年度の重点目標は、診療看護師（NP）の活動紹介による関連施設への理解促進と、学会等における NP 養成の発信などであった。県内からの受験者を増やすためにリクルート活動を行った。また、修了生と大学教員との交流会（2 月、オンラインと対面、参加者 21 名）、NP コース特別選抜受験資格審査合格者との交流会（2 月、オンライン、参加者 10 名）を行った。日本 NP 学会九州地方会の大会長、実行委員を本チームメンバーが務め、シンポジウムで本学大学院教育の特徴などを発信した。このような活動により、ある程度の周知が出来ていると考える。

これまで本チームは、多岐にわたる活動を行ってきたが、NP 研究室の役割と本チームの役割の分担について見直しが必要との意見が出されており、その検討が課題とされてきており急務となっていた。そこで、早い時期からその検討を行い、両者の活動について整理した。教育・事業計画についての企画・運営・評価は、原則として NP 研究室が担い、そのプロセスにおいて支援が必要な事項があれば、NP 研究室の教員がチームメンバーに適宜依頼して協働できるように進めてきた。試験関係の役割分担については、科目に関する試験は各科目責任者が担当すること、中期計画に記載している口頭試問は、NP 資格認定試験に向けての 3P の強化と位置づけて 3P の担当教員と NP 資格保持者が担当すること、入学者の募集に関することは研究科教育研究委員会の所掌とすることなどを、最終案とした。特定行為実習施設合同会議は実習に関わっているメンバーが担当し、NP 実習施設合同会議はチームリーダー（NP 研究室代表者）が担当するなど、各々の目的に応じたメンバーが担当することを提案し、最終案に基づいて次年度のチームメンバーを検討した。NP 研究室の役割と本チームの役割の整理を通じて、具体的な担当者を明確にすることができ、各担当者の役割と権限が明瞭になり、NP コース担当の体制に関する課題が一部解決されたと考える。しかし、診療看護師（NP）を巡る現状は急速に変化していることから、次年度は、NP コースの AP・CP・DP と現状の NP 教育を関連づけて検討し、NP 教育の質を担保するための改善点を明らかにしたうえで取り組んでいきたいと考える。その一案として、本学学部生の特別選抜受験資格審査の受験者を増やすための取り組みを次年度に向けた改善方策の一つとして積極的に行いたいと考える。なお、特定行為レポートについては、特定行為研修管理委員会に提出する前の確認を徹底することとし、その確認方法を本チームあるいは NP 研究室で検討する。

7-5-2 5) 学術ジャーナルチーム

リーダー 定金香里

メンバー 秋本慶子、恵谷玲央、岡田悠希、神崎純子、白川裕子、田中佳子、徳丸由布子、
中釜英里佳、G. T. Shirley（学外）

本チームは、インターネットジャーナル「看護科学研究」の編集事務局として、外部組織である編集委員会の方針に基づき、投稿論文の受付・確認、編集担当委員の選定、査読者・著者・編集担当委員間の連絡、英文校正、編集作業、Web ページの作成、J-STAGE へのデータ登載、運営費の管理等

の業務を担当している。2025 年度は、学術誌の発行業務に加え、受付業務の負担軽減策の検討、および広報活動としてジャーナルの特長を広く周知するための Web サイトの構築・公開を計画した。

活動実績としては、投稿論文の受付、査読、編集作業において計 31 本を担当し、うち 17 本を掲載した。また、Web サイトの公開、受付業務の負担軽減策の検討および実施、執筆要項の APA スタイルへの改訂等を行った。

これらの業務は概ね支障なく進行した。一方で、発行母体である本学の審議会および理事会において本誌の廃刊が決定されたことから、次年度は、令和 7 年度編集委員会で決定した、廃刊に向けた各種対応を実施する予定である。

7-5-2 6) 健康増進プロジェクトチーム

リーダー 稲垣敦

メンバー 荒木章裕、石丸智子、小野治子、甲斐博美、桑野紀子、佐藤愛、篠原彩、秦さと子、田中佳子、濱中良志、樋口幸、堀裕子、水田恵子、森加苗愛、矢野亜紀子

当チームの目的は、本学の教育・研究を通しての地域貢献である（公立大学法人大分県立看護科学大学看護研究交流センター規程第 1 条）であり、分掌事項は、健康増進に寄与する地域貢献である（公立大学法人大分県立看護科学大学看護研究交流センター規程第 3 条）。

社会貢献・地域交流活動として、①横瀬地区社会福祉協議会主催「フリーマーケット」（6/1）、②大分市社会福祉協議会主催「世代間交流健康づくり事業」『スカットボール大会』（7/5、9/6）、③富士見が丘連合自治会主催「夏まつり」（7/19）、④富士見が丘団地わかば老人クラブ主催「わかば会サロン」（9/27）、⑤大分県こころとからだの相談支援センター主催「大分アディクション（依存症）フォーラム」（10/12）、⑥富士見が丘連合自治会主催「体育祭」（10/19）、⑦大分トリニータ「ベガルタ仙台戦」（10/19）、⑧野津原商工会・大分市主催「ななせの里まつり」（11/2）、⑨九州陸上競技協会・大分県・大分県教育委員会・別府市・別府市教育委員会・大分市・大分市教育委員会・毎日新聞社・RKB 毎日放送・OBS 大分放送主催「別府大分毎日マラソン」（2/1）、⑩富士見が丘連合自治会・大分市主催「森林探検ウォーキング」（3/28）の 10（11 回）のイベントで学生延べ 233 名と共にイベントの運営や健康・体力チェック等の活動を行ない、本学の学外 HP、Facebook、Instagram に活動について掲載した。以上の活動により、第 4 期中期計画の評価指標【14】-2「県民の健康増進に資する活動の実施回数：年 5 回以上（第 4 期中毎年度）」は達成した。なお、大分県教育委員会・大分県スポーツ協会主催「総合型地域スポーツクラブ交流会」は主催者側の都合で、また、河川協力団体ななせ交流会主催「親子凧あげ大会」は本学の看護学実習のために中止となった。

当プロジェクトは開学の翌年 1999 年に野津原プロジェクトとして教員有志によって組織されたが、当初の目的を達成したことから、今後、時代にあった事業を開始するために、今年度をもって廃止となった。

第 4 期中期計画の【14】大分県民の健康増進に「公開講座、健康教室、健康相談、健康チェック等、県民の健康増進に資する活動を実施する。」とあり、これを達成するための次年度の具体策は、「県

民の健康増進に資する活動を5回以上実施する（具体的なイベント名は割愛）。」である。次年度は健康運動学研究室と看護研究交流センターの地域交流チームが中心となって自治体等と連携し、学生と教員が協力して、地域イベントの運営協力や出前健康・体力チェック等の活動を継続する。

7-5-2 7) 知的財産本部

本部長 稲垣敦

本部長 樋口幸、佐藤栄治、阿部剛、大東直子（事務局）

知的財産本部の目的は、本学における発明等の研究成果の管理を行うとともに、これらの研究成果を法人の知的財産として保護育成及び活用することにより、社会の発展に寄与することを目的としており（公立大学法人大分県立看護科学大学知的財産本部規程第1条）、分掌事項は、(1)知的財産の管理に関すること、(2)知的財産の普及及び啓発に関すること、(3)知的財産の権利化に関すること、(4)知的財産の保護及び活用に関すること、(5)技術移転事業者その他の関係者との連携に関すること、(6)利益相反及び責務相反に関すること、(7)その他知的財産に関すること、である（公立大学法人大分県立看護科学大学知的財産本部規程第3条）。なお、本部の下に、発明審査委員会と利益相反委員会を設置している。

第4期中期計画【17】産学官連携の推進の中に「県内企業や行政との共同研究、受託研究を推進する。知的財産の管理や活用、共同研究の促進のための組織や仕組みを確立する。」という目標があり、これを推進するために、看護研究交流センターの産学官連携推進チームが中心となり、学術相談員取扱規程・学術相談約款を策定し、6月18日（水）の理事会・経営審議会で承認され、学術相談を開始した。また、利益相反に関する申告については、第4回役員会（4月30日）で利益相反委員会委員長に検討を指示した。

次年度は令和9年度から利益相反に関する申告の実施を目指し、利益相反委員会が策定した申告方法を教育研究審議会及び理事会に諮る。

8 名簿

8-1 役員

理事長（学長）		麻原 きよみ	
理事	事務局長	阿部 剛	
理事	学部長	福田 広美	
理事	研究科長	稲垣 敦	
理事（非常勤）	大分大学医学部附属病院長	井原 健二	
理事（非常勤）	大分県立病院長	宇都宮 徹	
理事（非常勤）	富士甚醤油(株) 代表取締役社長	渡邊 規生	
監事（非常勤）	公益財団法人認知症の人と家族の会		
	大分県支部 代表	中野 洋子	
監事（非常勤）	公認会計士	福田 安孝	R7.8.31 退任
監事（非常勤）	公認会計士・税理士	村松 政幸	R7.9.1 就任

8-2 審議会委員

経営審議会

学内委員	理事長	麻原 きよみ	
学内委員	理事	福田 広美	
学内委員	理事	稲垣 敦	
学内委員	理事	阿部 剛	
学外委員	理事（非常勤）	井原 健二	
学外委員	理事（非常勤）	宇都宮 徹	
学外委員	理事（非常勤）	渡邊 規生	
学外委員	弁護士	千野 博之	
学外委員	日本文理大学学長室長	吉村 充功	
学外委員	大分合同新聞社取締役	小田 圭之介	
学外委員	大分県看護協会長	大戸 朋子	R7.6.30 退任
学外委員	大分県看護協会長	玉井 保子	R7.7.1 就任

教育研究審議会

学内委員	学長	麻原 きよみ
学内委員	学部長	福田 広美
学内委員	研究科長	稲垣 敦
学内委員	事務局長	阿部 剛
学内委員	生体科学教授	濱中 良志

学内委員	生体反応学教授	吉田 成一
学内委員	人間関係学教授	関根 剛
学内委員	環境保健学准教授	小嶋 光明
学内委員	健康情報科学教授	佐伯 圭一郎
学内委員	言語学准教授	宮内 信治
学内委員	基礎看護学教授	秦 さと子
学内委員	看護アセスメント学教授	石田 佳代子
学内委員	成人看護学教授	古賀 雄二
学内委員	老年看護学教授	小野 美喜
学内委員	小児看護学教授	草野 淳子
学内委員	母性看護学教授	濱 耕子
学内委員	助産学教授	梅野 貴恵
学内委員	精神看護学教授	影山 隆之
学内委員	N P 講師	甲斐 博美
学内委員	社会看護学教授	持田 恵理
学内委員	地域看護学教授	川南 公代
学内委員	国際看護学教授	桑野 紀子
学外委員	大分大学名誉教授	津村 弘

8-3 教職員

8-3-1 専任教員

生体科学	教授	濱中 良志	
	助教	坪内 優太	
生体反応学	教授	吉田 成一	
	准教授	定金 香里	
健康運動学	教授	稲垣 敦	
人間関係学	教授	関根 剛	R8.3.31 退職
	准教授	吉村 匠平	
	非常勤助手	秋本 慶子	
環境保健学	准教授	小嶋 光明	
	准教授	恵谷 玲央	
健康情報科学	教授	佐伯 圭一郎	R8.3.31 退職
	准教授	品川 佳満	
	助教	岡田 悠希	
言語学	准教授	宮内 信治	
基礎看護学	教授	秦 さと子	
	准教授	石丸 智子	
	助教	田中 佳子	
	臨時助手	神矢 恵美	
	臨時助手	城井 理美	R8.1.31 退職
	教授	石田 佳代子	
看護アセスメント学	講師	三苫 美和	R7.4.1 採用
	助教	安部 涼子	R7.4.1 採用
	助教	内倉 佑介	
	教授	古賀 雄二	
	准教授	森 加苗愛	R7.6.30 退職
	講師	佐藤 栄治	
成人看護学	助教	水田 恵子	
	助教	井上 陽士	R7.4.1 採用
	臨時助手	森崎 久美	
	教授	小野 美喜	
	准教授	堀 裕子	
	学内講師	中釜 英里佳	
小児看護学	教授	草野 淳子	
	講師	足立 綾	

母性看護学	助手	堤 恒貴		
	教授	濱 耕子		
	講師	永松 いずみ		
助産学	助教	徳丸 由布子		
	教授	梅野 貴恵	R8.3.31	退職
	准教授	樋口 幸		
精神看護学	助教	姫野 綾		
	臨時助手	宇留嶋 佳子		
	教授	影山 隆之	R8.3.31	退職
NP	准教授	杉本 圭以子		
	学内講師	後藤 成人		
	講師	甲斐 博美		
	講師	西田 裕子	R7.10.1	採用
	非常勤助手	大島 操		
	非常勤助手	濱本 房子	R7.4.1	採用
看護管理学			R7.9.30	退職
	教授	福田 広美		
	准教授	荒木 章裕		
社会看護学	助教	矢野 亜紀子		
	助教	大矢 七瀬	R7.4.1	採用
	教授	持田 恵理	R7.4.1	採用
地域看護学	教授	川南 公代	R8.3.31	退職
	准教授	小野 治子		
	講師	首藤 佐織	R7.4.1	採用
	助教	妻木 美香	R8.3.31	退職
	臨時助手	阿万 貴子	R7.7.1	採用
			R8.3.31	退職
国際看護学	教授	桑野 紀子		
	学内講師	篠原 彩		
看護研究交流センター	助教	佐藤 愛		

8-3-2 就職相談員

就職相談員	藤川 桂子
-------	-------

8-3-3 非常勤講師（学部）

小川 伊作	音楽とこころ
澤田 佳孝	美術とこころ
Gerald Thomas Shirley	英語Ⅰ-B1、英語Ⅰ-B2、英語Ⅱ-B1、英語Ⅱ-B2 国際看護学演習
木村 淳也	言語表現法
黄 昞峻	韓国語
平野 互	哲学入門
大杉 至	社会学入門
佐々木淳夫	法学入門（日本国憲法）
足立 恵理	文化人類学入門
松本 昂	微生物免疫論
蘆野 嘉厚	応用生体機能病態論
林 猪都子	母性看護学概論
松 久美	災害看護学
麻生 良太	教職概論、教育方法論
堀本 フカエ	教職概論
横山 秀樹	教職概論
鈴木 篤	教育学概論、道徳、総合的な学習及び特別活動
藤村 晃成	生徒指導
飯田 法子	教育相談
河野 伸子	教育相談
中島 暢美	教育相談
藤田 文	学校教育心理学
今井 航	教育課程論、教育制度論
手嶋 康深	学校保健学
大渡 文子	学校保健学
古賀 精治	特別支援教育論

8-3-4 非常勤講師（大学院）

伊東 朋子	基盤看護学演習
藤内 美保	NP 特論
庄山 由美	NP 特論
上野 聖子	NP 特論、プライマリ NP 演習
岩崎 正和	プライマリ NP 演習
小野 智佳子	プライマリ NP 演習
清原 小百合	プライマリ NP 演習
廣田 真里	プライマリ NP 演習
光根 美保	プライマリ NP 演習
徳永 尚子	プライマリ NP 演習、医療安全実践演習
後藤 愛	NP 実践特論
管谷 愛美	NP 実践特論
高根 利依子	NP 実践特論
伊東 弘樹	臨床薬理学特論
田中 遼大	臨床薬理学特論
吉川 直樹	臨床薬理学特論
松本 康弘	臨床薬理学演習
高木 繁薫	臨床薬理学演習
佐藤 博	医療安全実践演習
田村 委子	医療安全実践演習
古川 雅英	医療安全実践演習
松 久美	医療安全実践演習
山本 真	医療安全実践演習
平井 健一	医療安全実践演習
大谷 清太郎	医療安全実践演習
黒澤 慶子	医療安全実践演習
一万田 正彦	老年疾病特論
糸永 一朗	老年疾病特論
小坂 聡太郎	老年疾病特論
木村 成志	老年疾病特論
財前 博文	老年疾病特論
佐分利 能生	老年疾病特論
塩月 成則	老年疾病特論
加隈 哲也	診察診断学特論
中村 雄介	診察診断学特論
安東 優	診察診断学特論

永瀬 公明	診察診断学特論
長濱 明日香	診察診断学特論
西水 翔子	診察診断学特論
藤谷 直明	診察診断学特論
別府 幹庸	診察診断学特論
溝口 博本	診察診断学特論
宮崎 英士	診察診断学特論
宮川 ミカ	老年アセスメント学演習
立川 洋一	老年アセスメント学演習
原 卓也	小児疾病特論、小児アセスメント演習
飯田 浩一	周産期特論
後藤 清美	周産期特論
小山 尚子	周産期特論
豊福 一輝	周産期特論
佐藤 昌司	周産期特論、周産期診断技術演習
井上 祥明	母子成育支援特論
上野 桂子	母子成育支援特論
佐藤 敬子	母子成育支援特論
平野 互	母子成育支援特論、看護倫理学特論
宇津宮 隆史	リプロダクティブ・ヘルス特論
竹内 正久	リプロダクティブ・ヘルス特論
花田 克浩	リプロダクティブ・ヘルス特論
穴井 麻友美	リプロダクティブ・ヘルス特論
平川 八大	リプロダクティブ・ヘルス特論
豆田 ちかの	分娩期診断技術特論
生野 末子	分娩期診断技術特論、助産マネジメント論、 助産マネジメント演習
中島 洋子	ウイメンズヘルス特論
安部 真紀	助産マネジメント論、助産マネジメント演習
戸高 佐枝子	助産マネジメント論
飯田 育子	地域母子保健学特論、広域看護展開特論
内藤 文子	地域母子保健学特論、広域看護展開特論
藤井 涼子	広域看護展開特論
川崎 涼子	広域看護学概論Ⅰ
藤内 修二	広域看護学概論Ⅰ、疾病予防学特論
高波 利恵	産業保健特論
吉田 愛	産業保健特論

本山 秀樹	健康危機管理論
藤野 里紗	広域看護アセスメント学演習
池邊 淑子	疾病予防学特論
三浦 源太	疾病予防学特論
井上 真	薬剤マネジメント特論
黒川 竜紀	病態生理学特論
黒木 雪絵	フィジカルアセスメント学特論
大田 えりか	看護科学研究、健康科学研究特論
甲斐 仁美	看護管理学特論
山崎 清男	看護教育学特論
竹村 陽子	看護コンサルテーション論
小池 智子	看護政策論
小山 秀夫	看護政策論
立森 久照	看護政策論
中西 三春	看護政策論
Gerald Thomas Shirley	英語論文作成概論
安部 眞佐子	健康増進科学特論、健康増進技術演習、妊娠期診断技術特論

8-3-5 事務職員

総務グループ	局長	阿部 剛	R8.3.30	退職
	主幹	川島 貴博		
	主任	安部 翼		
	主任	大東 直子	R7.4.1	転入
	事務員	小野 優子	R7.4.1	採用
	事務員	花木 真弓		
	事務員	木村 水紅		
国際交流アドバイザー				
Gerald Thomas Shirley				
知的財産アドバイザー				
財務グループ		松下 幸之助		
	主幹	小野 逸郎	R8.3.31	転出
	副主幹	小野 育子	R7.4.1	転入
	主査	久保 紘子	R7.12.31	退職
	主任	宇田 繭	R7.4.1	採用
教務学生グループ	事務員	岸田 美由紀		
	副主幹	吉野 美穂		
	副主幹	神崎 正太		
	主査	北村 卓也	R7.4.1	転入
	主事	葛城 奈穂	R8.3.31	転出
	事務員	久保 友恵		
	保健室職員	時松 美香		
図書館管理グループ	サブリーダー	白川 裕子		
	非常勤司書	中野 智子	R8.3.31	退職
	非常勤司書	甲斐 史織		
看護研究交流センター	事務員	神崎 純子		